日田市埋蔵文化財調査報告書第109集

# 長迫遺跡Ａ地点

長迫遺跡Ａ地点
日田市埋蔵文化財調査報告書第109集
2013年
日田市教育委員会

2013年

日田市教育委員会

長迫遺跡全景（画面上が南東）

長迫遺跡Ａ地点　主要遺構部分（画面上が南東）

# 序　　文

大分県日田市は、市街地の広がる小さな盆地を中心として、それを取り囲む山林が市域の82.9%を占める山間都市です。この地形的特性を生かした林業は「日田杉」というブランドを確立し、近代以降の日田の経済を支えてまいりました。しかし20世紀末に訪れたバブル崩壊により当市の林業も危機に瀕すこととなりました。そのような中で郷土の基幹産業を守るべく計画されたウッドコンビナート（日田高度総合木材加工団地）は、現在では日田の木材の一大集積地としての機能を担うとともに、敷地内の一角では、間伐材や建設廃材などの木屑を燃料とする国内最大級の木質バイオマス発電施設も稼動し、産業の発展と環境保全の両立を推進しております。

本書はこのウッドコンビナート建設事業に伴いまして発掘調査を実施した有田塚ヶ原遺跡群のひとつ、長迫遺跡（Ａ・Ｂ地点）のうちＡ地点についての調査内容をまとめたものです。この調査では、古墳時代から奈良・平安時代に谷の傾斜地を切り開いて営まれた集落が見つかっています。

貴重な遺跡の調査内容をまとめました本書が、文化財の保護や地域の歴史などの普及啓発に、また学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました地権者および関係者の方々、そして寒暖なく作業に従事いただきました地元の皆様方に対して、心から厚くお礼を申し上げます。

平成25年３月

日田市教育委員会

教育長　合原　多賀雄

# 例　　言

1. 本書は、市林政課（現、林業振興課）が計画・実施したウッドコンビナート建設推進事業に先立ち、平成６年度～９年度に市教育委員会が実施した有田塚ヶ原遺跡群発掘調査のうち、平成８～９年度に実施した長迫遺跡（Ａ・Ｂ地点）のＡ地点の内容をまとめた発掘調査報告書であり、ウッドコンビナート建設推進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の８冊目にあたる。Ｂ地点の内容および長迫遺跡（Ａ・Ｂ地点）のまとめについては、別途報告予定である。
2. 調査にあたっては、市林政課（当時）、地権者、工事関係者、大分県教育委員会および地元の方々にご協力をいただいた。
3. 本書に掲載した遺構実測は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託したほか調査担当者が行い、製図は雅企画有限会社に委託したものや江藤・武石の協力を得たもののほか調査担当者が行った。
4. 本書に掲載した遺物実測および製図は、雅企画有限会社に委託したほか、調査担当者が行った。
5. 空中写真撮影は株式会社スカイサーベイに委託し、その成果品を使用した。
6. 遺物の写真撮影は有限会社雅企画および株式会社九州文化財総合研究所に委託し、その成果品を使用したもののほか、若杉が行った。
7. 挿図中の方位はすべて磁北であり、文中の方位角も磁北で示している。
8. 出土遺物および図面・写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 本書の執筆・編集は行時桂子が行った。

日田市の位置

# 本　文　目　次

Ⅰ　はじめに …… 1
（1）調査に至る経過 …… 1
（2）長迫遺跡の調査 …… 3
（3）調査組織 …… 4
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 5
Ⅲ　調査の内容 …… 10
（1）調査の概要 …… 10
（2）遺構と遺物 …… 10
1）竪穴建物跡 …… 10
2）掘立柱建物跡 …… 39
3）井戸 …… 45
4）土坑 …… 45
5）溝 …… 48
6）その他の遺物 …… 52
（3）小結 …… 52

# 挿　図　目　次

第１図　ウッドコンビナート計画位置図（1/15,000）…… 1
第２図　ウッドコンビナート計画地（1期工事）遺跡位置図（1/10,000） …… 2
第３図　周辺遺跡分布図（1/20,000） …… 6
第４図　Ａ・Ｂ地点全体図（1/800） …… 7～8
第５図　Ａ地点遺構配置図（1/400） …… 9
第６図　1・2号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 11
第７図　3・4号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 13
第８図　5号竪穴建物跡実測図（1/80） …… 14
第９図　5号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4） …… 15
第10図　6号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 16
第11図　7・8号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 17
第12図　9号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 18
第13図　10号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 19
第14図　11～13号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 20
第15図　14・15号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4） …… 21
第16図　16・17号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4） …… 23
第17図　18・19号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4） …… 24
第18図　20・21号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4） …… 25
第19図　22-1～3・23号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4） …… 27
第20図　24・25号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4） …… 28
第21図　26・27号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4） …… 30

第22図　28・29号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図
（1/80、1/40、1/4）…… 31
第23図　30～33号竪穴建物跡、出土遺物実測図
（1/80、1/4）…… 33
第24図　34～37号竪穴建物跡、出土遺物実測図
（1/80、1/4）…… 35
第25図　38号竪穴建物跡、出土遺物実測図
（1/80、1/4）…… 36
第26図　39～41号竪穴建物跡、出土遺物実測図
（1/80、1/4）…… 37
第27図　42・43号竪穴建物跡、出土遺物実測図
（1/80、1/4）…… 39
第28図　44～47号竪穴建物跡、出土遺物実測図
（1/80、1/4）…… 40
第29図　1～3号掘立柱建物跡実測図（1/80）…… 42
第30図　4・5号掘立柱建物跡実測図（1/80）…… 43
第31図　6・7号掘立柱建物跡実測図（1/80）…… 44
第32図　1・2号井戸実測図（1/80）…… 45
第33図　土坑実測図①（1/40）…… 49
第34図　土坑実測図②（1/80）…… 50
第35図　土坑実測図③（1/80）…… 51
第36図　土坑出土遺物実測図（1/4）…… 52
第37図　鉄製品・鉄生産関連遺物・石製品・石器実測図
（1/2、1/3）…… 53
第38図　石器実測図（1/2、1/3）…… 54

# 表　目　次

第１表　ウッドコンビナート建設に伴う有田塚ヶ原遺跡群の調査および関連文献表 …… 2
第２表　土器観察表① …… 55
第３表　土器観察表② …… 56
第４表　鉄製品・鉄生産関連遺物観察表 …… 57
第５表　石器・石製品観察表 …… 57

# 写　真　目　次

巻頭写真図版　長迫遺跡全景（画面上が南東）
長迫遺跡Ａ地点　主要遺構部分
（画面上が南東）
写真図版１　長迫遺跡全景（南から）
写真図版２　1 ～ 4 号竪穴建物跡、8 号土坑
写真図版３　5 ～ 8 号竪穴建物跡
写真図版４　9 ～ 13 号竪穴建物跡
写真図版５　14 ～ 17 号竪穴建物跡、19 号土坑
写真図版６　17 ～ 21 号竪穴建物跡
写真図版７　20 ～ 24 号竪穴建物跡、3 号掘立柱建物跡、
15 号土坑
写真図版８　24 ～ 27 号竪穴建物跡、2 号掘立柱建物跡、
5・17 号土坑
写真図版９　27 ～ 38 号竪穴建物跡、5・17 号土坑
写真図版 10　32 ～ 38 号竪穴建物跡
写真図版 11　38 ～ 43・45 ～ 47 号竪穴建物跡、
1・3 号掘立柱建物跡
写真図版 12　4・5 号掘立柱建物跡、
1・2・5 ～ 7・10・11・17 号土坑
写真図版 13 ～ 18　出土遺物

# Ⅰ　はじめに

## （１）調査に至る経過

長迫遺跡はウッドコンビナート（日田高度総合木材加工団地）建設地内で確認された遺跡である。

ウッドコンビナート事業は、日田市の基幹産業である林業の長期不況等の諸問題を打開し、また大分県が県西部の林業・木材産業の活性化を目指し策定したグリーンポリス構想に基づき、木材供給基地として日田市に計画されたもので、平成５年度には日田市役所内にウッドコンビナート推進室が設置され、平成７年度から平成10年度までの４年間を第１期とする、開発面積677,315㎡もの広大な面積の建設工事が進められることとなった。

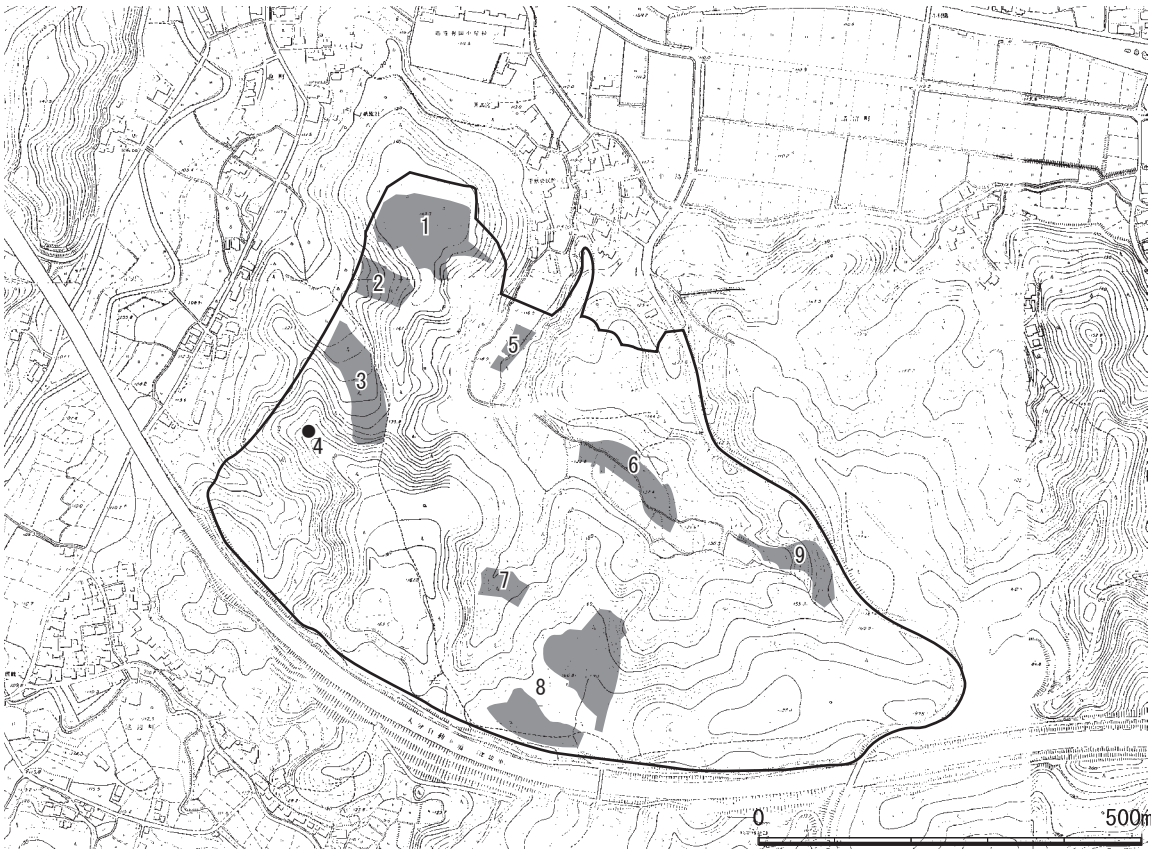
この工事着手に先立ち、平成６年度より予定地内の分布調査および試掘調査を実施し、７ヶ所で遺跡の存在が確認されたことから、これらの取扱いについて事業主体であるウッドコンビナート推進室と協議を行い、その結果これらは有田塚ヶ原遺跡群として、用地買収や樹木の伐採が終了した場所から随時発掘調査を行うこととなった。平成７年２月の平島横穴墓群の調査開始に始まり、石ヶ迫遺跡Ａ・Ｂ地区、クビリ遺跡、有田塚ヶ原遺跡、祇園原遺跡、尾漕２号墳、長迫遺跡の順に進め、平成９年７月には尾漕２号墳と長迫遺跡の調査終了をもって現地でのすべての作業を完了した。整理作業は平成７年度から現在まで断続的に行い、平成15年度から調査報告書を順次発行している。

なお、有田塚ヶ原遺跡群として調査を行った遺跡とその関連文献については次頁の表のとおりである。

第１図　ウッドコンビナート計画位置図（1/15,000）

第１表　ウッドコンビナート建設に伴う有田塚ヶ原遺跡群の調査および関連文献表

| 調査年度 | 遺跡名 | 関連文献名 | 報告書 |
|---|---|---|---|
| 平成６～７年度 | 平島横穴墓群 | 行時志郎他 /「5　平島横穴墓群」『平成６年度（1994 年度）日田市埋蔵文化財年報』/ 日田市教育委員会 /1996 年<br>行時志郎他 /「2　平島横穴墓群（ＨＳＹ）」『平成７年度（1995 年度）日田市埋蔵文化財年報』/ 日田市教育委員会 /1997 年 | 未報告 |
| 平成７年度 | 石ケ迫遺跡Ａ・Ｂ地区 | 行時桂子 /『石ヶ迫遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第 49 集 / 日田市教育委員会 /2004 年 | 報告済 |
| 平成７年度 | クビリ遺跡 | 行時桂子 /『クビリ遺跡・有田塚ヶ原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第 58 集 / 日田市教育委員会 /2005 年 | 報告済 |
| 平成７年度 | 有田塚ヶ原遺跡 | 行時桂子 /『クビリ遺跡・有田塚ヶ原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第 58 集 / 日田市教育委員会 /2005 年 | 報告済 |
| 平成７～８年度 | 祇園原遺跡 | 行時桂子 /『祇園原遺跡Ⅱ（弥生・古墳時代遺構編）』日田市埋蔵文化財調査報告書第 81 集 / 日田市教育委員会 /2007 年<br>行時桂子 /『祇園原遺跡Ⅱ（弥生・古墳時代遺物編）』日田市埋蔵文化財調査報告書第 87 集 / 日田市教育委員会 /2008 年<br>行時桂子 /『祇園原遺跡Ⅱ（近世墓編 1）』日田市埋蔵文化財調査報告書第 96 集 / 日田市教育委員会 /2010 年<br>渡邉隆行他 /『祇園原遺跡Ⅱ（近世墓編 2）』日田市埋蔵文化財調査報告書第 101 集 / 日田市教育委員会 /2011 年 | 報告済 |
| 平成８～９年度 | 尾漕２号墳 | 行時桂子 /『尾漕２号墳』日田市埋蔵文化財調査報告書第 69 集 / 日田市教育委員会 /2006 年 | 報告済 |
| 平成８～９年度 | 長迫遺跡Ａ・Ｂ地点 | 行時志郎 /「7　長迫遺跡（ＮＳＫ）」『平成８年度（1996 年度）日田市埋蔵文化財年報』/ 日田市教育委員会 /1998 年　行時志郎他 /「2　長迫遺跡Ａ・Ｂ地点（ＮＳＫ - Ａ・Ｂ）」『平成９年度（1997 年度）日田市埋蔵文化財年報』/ 日田市教育委員会 /1999 年 | 本報告（Ａ地点） |
| - | 有田塚ヶ原遺跡群全般 | 『有田塚ヶ原遺跡群』（概要報告）/ 日田市教育委員会 /1999 年 | - |




1. 祇園原遺跡　2. 長迫遺跡Ｂ地点　**3. 長迫遺跡Ａ地点**　4. 尾漕２号墳　5. 石ケ迫遺跡Ａ地区
6. 石ケ迫遺跡Ｂ地区　7. クビリ遺跡　8. 有田塚ヶ原遺跡　9. 平島横穴墓群

第２図　ウッドコンビナート計画地（1 期工事）遺跡位置図（1/10, 000）

## （２）長迫遺跡の調査

長迫遺跡は、求来里川沿いに広がる沖積地から、東部丘陵に向かって入り込む二股に分岐した谷一帯に立地する。調査前のこの一帯は杉林で覆われていたが、それ以前は畑として利用されていたようであり、斜面と谷の間には排水用の側溝が設けられていた。

遺跡は調査地点が二つの谷に分かれることから、便宜上南側の谷をＡ地点、北側の谷をＢ地点とした。Ａ地点の調査範囲は、谷の最も広いところで幅約45m、谷の出口に近い調査区西端から谷の奥までが約150mを測る。遺構検出面における標高は122～134mで、谷奥から谷の西側に向かって緩やかに傾斜し、調査区の中央付近で緩やかにカーブしている。一方Ｂ地点の谷は谷の出口付近の最大幅は約45m、調査区西端から谷奥までの距離は約80mを測る。谷の長さはＡ地点に比べて短いが、谷奥の最高所と調査区西端の出口付近での標高差はＡ地点とほとんど変わらず、勾配はＡ地点に比べて急傾斜である。

表土除去作業はＡ地点の奥から進めていき、Ａ地点が終わり次第Ｂ地点の表土除去作業に移行した。調査区西側の調査区外は民有地・市道用地であったため、表土は調査の終了した祇園原遺跡があった丘陵まで大型のキャリーで運搬せざるを得なかった。両地点とも谷奥側の表土は浅かったものの下るにつれて深くなり、調査区西端では遺構検出面まで深さ１m以上となった。遺構検出面の地山は全体的に暗褐色の粘質土を呈していたが、谷奥では凝灰岩の岩盤に近い茶灰色を呈し、遺構も確認されないことから、近年の植林により削平を受けていたことがわかった。バックホウによる表土除去後は手作業で遺構検出作業を進めていった。この間に基準点を設置し、遺構が確認できた段階で遺跡全体の写真撮影と全体図作成を行い、各遺構の掘り下げを進めていった。掘り下げ作業はＡ地点より行い、個別遺構の実測・写真撮影を並行しながらＢ地点の調査に移っていったが、工事の都合上尾漕２号墳の調査も同時に行うこととなったため、実測作業を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

５～６月は大雨で幾度も調査区が水没し、その間排水作業等にも手をとられて時間を要したが、６月21日には尾漕２号墳と合わせて現地説明会を開催し、７月24日には現地でのすべての作業が完了して調査を終えた。調査の主な流れは以下のとおりである。

平成８年度／12月16日～平成９年１月24日　重機による表土除去（Ａ・Ｂ地点）
12月24日～25日　県教委職員による調査協力
平成９年１月31日　Ａ地点遺構検出開始
２月14日～24日　長迫遺跡Ａ・Ｂ地点、尾漕２号墳の基準点設置
２月20日　Ｂ地点遺構検出開始
２月21日～３月28日　遺構実測委託
３月11日～28日　この間に調査の進捗に合わせて県教委職員による調査協力
平成９年度／５月31日　佐々木章氏（大分短期大学教授）プラント・オパール試料採集
６月16日　小田富士雄氏（福岡大学教授）来訪
６月21日　尾漕２号墳・長迫遺跡現地説明会開催
６月30日　渋谷忠章氏（大分県文化課主幹）来訪
７月４日　空中写真撮影
７月９日～７月22日　遺構実測委託
７月24日　機材撤収、現地での調査終了

※上記のほか、平成10年度には出土した鉄滓の分析を九州テクノリサーチ　TACセンターに委託した。

### （３）調査組織

発掘調査から報告書作成までの関係者は以下のとおりである（職名は当時のまま）。

平成８・９年度／発掘調査・整理作業（整理作業は平成８～23年度の間断続的に実施）

調査主体　日田市教育委員会　／　調査責任者　加藤正俊（日田市教育委員会教育長）

調査協力　江田豊・吉田博嗣（大分県教育委員会文化課）

調査事務　原田俊隆（日田市教育委員会文化課長）、長尾幸夫（同課長補佐兼文化財係長）
森山一宏（同主任）、衛藤和美（H8のみ）・竹原里香（同臨時職員）

調査担当　行時志郎（同主任）、松下桂子（同主事）、森山敬一郎（同嘱託）

調査員　土居和幸（同主任）、吉田博嗣（同主事／H9）、永田裕久（同主事補）

発掘作業員　穐本　進、穐本文雄、秋ヤエ子、秋吉ミユキ、安達義男、穴見基彦、池田智之
諫山豊吉、諫山三代子、石井貞美、石井ツヤ子、石田スズ子、伊藤キヨ子、伊藤　圭
井上雄一、猪熊スミ子、猪熊忠孝、猪熊　誠、猪熊ヨネ、宇野里紗、梅見雅之
江藤勝義、江藤キミ子、荏隈香苗、荏隈キミエ、荏隈典子、荏隈マサ子、荏隈政子
大内史絵、大口友里子、小田友和、小野多美子、鍛冶谷アサヨ、鍛冶谷節子、梶原聖子
梶原シゲ子、梶原利徳、梶原朋子、梶原寛介、鎌倉　章、河津雅寛、北澤幾子
木下富三郎、熊谷雄介、黒木智典、牛王克彦、五島勇美子、五反田静子、後藤　圭
後藤祐司、財津勲子、財津静子、財津真弓、財津利枝、財津由太、酒井光敏、坂本智子
坂本則子、佐竹俊介、佐藤カスミ、島田隆幸、清水孝明、清水忠造、下隈久司
庄内武子、菅田クマエ、菅田三郎、菅田初夫、菅田ミヤ子、園田光子、園田義雄
高倉厚巳、高倉ハナ子、高倉秀雄、高倉冨美子、高倉美津子、高倉美利、高瀬一邦
武内アイ子、田中　舜、津江久徳、手嶋七郎、出野　梢、豊田愛子、中島カズ子
中島トミエ、中野哲朗、中野ヨシ子、野内太一郎、長谷部喜吉、林　健二、樋口恭子
樋口達人、樋口タニ子、藤原亜衣、堀尾保志、前　善知、松岡初次、松岡弘子
松竹智之、松本トキエ、三俣敦史、宮崎正勝、毛利泰雄、森山拓也、森山奈美江
矢幡芳樹、横尾久美子、吉長澄江、吉長ハルエ、渡邊芳五郎

整理作業員　穴井こずえ、穴井トヨ子、石田紀代子、石松裕美、伊藤一美、井上とし子、宇野富子
宇野理紗、荏隈香苗、大口友里子、小埜和美、鍛冶谷節子、梶原聖子、梶原ヒトエ
川原君子、河原直美、黒木千鶴子、桑野菊美、財津真弓、酒井貴代美、坂口豊子
坂本和代、坂本智子、坂本則子、相良由香、佐藤みちこ、佐藤美和、澁谷美智子
武石和美、田中静香、田中真央、出野　梢、豊田愛子、中川照美、中原琴枝、樋口恭子
聖川暢子、平川優子、藤原亜衣、松岡弘子、三浦陽子、溝口さや香、森山奈美江
安元百合、横尾久美子、吉田千津子、和田ケイ子

平成24年度／報告書作成

調査主体　日田市教育委員会　／　調査責任者　合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）

調査事務　財津俊一（日田市教育庁文化財保護課長）、土居和幸（同埋蔵文化財係長）
華藤善紹（同副主幹）、井上和泉（同主査）

報告書担当　行時桂子（同主査）

報告書作成協力　江藤由季（日田市教育庁文化財保護課臨時職員）、武石和美（同整理作業員）

## Ⅱ　遺跡の立地と環境

大分県西部、筑後川上流域に位置する日田市は、標高80m前後の沖積地に広がる市街地の周囲を標高約150mの阿蘇溶岩台地が巡り、その外周に標高200～600mの耶馬溪溶岩台地が、市の境界域には700～1,000m級の山々が連なって盆地の景観を形成する。この山々を源とする大小の河川は溶岩台地の合間を縫って沖積地へ流れ込み、南流する花月川や西流する玖珠川などが合流して筑後川となり有明海へ注ぐ。

長迫遺跡のある有田塚ヶ原遺跡群は盆地東部の大字有田・東有田に属し、花月川支流の有田川と求来里川が合流する東側に立地する。有田地域はいわゆる「盆地」内とは文化圏を異にし、近世期日田盆地が江戸幕府の直轄地であった頃には東隣の森藩（玖珠）領となっていた地域である。有田塚ヶ原遺跡群の各遺跡は阿蘇溶岩台地を中心に立地し、全体的には急な斜面部が多く見られる。このような遺跡の立地条件は盆地周辺部では一般的であり、台地上には弥生時代などの古い集落や古墳が造られ、時代が下がるにつれて谷部や小沖積地などに集落が広がっていく傾向がある。長迫遺跡はこのような地勢の谷部斜面に営まれている。

この有田塚ヶ原遺跡群では本報告のほかに、鉄器や装身具類など多数の副葬品が出土した大規模な墓地である平島横穴墓群（29）、縄文時代早期の集石と古墳時代～古代の集落跡が見つかった石ヶ迫遺跡Ａ・Ｂ地区（27・28）、古代の鍛冶に関する遺構・遺物が出土したクビリ遺跡（31）、縄文時代の落し穴と古代の建物群が見つかった有田塚ヶ原遺跡（32）、弥生～古墳時代の集落跡と50基を超える近世墓群からなる祇園原遺跡（25）、凝灰岩の箱式石棺を主体部とする古墳時代中期の円墳である尾漕２号墳（30）が調査されている。

有田塚ヶ原遺跡群のある有田地区や、求来里川流域で南に隣接する求来里地区では、近年大規模な圃場整備などに起因する発掘調査が数多く実施されており、そのなかから長迫遺跡の主な時代となる古墳時代～古代の遺跡に的をしぼってみる。長迫遺跡のある丘陵の北側続きには、古墳時代後期の横穴式石室を主体とする塔ノ本２・３号墳や同1号墳が存在していた（22/現在は消滅または一部消滅）。これらの古墳群の北側の丘陵裾部には、市指定史跡の円墳である平島古墳（23）や、弥生時代後期の環濠集落のほかに古墳時代後期の集落が確認された平島遺跡（21・24）がある。長迫遺跡から求来里川の谷に下った沖積地にある尾漕遺跡（33）では、弥生～古墳時代の集落が見つかっている。対岸の丘陵には古墳時代の石棺墓や石蓋土坑墓などで構成された墓地群である大迫遺跡（19）や、３基の円墳からなる中尾古墳群（18）がある。長迫遺跡から求来里川を南に約900m上った位置には、平安時代の竪穴遺構が確認された森ノ元遺跡（36）が、さらにもう少し遡った有田地区と求来里地区の境界付近の丘陵には、古墳時代の集落や古代の土坑墓が見つかった馬形遺跡（37）、その東側対岸の丘陵には、横穴式石室を主体とする３基の円墳からなるガニタ古墳群（38）がある。ここからさらに求来里川を遡った求来里地区も古墳時代の遺跡が多く確認されており、金田遺跡（40）・町ノ坪遺跡（42）・求来里平島遺跡（45）・名里遺跡（46）では、古墳時代の中でも時期が下がるにつれて求来里川の上流すなわち谷の奥に向かって集落域が拡大する様子が明らかとなっている。特に金田・町ノ坪の両遺跡の古墳時代中期の集落では朝倉産の初期須恵器や朝鮮半島系土器が出土しており、地床炉からカマド導入期の集落変遷を追うことができる。このほかにも、求来里川右岸の丘陵には円墳の亀ノ甲古墳（43）、左岸の台地上には古墳時代後期の石蓋土坑墓が見つかった元宮遺跡（41）などが立地しており、求来里川流域は古墳時代の遺跡の密集地ともいえる。

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 慈眼山遺跡 | 9 | 夕田横穴墓群 | 17 | 宮ノ下遺跡※ | 25 | 祇園原遺跡 | 33 | 尾漕遺跡 | 40 | 金田遺跡 |
| 2 | 丸山古墳※ | 10 | 夕田古墳 | 18 | 中尾古墳群※ | **26** | **長迫遺跡Ａ・Ｂ地点** | 34 | 尾漕１号墳 | 41 | 元宮遺跡 |
| 3 | 赤迫遺跡 | 11 | 佐寺横穴墓群 | 19 | 大迫遺跡 | 27 | 石ヶ迫遺跡Ａ地区 | 35 | 有田塚ヶ原古墳群 | 42 | 町ノ坪遺跡 |
| 4 | 大波羅遺跡 | 12 | 佐寺遺跡 | 20 | 中尾原遺跡 | 28 | 石ヶ迫遺跡Ｂ地点 | 36 | 森ノ元遺跡 | 43 | 亀ノ甲古墳※ |
| 5 | 薬師堂山古墳 | 13 | 内ノ下遺跡 | 21 | 平島遺跡Ｅ地点 | 29 | 平島横穴墓群 | 37 | 馬形遺跡 | 44 | 町野原遺跡※ |
| 6 | 丸尾神社古墳 | 14 | 川原田遺跡 | 22 | 塔ノ本１号墳 | 30 | 尾漕２号墳 | 38 | ガニタ古墳群※ | 45 | 求来里平島遺跡 |
| 7 | 北向古墳※ | 15 | 佐寺原遺跡 | 23 | 平島古墳※ | 31 | クビリ遺跡 | 39 | 小西遺跡 | 46 | 名里遺跡 |
| 8 | 法恩寺山古墳群 | 16 | 堂園遺跡 | 24 | 平島遺跡Ａ～Ｃ区 | 32 | 有田塚ヶ原遺跡 | ※は周知遺跡であるが、これまでに発掘調査例がないもの。 | | | |

**第３図　周辺遺跡分布図（1/20,000）**

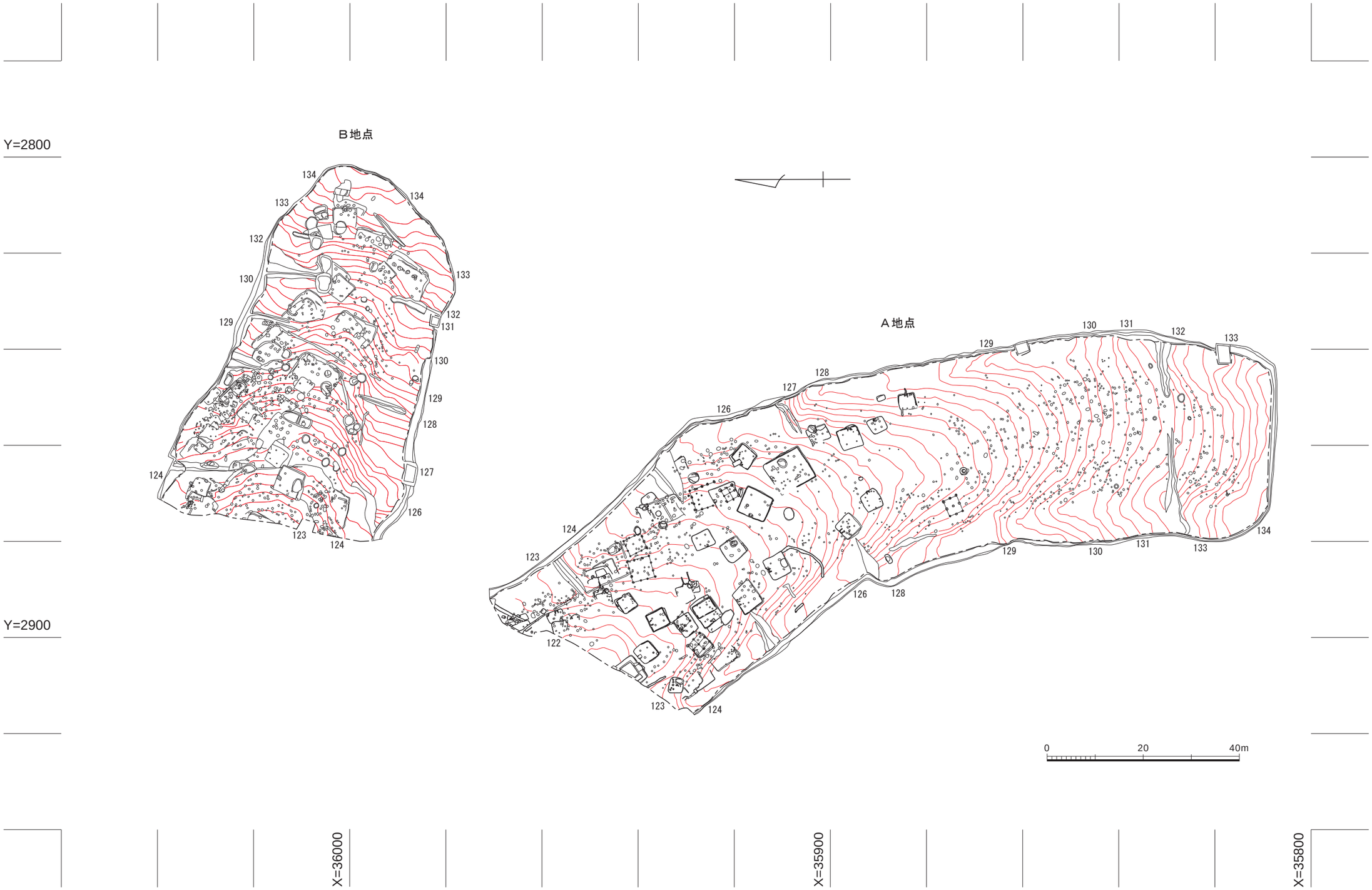
《参考文献》

千田　昇「日田・玖珠地域の地形－とくに台地地形について－」『日田・玖珠地域－自然・社会・教育－』　大分大学教育学部　1992

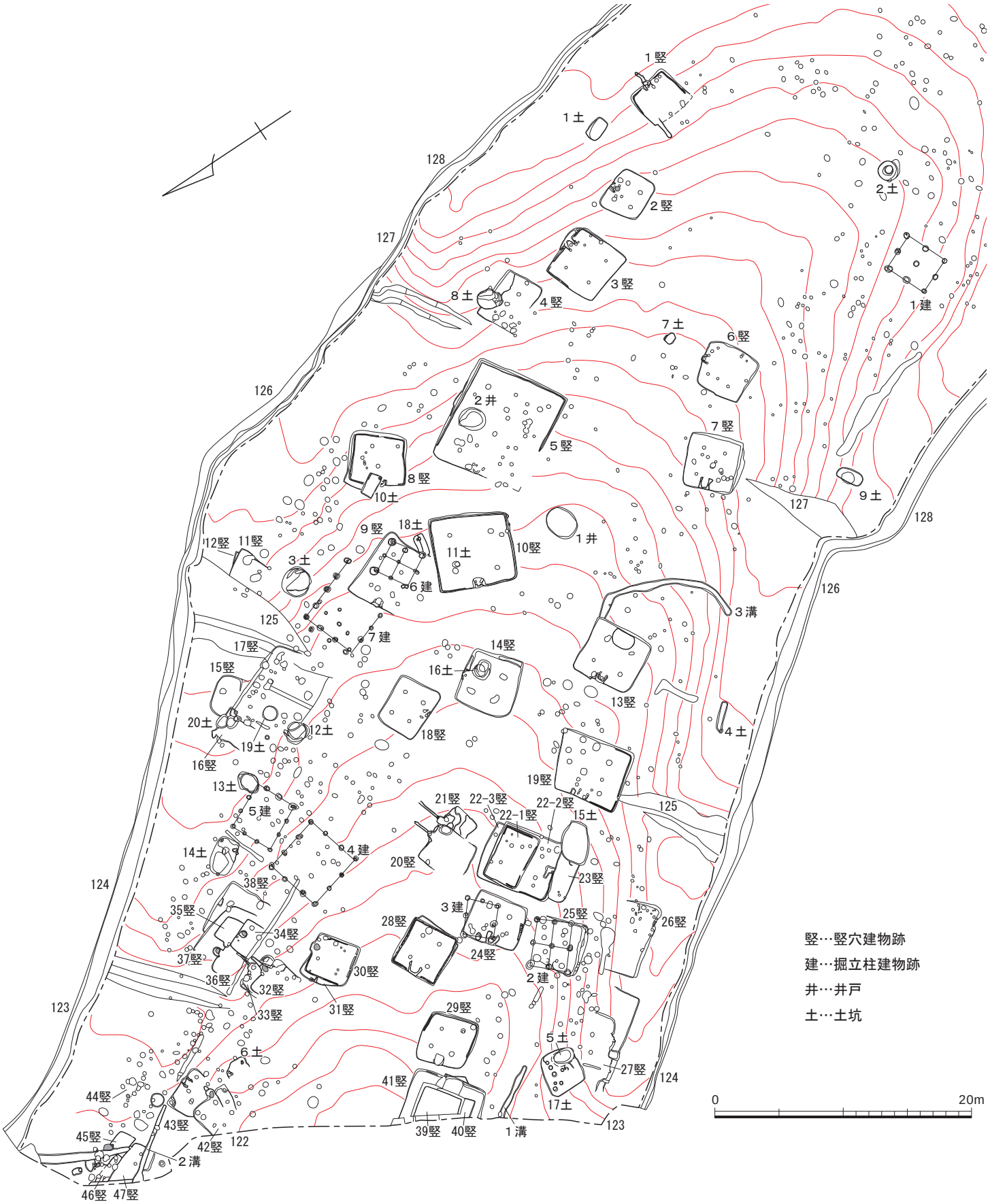
行時志郎編『有田塚ヶ原遺跡群』　日田市教育委員会　1999

『平成４年度（1992）～23年度（2011）日田市埋蔵文化財年報』　日田市教育委員会　1994～2012

『日田市史』　日田市　1990／各遺跡の発掘調査報告書　ほか




第4図　A・B地点全体図（1/800）




第５図　Ａ地点遺構配置図（1/400）

## Ⅲ．調査の内容

### (1) 調査の概要（第4・5図）

Ａ地点の調査区は二股に分岐した谷のうち南側の谷で、南東に向かって奥深くのびる。調査区の南に接する丘陵端部には、発掘調査により箱式石棺と土坑墓を主体部とする5世紀初頭～前半代の円墳と判明した尾漕2号墳が存在する。今回の調査区は南北方向に長さ約150ｍ、東西方向に幅約45ｍのゆるやかに西に曲がる形状を呈し、調査面積は6,650㎡である。調査区の最も高い場所で標高約134ｍ、最も低い場所で約122ｍ、比高約12ｍを測り、比較的斜度のきつい斜面に立地しているといえる。そのため、標高の低い部分を半分程度欠く遺構が多く見られる。

試掘調査段階では遺構検出面が大きく2層存在すると思われたため、最初に谷を横断するトレンチを入れて堆積状況を観察したところ、地表面から深さ約1ｍの古代の遺物包含層（暗茶褐色土）が認められ、この面から下層は黒色土ではあるけれども遺物が確認されない自然堆積層であることがわかったので、遺構検出作業はこの面で行うこととした。また黒色土の下には茶褐色の土層が存在していたが、黒色土の上面で遺構が確認されない箇所については、黒色土を除去して茶褐色土の面まで遺構検出作業を行った。

検出された遺構は、竪穴建物跡47軒、掘立柱建物跡7棟、井戸2基、土坑20基、溝3条とピット多数である。遺構は調査区中央より北側（斜面の低い方）に集中しており、南側の高い部分では小さなピットは多数見られるもののその他の遺構は全く存在していなかった。

以下、各遺構について述べる。なお遺構番号については、調査の進捗に従い割り振った番号をそのまま用いている。また各遺物の詳細については、巻末の遺物観察表にまとめている。

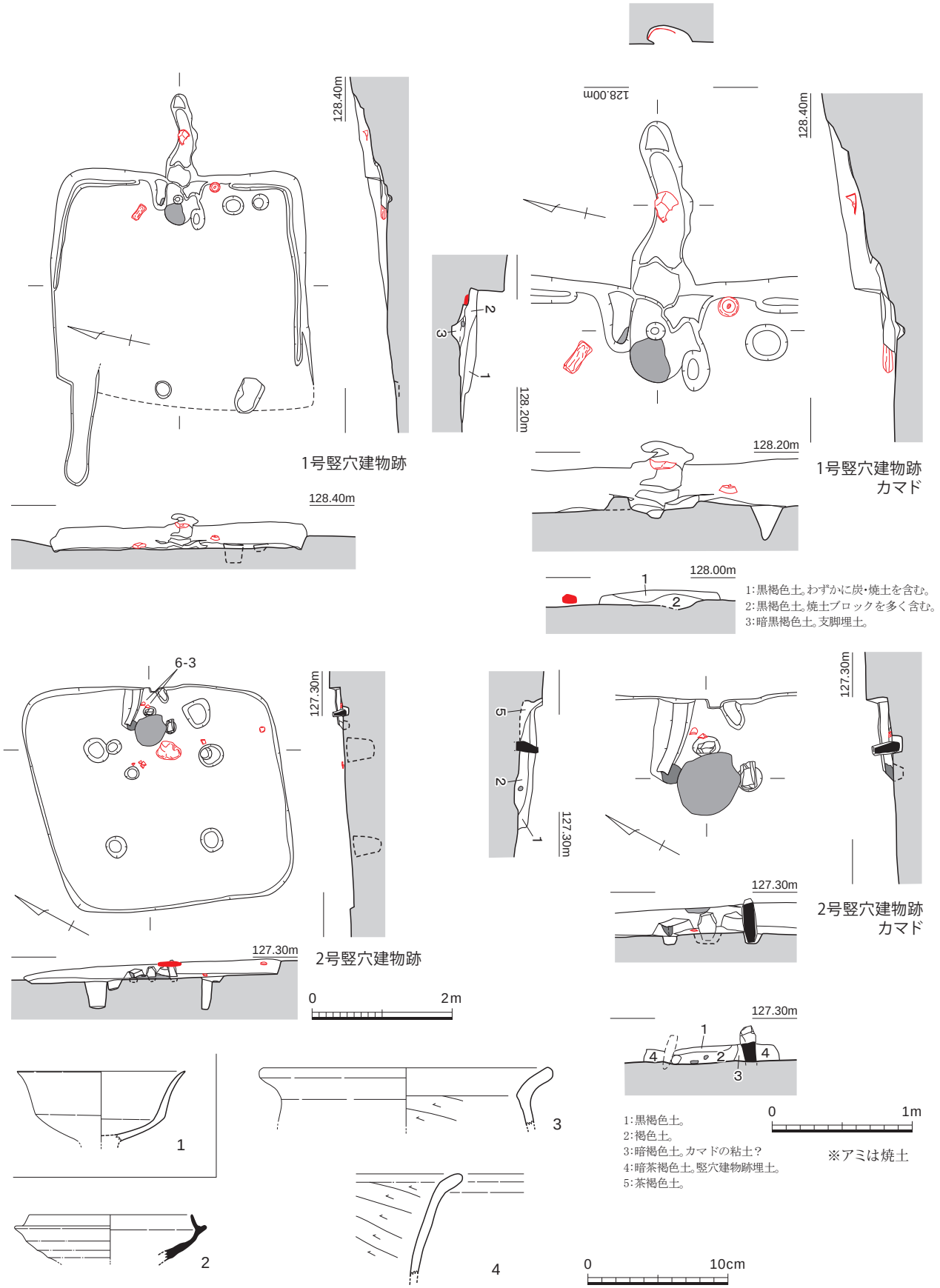
### (2) 遺構と遺物

#### 1）竪穴建物跡

竪穴建物跡は計47軒検出された。平面方形または長方形を基本としており、カマドを有するものが多く見られる。調査区内においては先述のとおり斜面の低い方にあたる北半に集中しており、そのなかでも高いところには単独で存在するものが多いものの、低いところでは最大で7軒が切り合うなど密集している。

**1号竪穴建物跡**（第6図、写真図版2）

調査区中央部東寄りで検出された平面方形プランを呈すると思われる遺構である。東西軸約3.1ｍ＋α、南北軸約3.3ｍ、床面までの深さは最大で約32㎝を測る。西半は削平されているが、北壁沿いに浅い溝が見られ、3方に巡る壁際溝の続きの可能性がある。主柱穴は検出できなかった。東壁中央にカマドと煙道が布設されており、カマドの袖は左側のみ約38㎝残存していたが、右側には袖石抜取痕と考えられるピットが検出された。またカマド内部では支脚痕と見られるピットも確認された。左袖そばで直方体を呈する石が検出されており、支脚または袖石であった可能性がある。煙道は長さ約1ｍを測り、煙道内に土器（甕）が残っていた。この遺構からは、土師器高坏（第6図1）が出土している。




第 6 図　1・2 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

**2 号竪穴建物跡**（第 6 図、写真図版 2）

調査区中央部東寄り、1 号竪穴建物跡の北で検出された平面不整方形を呈する遺構である。南北軸約 3.5 m、東西軸約 3.0 m、床面までの深さは最大で約 20cm を測る。主柱穴は 4 本で、深さは約 38 ～ 48 cmを測る。東壁中央にカマドが布設されており、左袖の現存長約 50 cm、右袖の現存長約 20 cmである。袖石は右袖にのみ残存しており、左袖には袖石抜取痕が見られ、これらの幅は約 42 cmを測る。カマド内部では支脚の石が残っていた。この遺構からは、須恵器坏、土師器甕・甑（第 6 図 2 ～ 4）が出土している。

**3 号竪穴建物跡**（第 7 図、写真図版 2）

調査区中央部東寄り、2 号竪穴建物跡の北で検出された平面正方形を呈する遺構である。南北軸約 4.5 m、東西軸約 4.3 m、床面までの深さは最大で約 35 cmを測る。主柱穴は 4 本で、深さは約 18 ～ 35 cmを測る。遺構の東半には壁際溝が巡る。東壁のやや南寄りにカマドが布設されており、左右ともに袖の現存長約 45 cmで、袖幅は 48 cmである。両袖とも袖石は残存していないが、袖石抜取痕が見られ、これらの幅は約 42 cmを測る。カマド内部はよく焼けて赤化しており、また支脚の石が残っていた。この遺構からは、須恵器坏・短頸壺・提瓶、土師器坏・甕（第 7 図 1 ～ 7）が出土している。

**4 号竪穴建物跡**（第 7 図、写真図版 2）

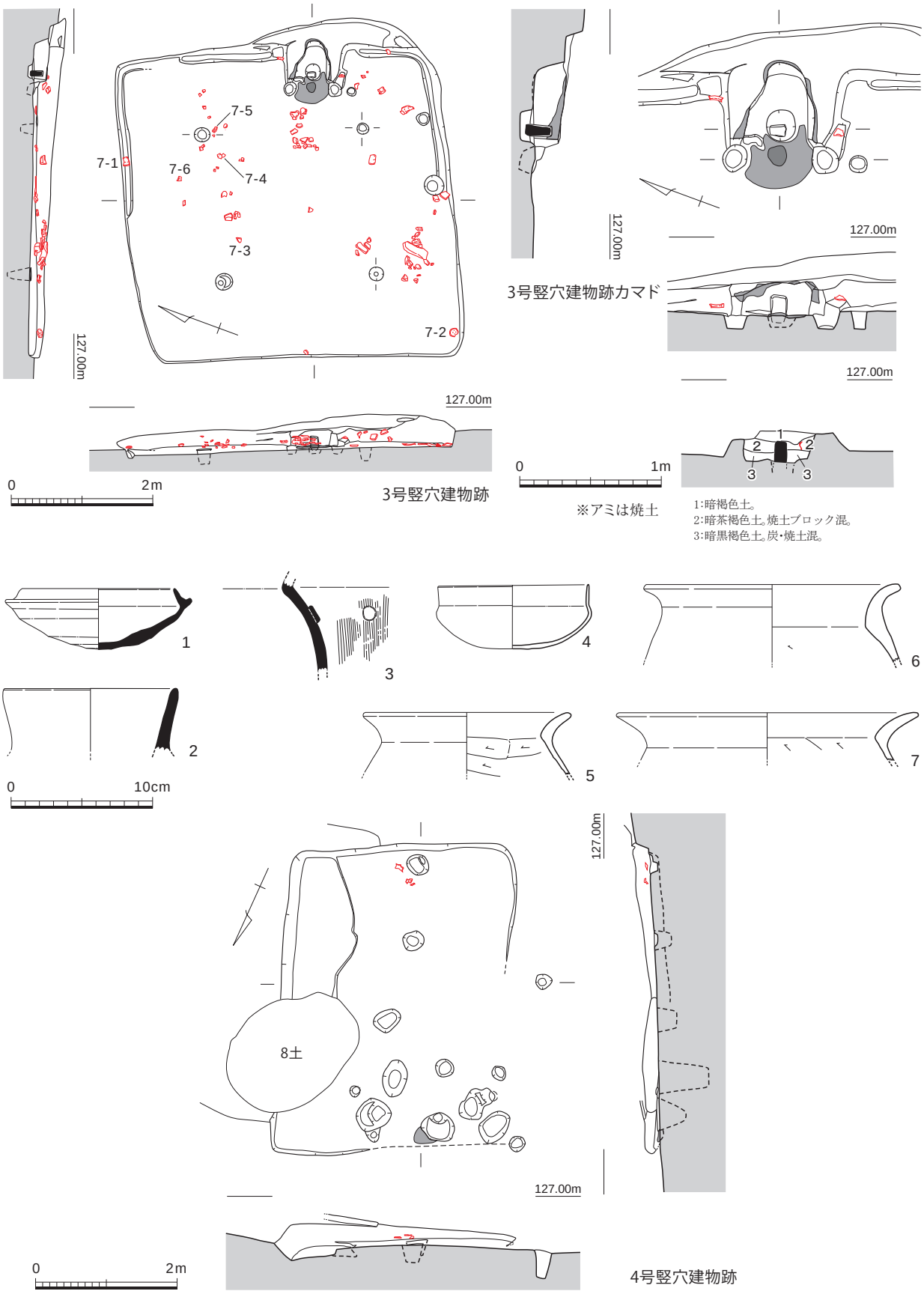
調査区中央部東寄り、3 号竪穴建物跡の北で検出された平面長方形を呈すると思われる遺構で、西側の一部を欠き、8 号土坑に切られる。南北軸約 4.6 m、東西軸約 3.2 m、床面までの深さは最大で約 25cm を測る。遺構内には複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。北壁やや西寄りに 26 cm× 18 cm + α の範囲で焼土があり、カマドの痕跡と考えられるが、ピットに切られる。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

**5 号竪穴建物跡**（第 8・9 図、写真図版 3）

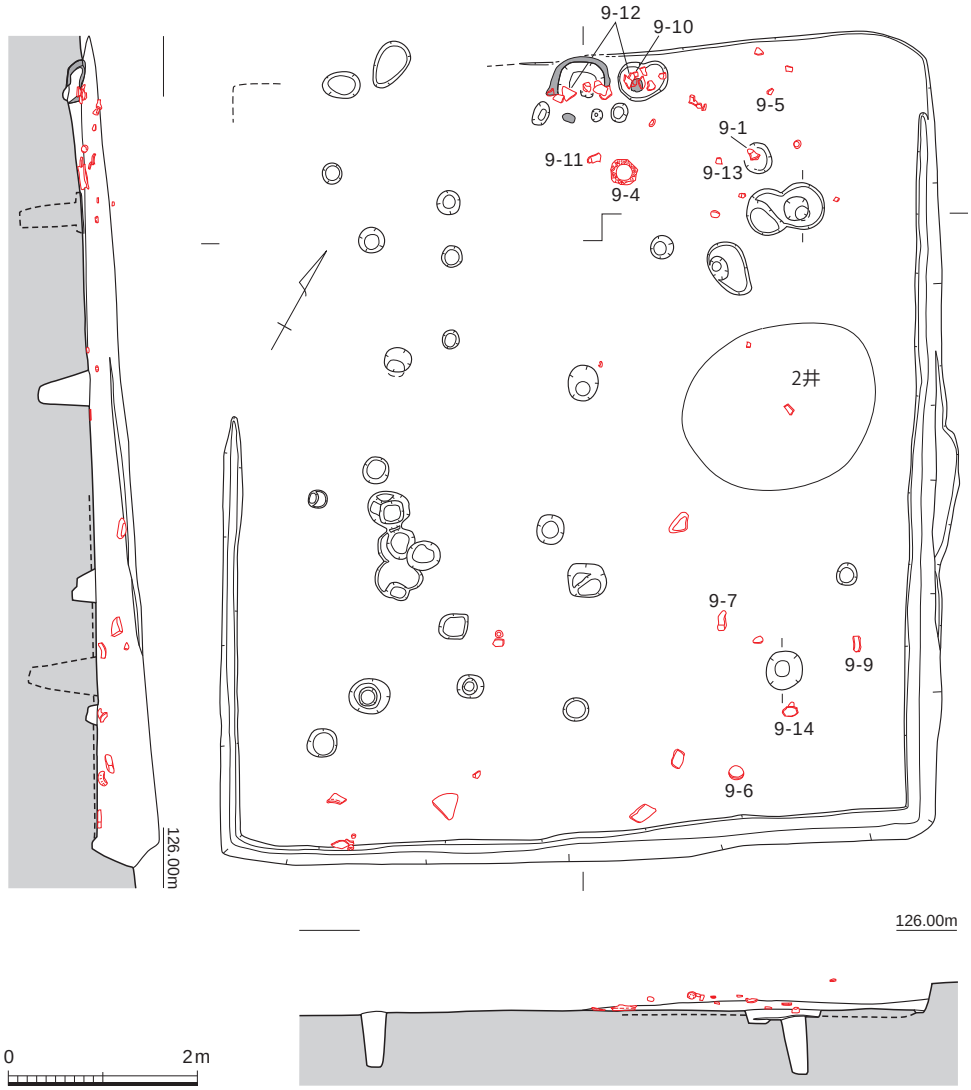
調査区北半東寄り、4 号竪穴建物跡の北で検出された平面長方形を呈すると思われる遺構で、西側の一部を欠き、2 号井戸に切られる。南北軸約 8.6 m、東西軸約 7.5 mと他の竪穴建物跡に比べて規模が大きく、床面までの深さは最大で約 68cm を測る。遺構内には多数のピットが見られるが、南北に 3 つずつ 2 列並ぶ 6 本柱（東側中央のピットは 2 号井戸に切られ不明）と考えられ、深さは約 57 ～ 71 cmを測る。東・南・西壁には壁際溝が見られる。北壁ほぼ中央と考えられる位置にカマドが布設されており、左袖の現存長約 30 cm、右袖の現存長約 26 cmである。袖石は現存しないが袖石抜取痕が両袖とも見られ、これらの幅は約 66 cmを測る。この遺構からは、須恵器坏・甕、土師器坏・坏蓋・甕・高坏・甑（第 9 図 1 ～ 14）のほか、鉄鏃と考えられる破片（第 37 図 11・12）が出土している。

**6 号竪穴建物跡**（第 10 図、写真図版 3）

調査区中央部、3 号竪穴建物跡の西で検出された平面不整方形を呈する遺構である。東西軸約 4.3 m、南北軸約 3.2 m、床面までの深さは最大で約 20cm を測る。遺構内には複数のピットが見




第７図　３・４号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）



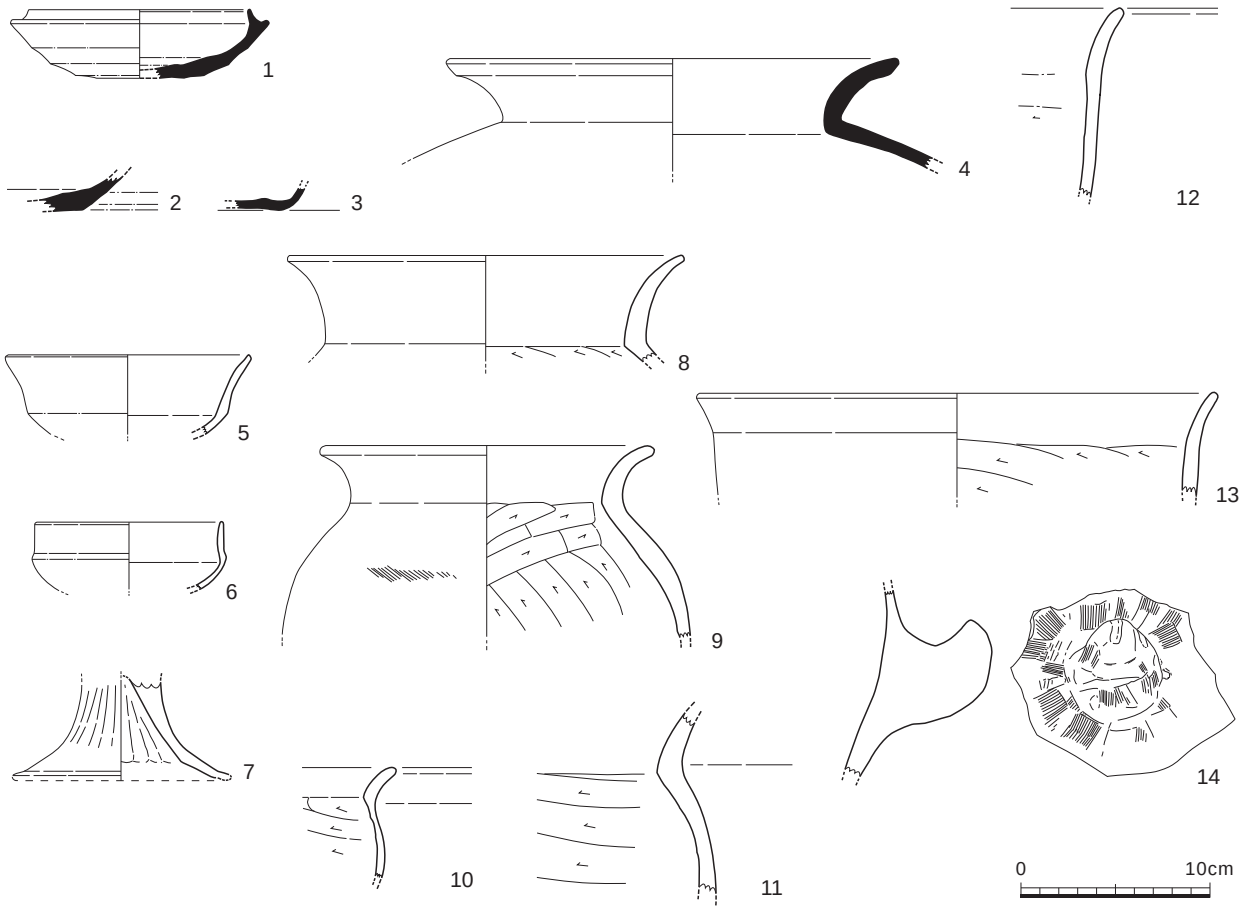

※アミは焼土

第 8 図　5 号竪穴建物跡実測図（1/80）

られるが、主柱穴は 4 本で、深さは約 9 ～ 20 ㎝を測る。東壁ほぼ中央にカマドが布設されており、左袖の現存長約 38 ㎝、右袖の現存長約 23 ㎝、袖幅は 36 ㎝である。袖石は現存しないが袖石抜取痕が両袖とも見られ、これらの幅は約 46 ㎝を測る。カマド内部には支脚として使用された甕が口縁を上向きにして残っていた。この遺構からは、須恵器坏、土師器甕（第 10 図 1 ～ 5）のほか、瑪瑙製の勾玉（第 37 図 17）が出土している。

**7 号竪穴建物跡**（第 11 図、写真図版 3）

調査区中央部西寄り、6 号竪穴建物跡の北で検出された平面正方形を呈する遺構である。東西軸約 4.1 m、南北軸約 3.9 m、床面までの深さは最大で約 55㎝ を測る。主柱穴は 4 本で深さは約 46 ～ 53 ㎝を測る。北壁やや東寄りにカマドが布設されており、左右とも袖の現存長約 82 ㎝、袖幅は焚口で 47 ㎝を測る。袖石は両袖とも無く、袖石抜取痕も見られない。カマド内部では支脚の痕跡も認められなかった。この遺構からは、須恵器坏、土師器高坏・甕（第 11 図 1 ～ 3）が出土している。



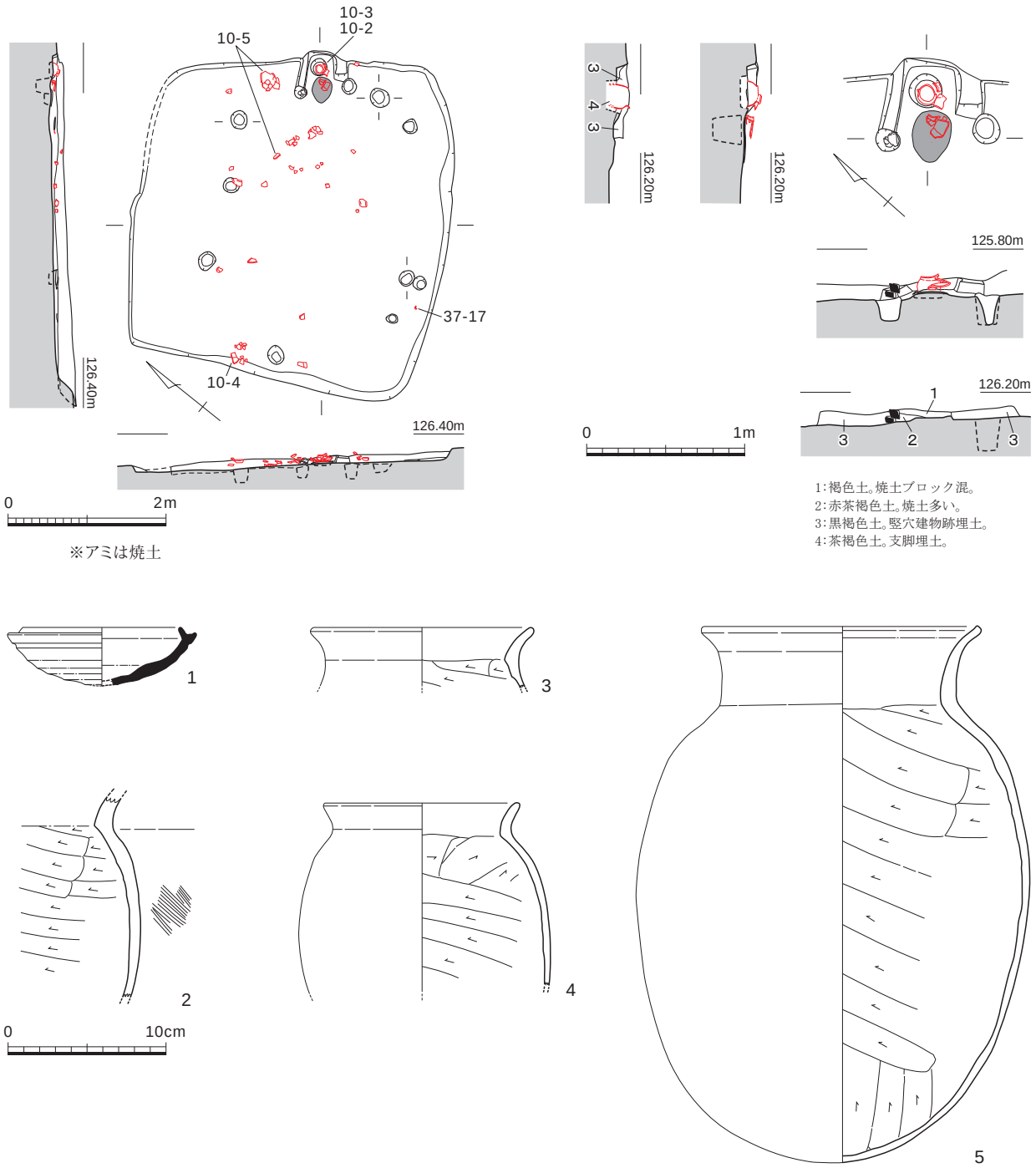

第 9 図　5 号竪穴建物跡出土遺物実測図図 (1/4)

**8 号竪穴建物跡**（第 11 図、写真図版 3）

調査区北半東寄り、5 号竪穴建物跡の北東で検出された平面正方形を呈する遺構である。南北軸約 4.4 m、東西軸約 4.0 m、床面までの深さは最大で約 58cm を測る。遺構内には複数のピットが見られるが、主柱穴となりえるものはない。北壁やや東寄りにカマドが布設されており、左袖の現存長約 38 cmを測るが、右袖は 10 号土坑に切られて残存しない。袖石や袖石抜取痕は確認されなかったが、カマド内部では支脚痕と思われるピットが検出された。この遺構からは、須恵器坏、土師器坏・甕、白磁碗（第 11 図 4 ～ 11）が出土している。

**9 号竪穴建物跡**（第 12 図、写真図版 4）

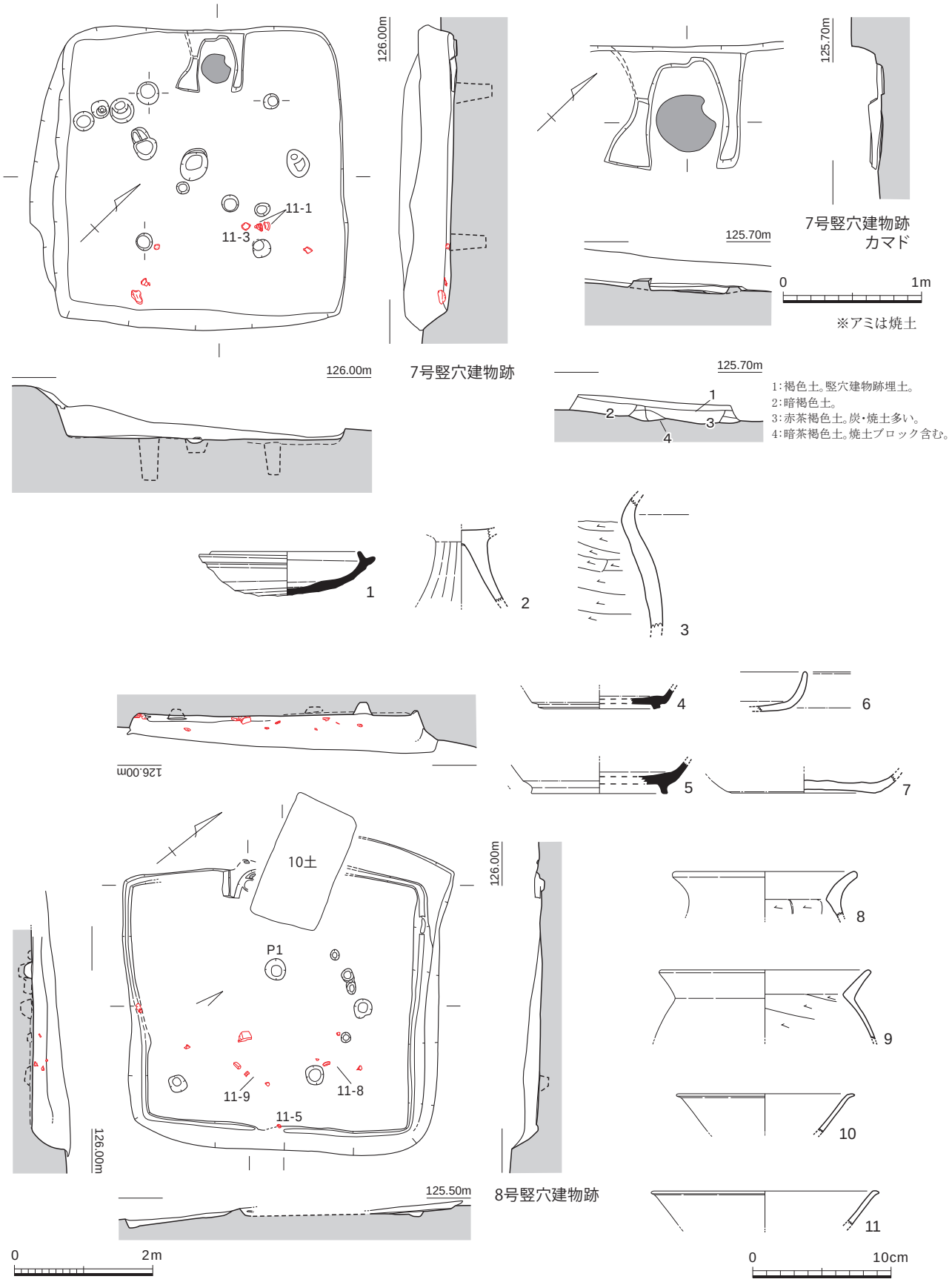
調査区北半東寄り、5 号竪穴建物跡の北で検出された平面方形を呈すると思われる遺構で、10 号竪穴建物跡および6 号掘立柱建物跡に切られる。西側を欠き、南北軸約5.7 m、東西軸約4.0 m＋α、床面までの深さは最大で約 23cm を測る。遺構内には複数のピットが見られるが、主柱穴は 4 本と思われ、これらの深さは約 29 ～ 58 cmを測る。北壁中央と思われる位置にカマドが布設されているが、両袖ともほとんど残存しておらず、46 × 52 cmの焼土の両脇に袖石抜取痕の可能性がある小ピットが検出されており、これらの間隔は40 cmを測る。この遺構からは、須恵器坏・壺、土師器甕（第 12 図 1 ～ 3）が出土している。



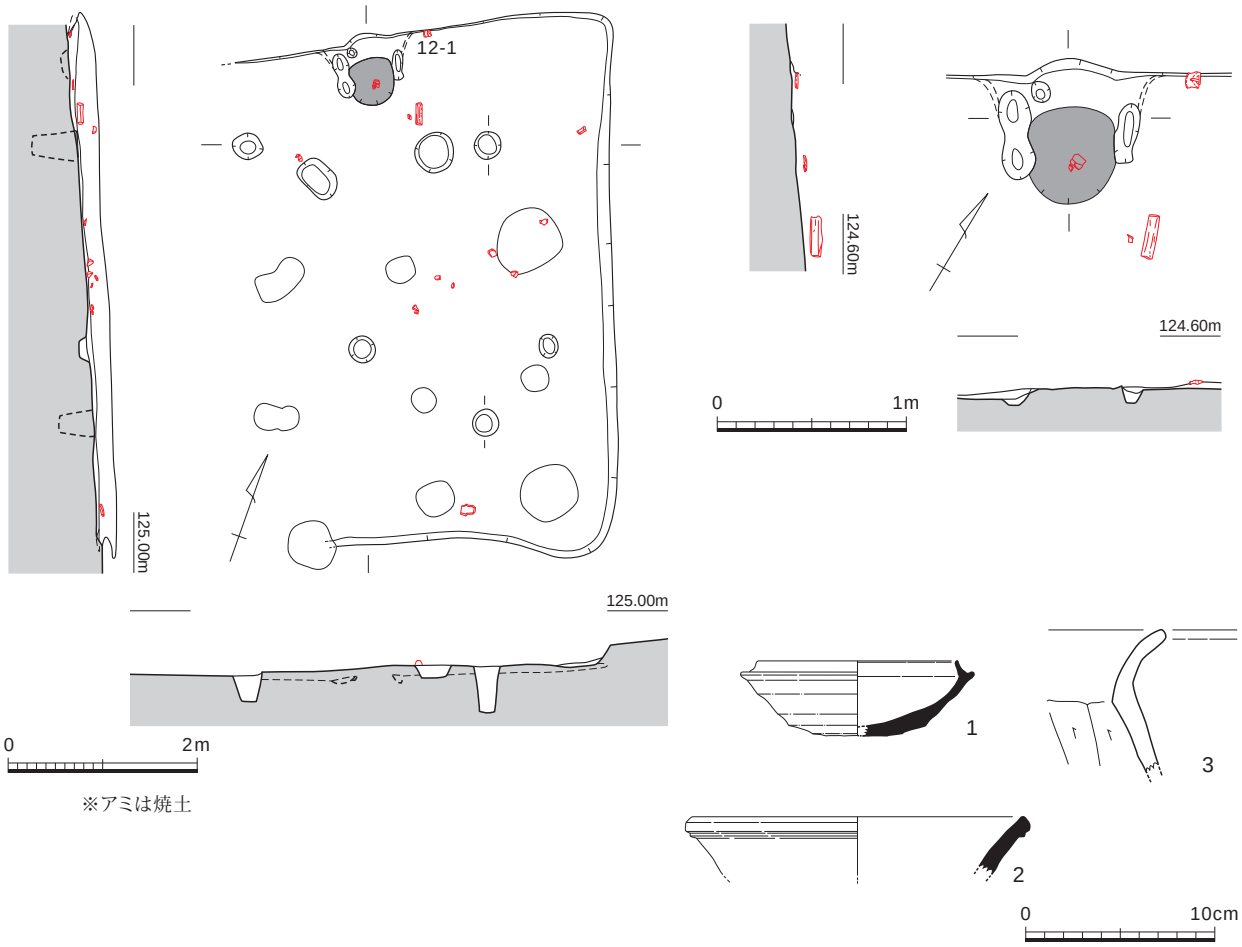

第 10 図　6 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

## 10 号竪穴建物跡（第 13 図、写真図版 4）

調査区北半東寄り、9 号竪穴遺構の南で検出された平面方形を呈する遺構で、9 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 5.9 m、南北軸約 6.2 m、床面までの深さは最大で約 24cm を測る。主柱穴は 4 本で、深さは約 54 ～ 79 cmを測る。壁際溝を 4 周にめぐらす。北壁中央にカマドが布設されており、左袖




第 11 図　7・8 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）




第 12 図　9 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

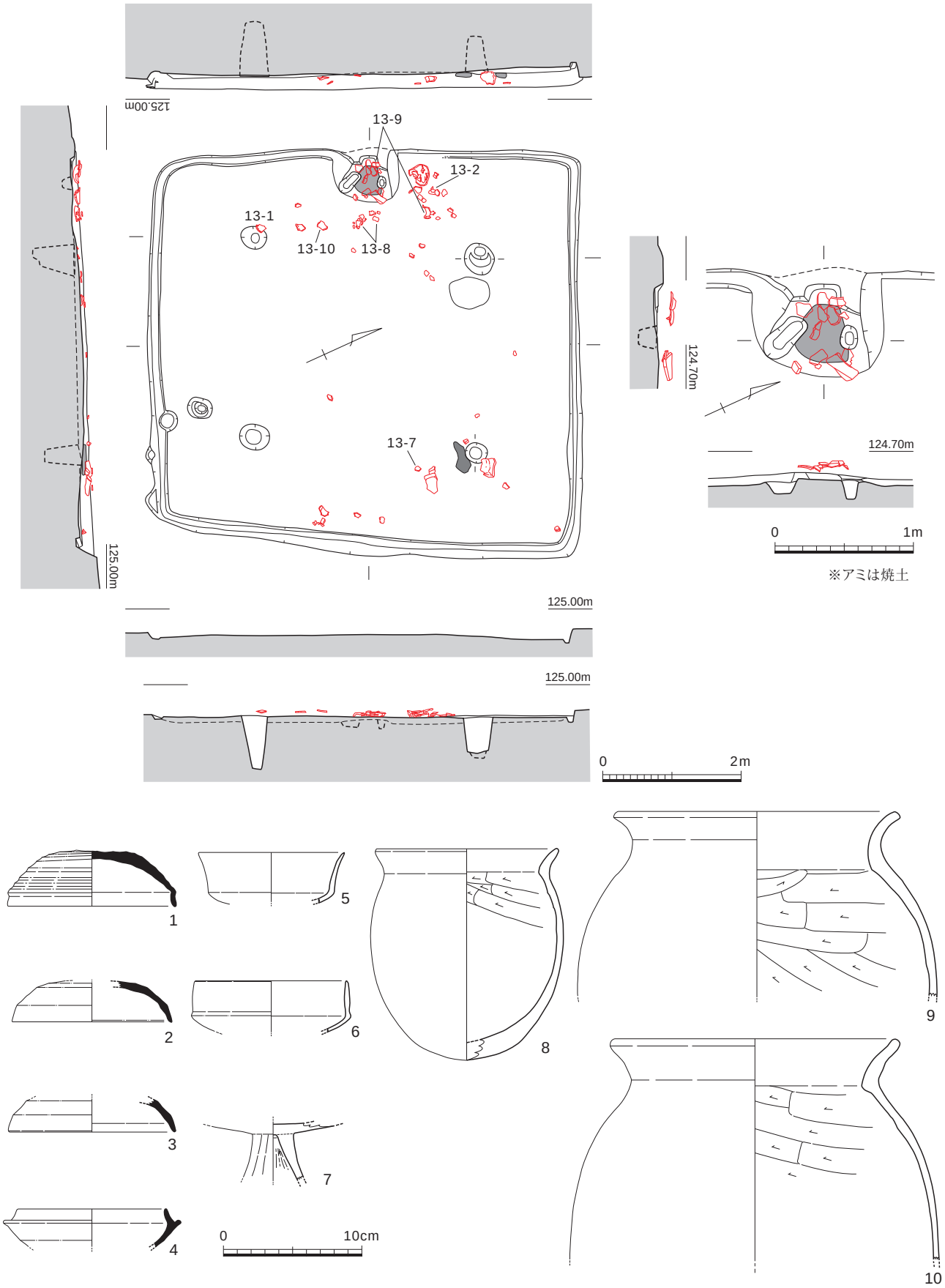
の現存長約 16 ㎝、右袖の現存長約 34 ㎝である。袖石は残存していないが、両袖ともに袖石抜取痕が見られ、これらの幅は約 32 ㎝を測る。右袖の抜取痕付近で袖石と思われる石が検出されている。カマド内部では支脚またはその痕跡は見つからなかった。この遺構からは、須恵器蓋坏、土師器蓋坏・高坏・甕（第 13 図 1 ～ 10）のほか、鉄鏃（第 37 図 8・9）が出土している。

**11 号竪穴建物跡**（第 14 図、写真図版 4）

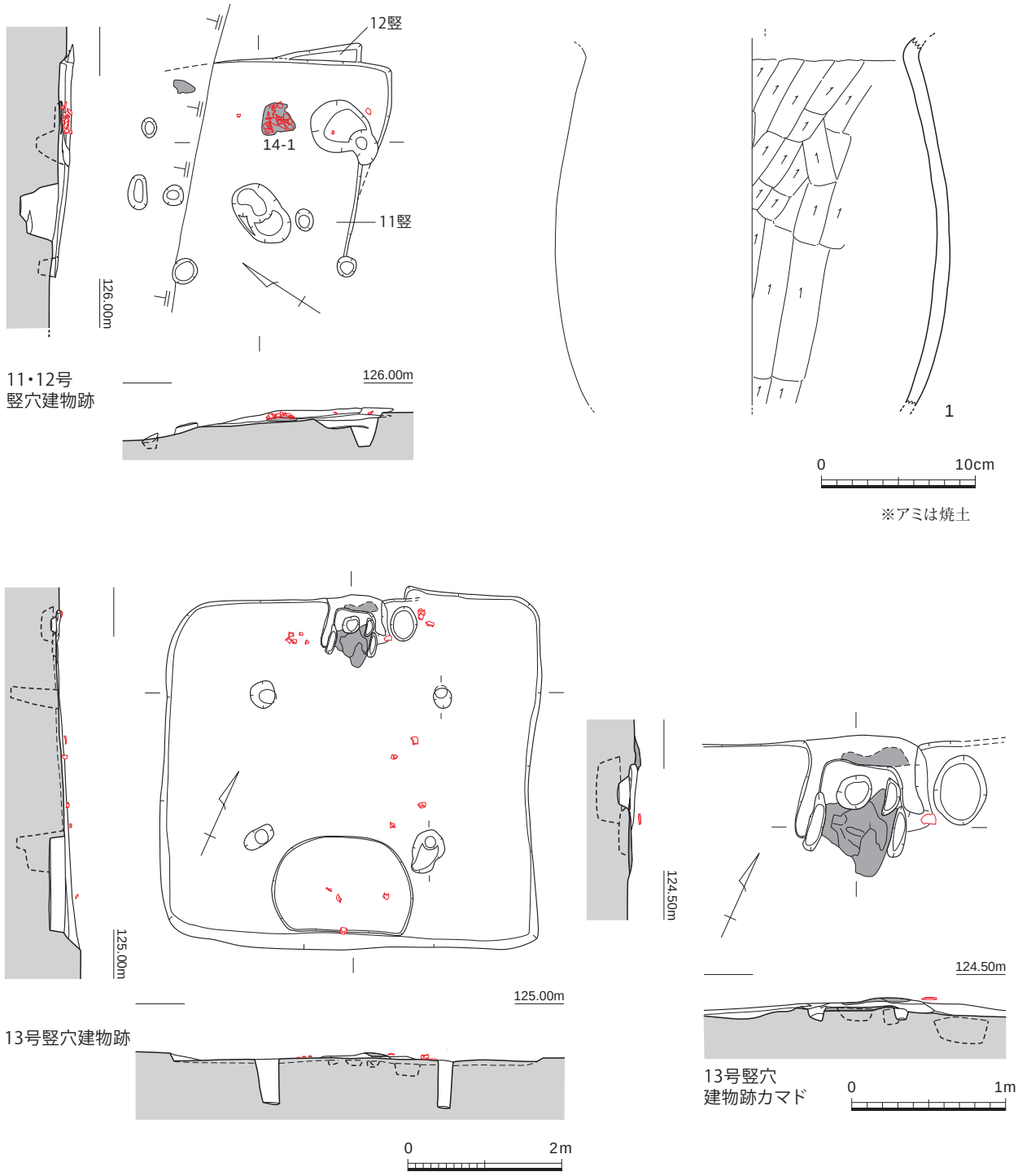
調査区北半東端、9 号竪穴建物跡の北東で検出された遺構で、12 号竪穴建物跡の大部分を切る。西側および北側を大きく欠くが、平面は方形または長方形を呈すると考えられる。東西軸約 1.4 m ＋ α、南北軸約 2.3 m ＋ α、床面までの深さは最大で約 10cm を測る。主柱穴は不明である。遺構内東寄りに焼土が見られるが、カマドは検出されなかった。この遺構からは、土師器甕（第 14 図 1）が出土している。

**12 号竪穴建物跡**（第 14 図、写真図版 4）

調査区北半東端、9 号竪穴建物跡の北東で検出された遺構で、大部分が 11 号竪穴建物跡に切ら

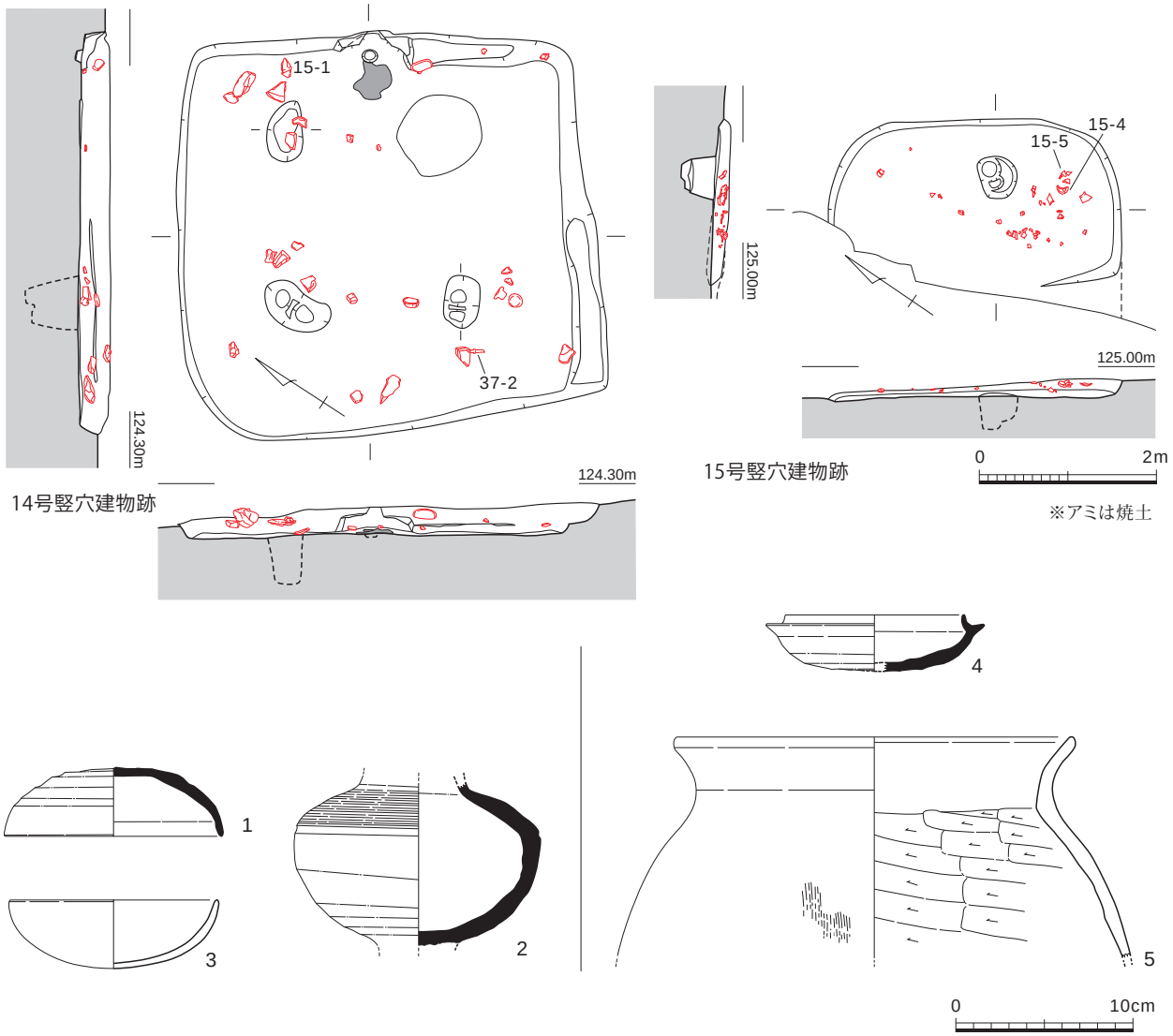



第 13 図　10 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）




第 14 図　11 ～ 13 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

れているため全容は不明であるが、平面は方形または長方形を呈すると考えられる。東西軸約 2.8 m＋α、南北軸約 1.1 m＋α、床面までの深さは最大で約 10cm を測る。主柱穴は不明である。遺構内東寄りの削平された部分で焼土の痕跡が検出されている。この遺構からは遺物は出土しなかった。




第 15 図　14・15 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

**13 号竪穴建物跡**（第 14 図、写真図版 4）

調査区北半西寄り、10 号竪穴建物跡の西で検出された、平面正方形を呈する遺構である。東西軸約 4.9 m、南北軸約 4.4 m、床面までの深さは最大で約 23cm を測る。主柱穴は 4 本で、深さは約 42 ～ 66 cmを測る。南側の 2 つの柱穴には柱痕が認められた。北壁中央にカマドが布設されており、左袖の現存長約 62 cm、右袖の現存長約 50 cm、袖幅約 52 cmである。両袖とも袖石は残存していないが、抜取痕が検出されており、袖石幅は約 45 cmを測る。カマド内部では支脚痕と思われるピットが検出された。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

**14 号竪穴建物跡**（第 15 図、写真図版 5）

調査区北半のほぼ中央、13 号竪穴建物跡の北東で検出された、平面正方形を呈する遺構である。

東西軸約 4.0 m、南北軸約 4.3 m、床面までの深さは最大で約 35cm を測る。主柱穴は 4 本と考えられるうち 1 つは 16 号土坑に切られている。その他の柱穴の深さは約 57 ～ 60 cmを測る。東壁中央にカマドが布設されており、左袖の現存長約 8 cm、右袖の現存長約 22 cm、袖幅は壁際で 34 cmを測る。袖石・抜取痕ともに検出されていないが、右袖そばで袖石の可能性がある石が検出されている。カマド内部では支脚痕と思われるピットが検出された。この遺構からは、須恵器坏蓋・脚付壺、土師器坏（第 15 図 1 ～ 3）のほか、鉄鎌（第 37 図 2）が出土している。

**15 号竪穴建物跡**（第 15 図、写真図版 5）

調査区北半東端部、11・12 号竪穴建物跡の北西で検出された、平面隅丸長方形を呈すると思われる遺構である。南側を 16・17 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 3.0 m、南北軸約 1.8 m＋ α、床面までの深さは最大で約 19cm を測る。遺構内でピットが 1 つ検出されているが、その位置からみて主柱穴ではないと思われる。カマド・焼土とも検出されていない。この遺構からは、須恵器坏、土師器甕（第 15 図 4・5）が出土している。

**16 号竪穴建物跡**（第 16 図、写真図版 5）

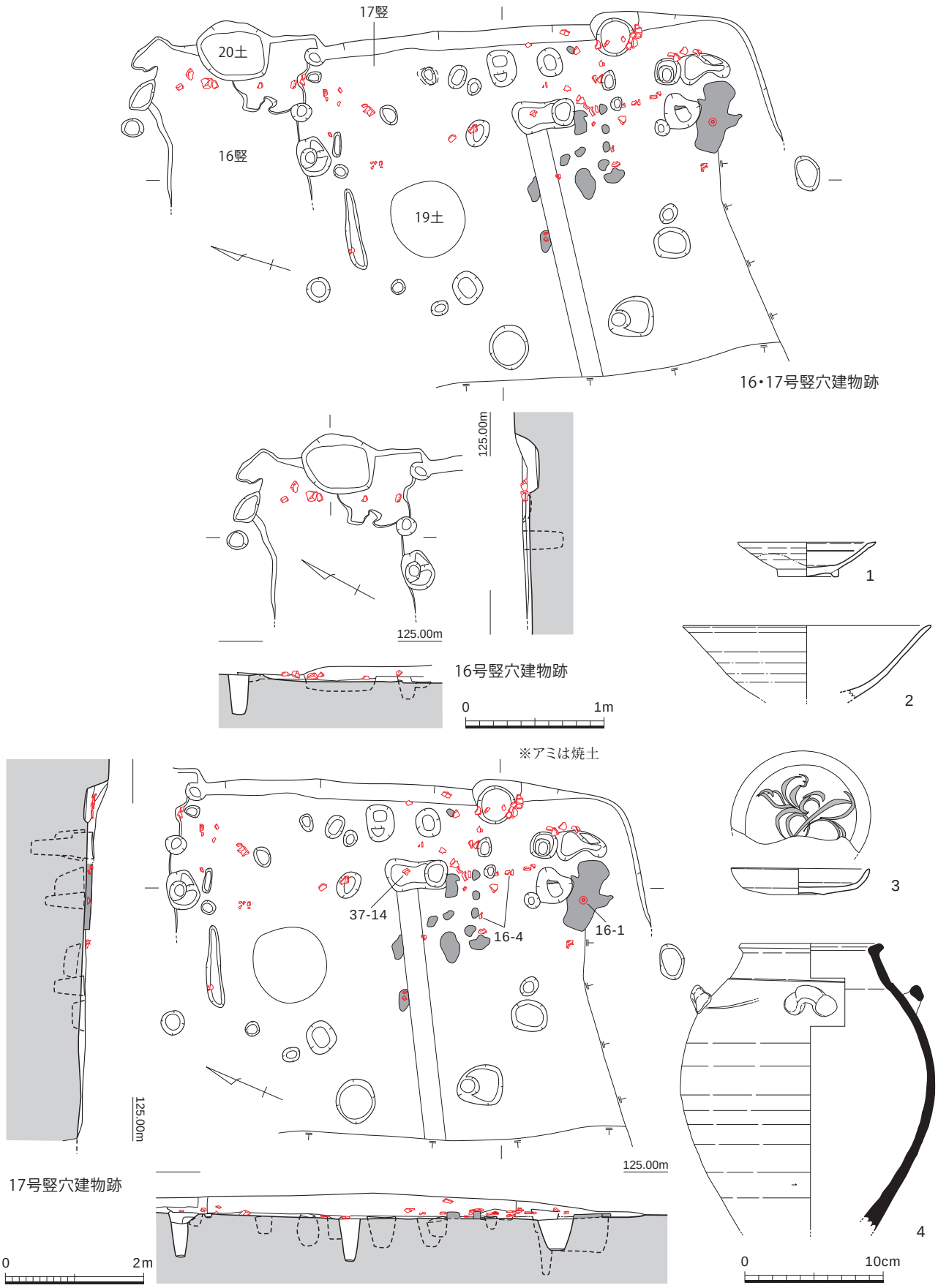
調査区北半東端部、15 号竪穴建物跡の西隣で検出された遺構で、15 号竪穴建物跡を切り、17 号竪穴建物跡・20 号土坑に切られる。西半を欠くが、平面は方形または長方形を呈すると考えられる。東西軸約 2.5 m＋ α、南北軸約 2.5 m＋ α、床面までの深さは最大で約 8cm を測る。主柱穴は不明である。カマド・焼土とも検出されていない。この遺構からは、鉄滓 1 点（第 37 図 13）が出土している。

**17 号竪穴建物跡**（第 16 図、写真図版 5・6）

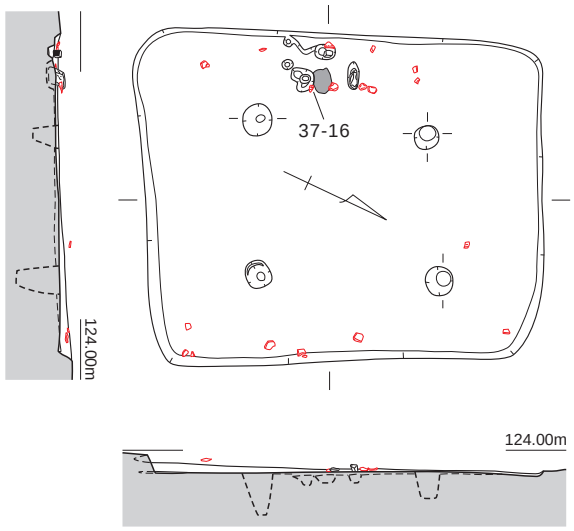
調査区北半東端部、15 号竪穴建物跡の西隣で検出された遺構で、15・16 号竪穴建物跡を切り、19 号土坑に切られる。南側の一部と西側を欠くが、平面は方形を呈すると考えられる。東西軸約 2.0 m＋ α、南北軸約 6.4 m＋ α、床面までの深さは最大で約 33cm を測る。主柱穴は南北軸方向に 3 本以上が並ぶと思われるが、それに対応する西側の柱穴列は確認されていない。カマドは検出されていないが、南東隅付近に 105 × 44 cmの焼土が見られる。この遺構からは、須恵器四耳壺、白磁碗・小皿、青磁小皿（第 16 図 1 ～ 4）のほか、鉄滓 2 点（第 37 図 14・15）が出土している。

**18 号竪穴建物跡**（第 17 図、写真図版 6）

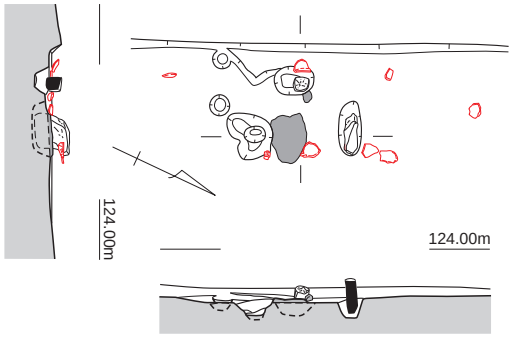
調査区北半のほぼ中央、14 号竪穴建物跡の北で検出された、平面長方形を呈する遺構である。東西軸約 3.6 m、南北軸約 4.3 m、床面までの深さは最大で約 16cm を測る。主柱穴は 4 本で、深さは約 27 ～ 46 cmを測る。西壁中央にカマドが布設されており、両袖とも残存しないが、右袖の位置に袖石が、左袖の位置には袖石抜取痕が残っている。袖石（抜取痕）の幅は 34 cmを測る。カマド内部では支脚の石が残っていた。この遺構からは、土師器や須恵器の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。ほかに鉄滓 1 点（第 37 図 16）が出土している。




第 16 図　16・17 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

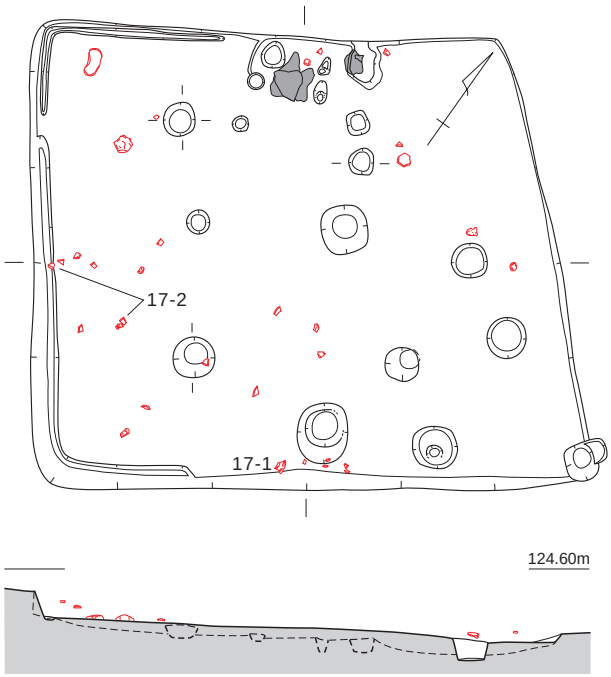


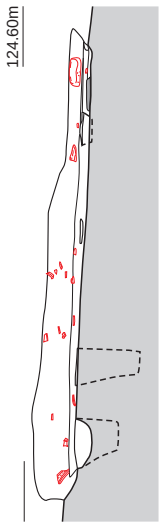

18号竪穴建物跡

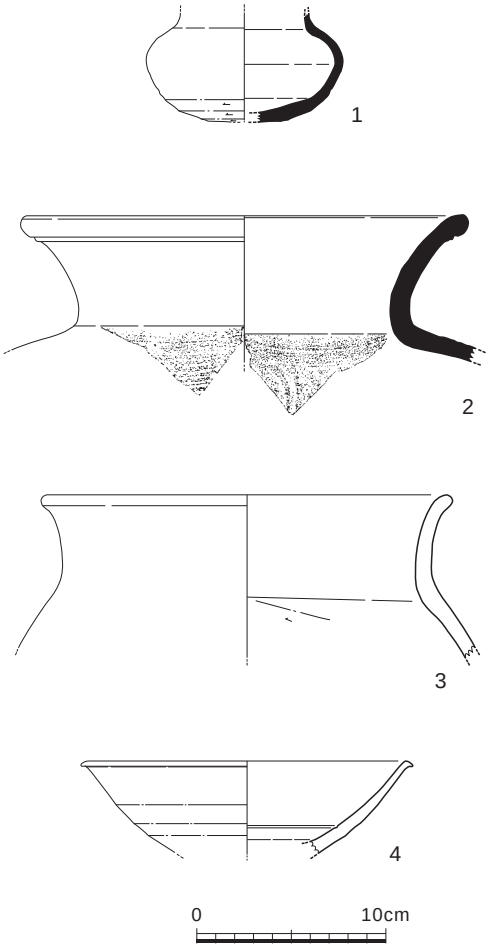



18号竪穴建物跡カマド

0 1m



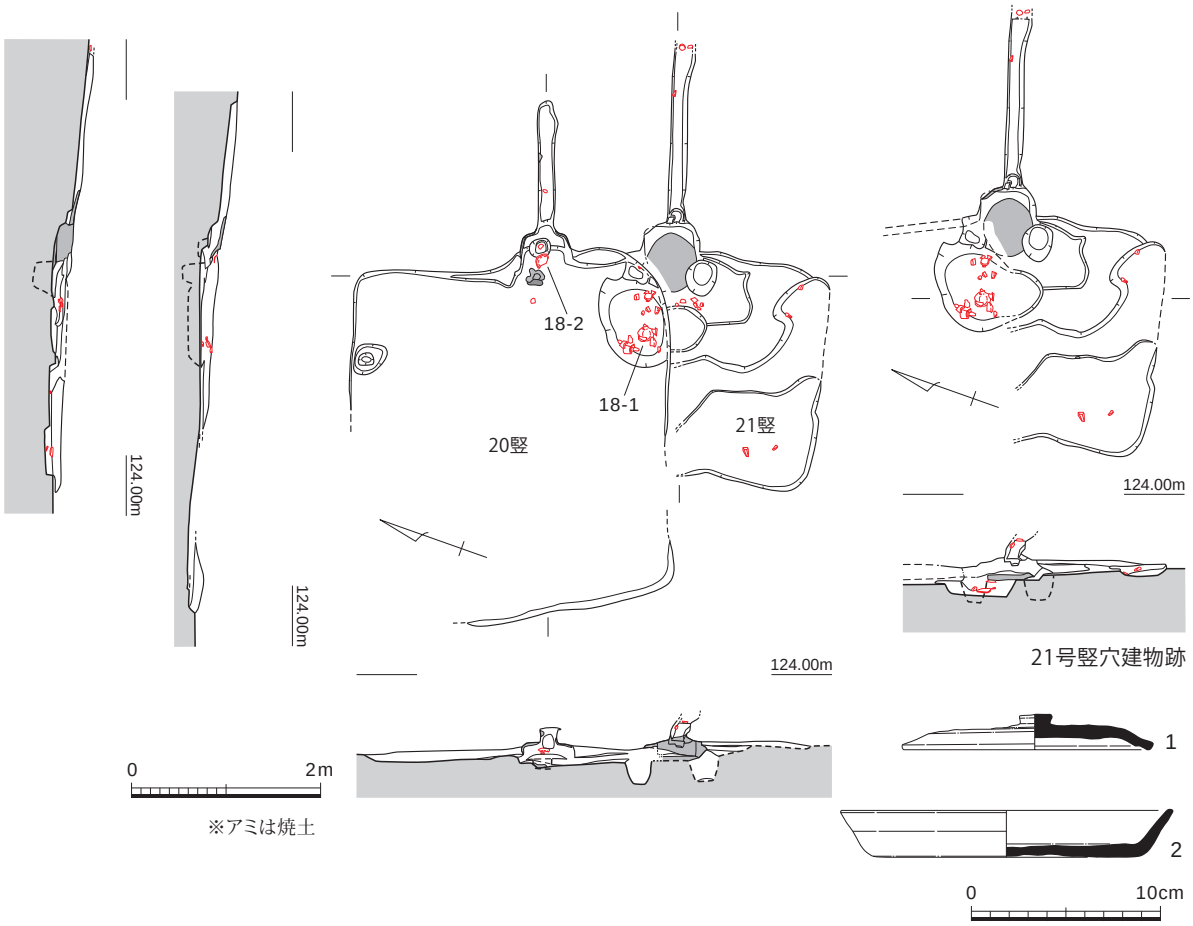

0 2m

19号竪穴建物跡

※アミは焼土

0 10cm

第 17 図　18・19 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）




第 18 図　20・21 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

**19 号竪穴建物跡**（第 17 図、写真図版 6）

調査区北半西寄り、14 号竪穴建物跡の西で検出された、平面不整長方形を呈する遺構である。東西軸約 5.9 m、南北軸約 5.0 m、床面までの深さは最大で約 39cm を測る。南北壁際の一部と西壁際に壁際溝がめぐっている。主柱穴は 4 本で、深さは約 12 ～ 68 cmを測る。北壁中央にカマドが布設されており、両袖および袖石は残存しないが、焼土の両脇に袖石抜取痕と思われるピットが見られ、その幅は 54 cmを測る。カマド内部では支脚の痕跡は検出できなかった。この遺構からは、須恵器甕・壺、土師器甕、白磁碗（第 17 図 1 ～ 4）が出土している。

**20 号竪穴建物跡**（第 18 図、写真図版 6・7）

調査区北半中央部、14 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形を呈すると思われる遺構であるが、北側・西側を大きく欠く。21 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 3.7 m、南北軸約 3.4 m、床面までの深さは最大で約 13cm を測る。主柱穴は検出されていない。東壁南寄りに、壁より張り出して煙道を持つタイプのカマドが布設されている。両袖とも残存せず、袖石や袖石抜取痕も確認されていない。カマド内部では支脚痕と思われるピットが検出されている。煙道の長さは約 1.3 mを測る。この遺構からは、土師器破片（図示不能）のほか、須恵器蓋坏（第 18 図 1・2）が出土している。

**21 号竪穴建物跡**（第 18 図、写真図版 6・7）

調査区北半中央部、20 号竪穴建物跡の南で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構で、北半を 20 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 2.4 m、南北軸約 2.2 m＋ α、床面までの深さは最大で約 7cm を測る。主柱穴は検出されていない。東壁に、壁より張り出して煙道を持つタイプのカマドが布設されている。両袖とも残存しないが、袖石抜取痕は確認され、その幅は 40 cmを測る。カマド内部では支脚痕は検出されていない。煙道は東端を欠くが、長さ約 1.8 m＋ α を測る。この遺構からは須恵器や土師器の破片が出土しているが、図示できるものはなかった。

**22-1・2・3 号竪穴建物跡**（第 19 図、写真図版 7）

調査区北半部西寄り、20・21 号竪穴建物跡の西で検出された遺構で、3 基の竪穴建物跡が重なっている。切り合い関係は、22-3 → 22-2 → 22-1 号である。なお、22-2 号竪穴建物跡は 23 号竪穴建物跡を切るが、22-3 号竪穴建物跡と 23 号竪穴建物跡の切り合い関係は不明である。

22-1 号竪穴建物跡は、東西軸約 2.9 m、南北軸約 4.4 mの平面長方形を呈し、床面までの深さは最大で約 14 cmを測る。主柱穴は竪穴内の中央よりやや東で 2 本検出され、深さは約 10 ～ 35 cm を測る。南東・北西隅および西壁に壁際溝が見られる。東壁中央部付近で焼土が見られるものの、カマドは不明である。

22-2 号竪穴建物跡は、東西軸約 5.4 m、南北軸約 4.7 mの平面ほぼ正方形を呈し、床面までの深さは最大で約 27 cmを測る。主柱穴は西側の 2 つが検出されており、深さは約 50 ～ 55 cmを測る。本来は 4 本柱と考えられるが、東側の 2 本については不明である。北西隅に壁際溝が見られる。カマド・焼土は検出されていない。

22-3 号竪穴建物跡は、東西軸約 2.3 m＋α、南北軸約 4.6 mの平面方形または長方形と思われ、床面までの深さは最大で約 26 cmを測る。主柱穴は不明である。東壁中央付近に焼土が見られるものの、カマドは不明である。

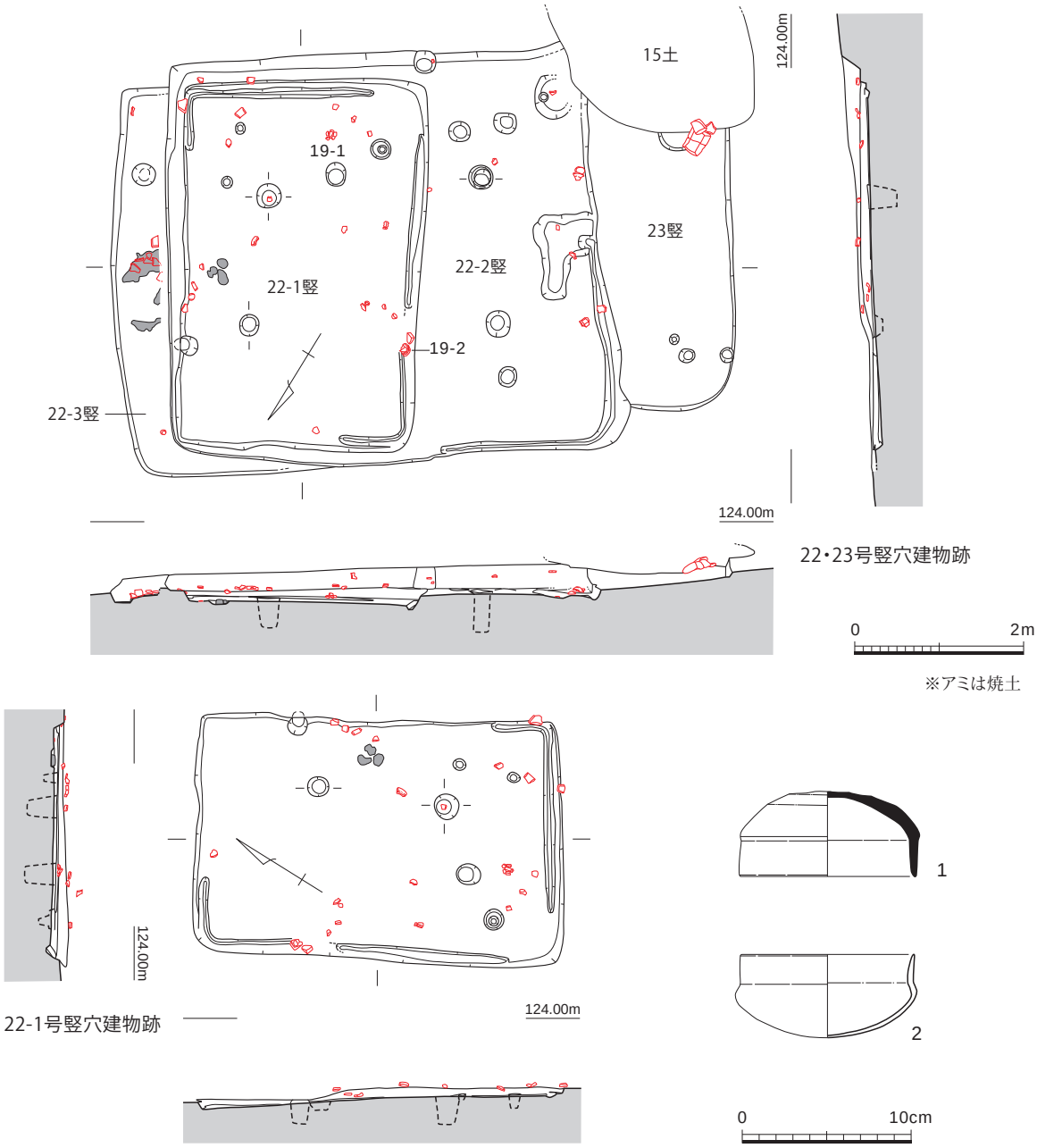
22-1 号竪穴建物跡から、須恵器坏蓋、土師器坏（第 19 図 1・2）が出土している。

**23 号竪穴建物跡**（第 23 図、写真図版 7）

調査区北半西寄り、20・21 号竪穴建物跡の西で検出された遺構で、東側の大部分を 22-1・2・3 号竪穴建物跡に大きく切られる。平面方形または長方形を呈すると考えられる。東西軸約 1.4 m＋α、南北軸約 3.4 m＋α、床面までの深さは最大で約 9 cmを測る。主柱穴やカマド・焼土は不明である。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

**24 号竪穴建物跡**（第 20 図、写真図版 7・8）

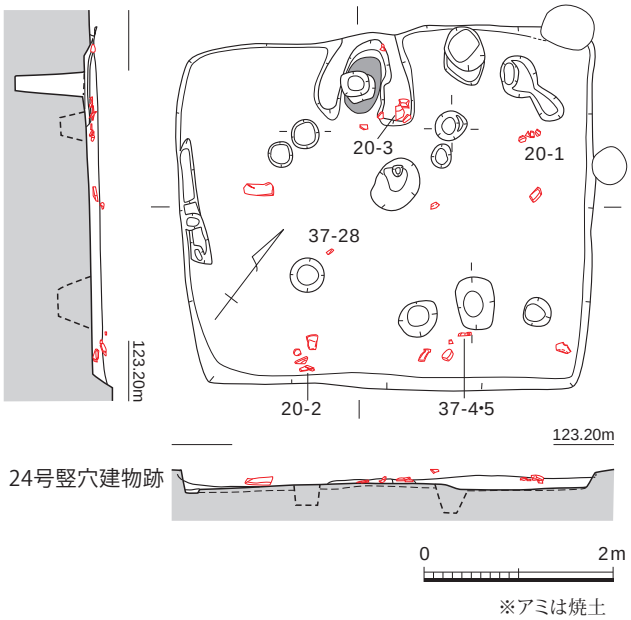
調査区北半西寄り、22-1・2・3 号竪穴建物跡の北で検出された平面方形を呈する遺構で、3 号掘立柱建物跡に切られる。東西軸約 4.2 m、南北軸約 3.8 m、床面までの深さは最大で約 26cm を測る。主柱穴は 4 本で、深さは約 18 ～ 39 cmを測る。西壁際にわずかに壁際溝が見られる。北壁中央にカマドが布設されており、左袖の現存長約 78 cm、右袖の現存長約 90 cm、袖幅は約 50 cmを測る。袖石や袖石抜取痕は検出されていない。この遺構からは、土師器高坏・甕（第 20 図 1 ～ 3）のほか、須恵器片（図示不能）、摘鎌（第 37 図 4・5）が出土している。

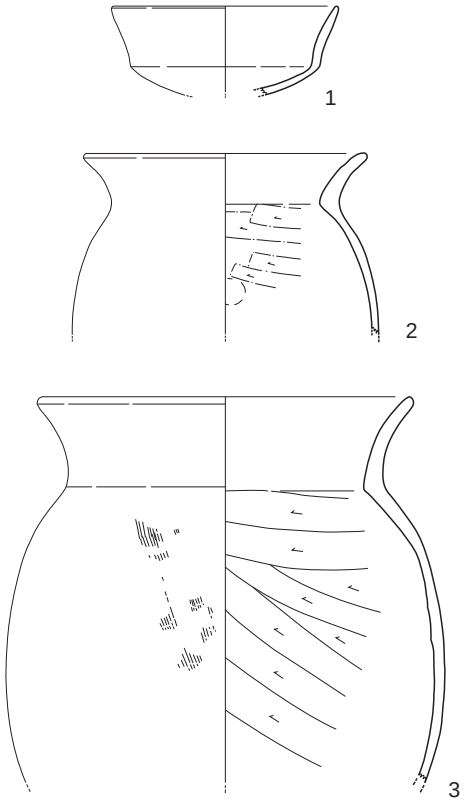


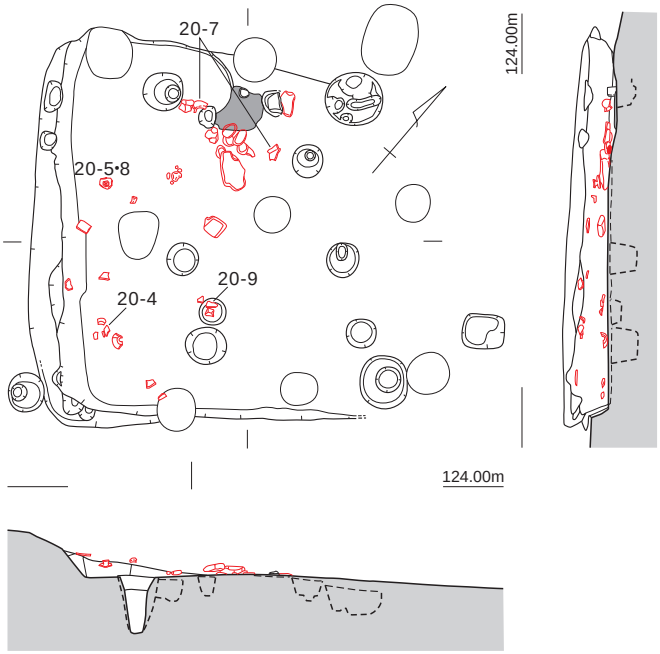

第 19 図　22-1 ～ 3・23 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

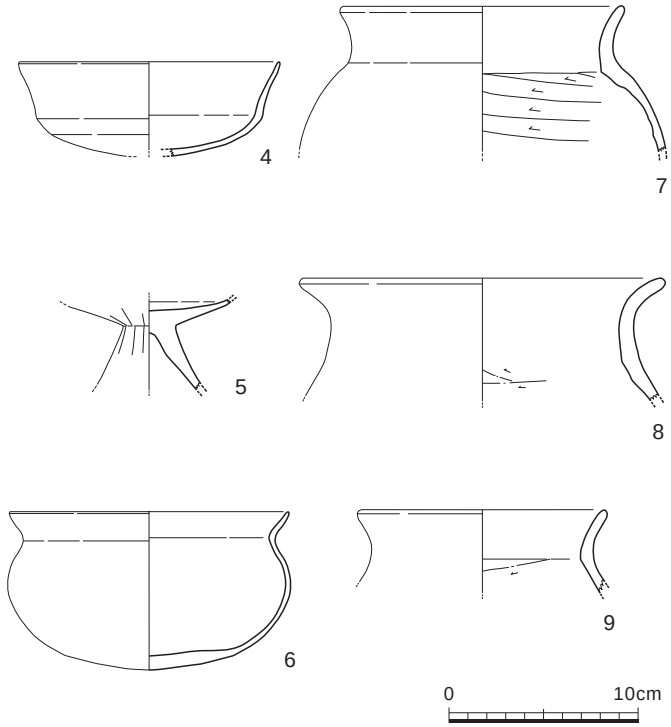
**25 号竪穴建物跡**（第 20 図、写真図版 8）

調査区北半西寄り、24 号竪穴建物跡の西で検出された、平面方形または長方形を呈すると考えられる遺構で、東側を欠き、2 号掘立柱建物跡に切られる。東西軸約 3.4 m＋ α、南北軸約 4.2 m、床面までの深さは最大で約 50cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。北壁中央にカマドが布設されているが、両袖とも残存しない。右袖のみ袖石が残存し、左袖には袖石抜取痕が認められ、その幅は約 50 cmを測る。カマド内部では支脚痕は検出されなかった。この遺構からは、須恵器片（図示不能）のほか、土師器坏・高坏・甕（第 20 図 4 ～ 9）が出土している。




第 20 図　24・25 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

**26 号竪穴建物跡**（第 21 図、写真図版 8）

調査区北半西端、25 号竪穴建物跡の西で検出された、平面方形または長方形を呈すると考えられる遺構で、東半を欠く。東西軸約 2.8 m＋α、南北軸約 5.8 m、床面までの深さは最大で約 30cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。カマド・焼土は検出されなかった。この遺構からは、須恵器片（図示不能）のほか、土師器坏蓋・高坏・甑（第 21 図 1 ～ 3）が出土している。

**27 号竪穴建物跡**（第 21 図、写真図版 8・9）

調査区北半西端、26 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形または長方形を呈すると考えられる遺構で、東半を欠く。東西軸約 1.6 m＋α、南北軸約 5.8 m＋ α、床面までの深さは最大で約 27cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。カマド・焼土は検出されなかった。この遺構からは、須恵器坏蓋・盌・甕、土師器甕（第 21 図 4 ～ 10）が出土している。

**28 号竪穴建物跡**（第 22 図、写真図版 9）

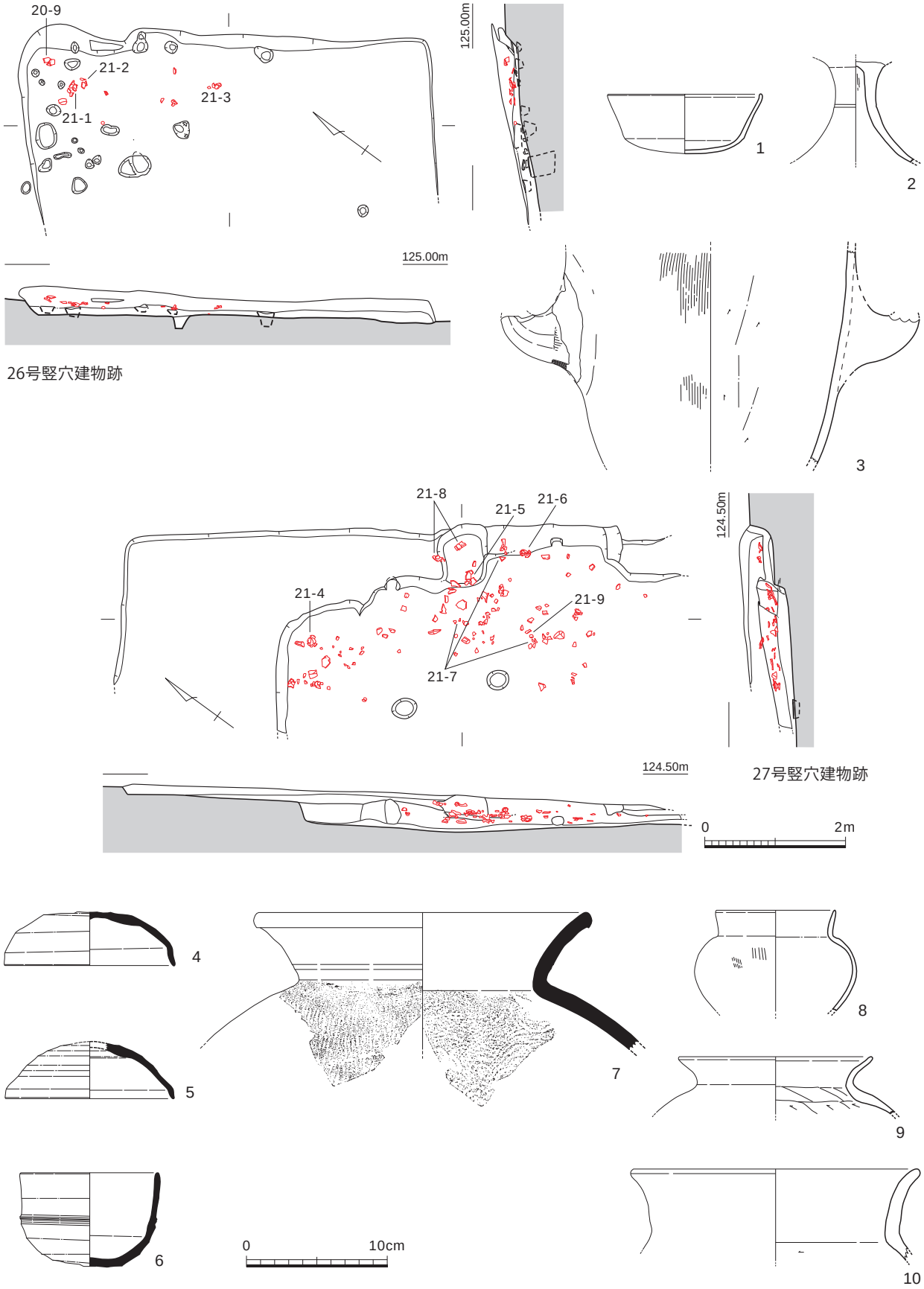
調査区北半中央部、24 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形を呈する遺構である。東西軸約 3.9 m、南北軸約 4.0 m、床面までの深さは最大で約 30cm を測る。壁際溝が四周にめぐり、小ピットが規則的に穿たれている。主柱穴は 4 本で、深さは約 35 ～ 42 cmを測る。北壁中央にカマドが布設されており、両袖ともに長さ約 90 cm、袖幅は約 75 cmを測る。袖石・袖石抜取痕は検出されなかった。カマド内部では支脚としての甕が残っていた。この遺構からは、須恵器短頸壺、土師器坏・高坏・甕（第 22 図 1 ～ 5）が出土している。他に石製紡錘車も 1 点出土したが、調査中の大雨により所在不明となった。

**29 号竪穴建物跡**（第 22 図、写真図版 9）

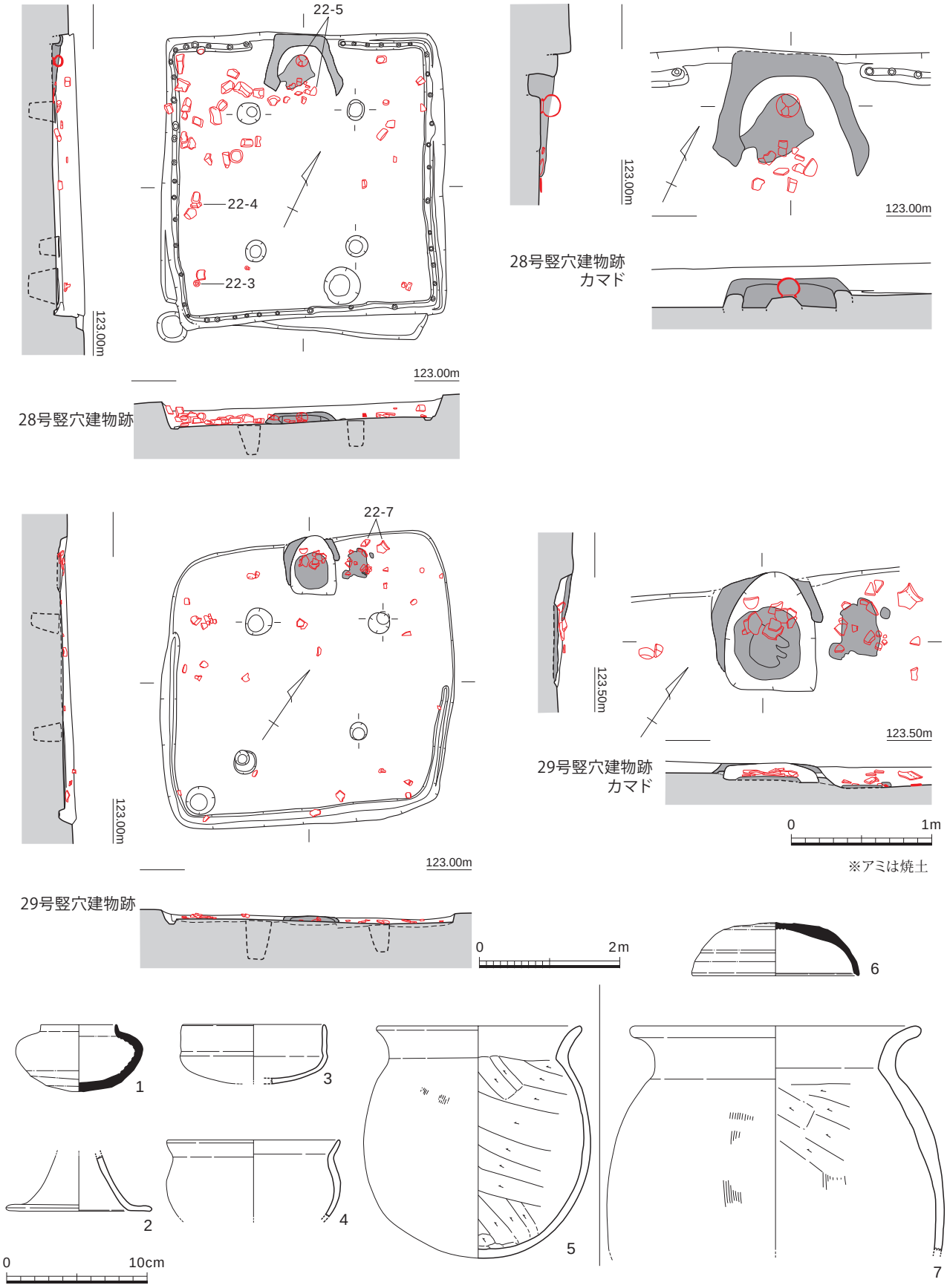
調査区北半中央部、28 号竪穴建物跡の北西で検出された、平面方形を呈する遺構である。東西軸約 3.8 m、南北軸約 3.9 m、床面までの深さは最大で約 15cm を測る。遺構の南半分には壁際溝がめぐる。主柱穴は 4 本で、深さは約 38 ～ 70 cmを測る。北壁中央にカマドが布設されており、左袖の現存長約 55 cm、右袖の現存長約 32 cm、袖幅は約 60 cmである。袖石・袖石抜取痕は確認されていない。支脚痕も認められないが、支脚のあるべき位置付近に土器片が多く見られ、甕が支脚であった可能性がある。この遺構からは、須恵器坏蓋、土師器甕（第 22 図 6・7）が出土している。

**30 号竪穴建物跡**（第 23 図、写真図版 9）

調査区北半中央部、28 号竪穴建物跡の北東で検出された、平面方形を呈する遺構で、31 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 3.3 m、南北軸約 3.5 m、床面までの深さは最大で約 23cm を測る。四周に断続的に壁際溝がめぐり、28 号竪穴建物跡と同様な小ピットが、数は少ないものの穿たれている。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴にはならない。東壁南寄りに壁から若干張り出すタイプのカマドが布設されているが、焼土が見られるのみで、袖・袖石・袖石抜取痕は検出されなかった。この遺構からは、須恵器破片（図示不能）のほか、土師器甑（第 23 図 1・2）が出土している。




第 21 図　26・27 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）




第 22 図　28・29 号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

**31 号竪穴建物跡**（第 23 図、写真図版 9）

調査区北半中央部、28 号竪穴建物跡の北東で検出された、平面方形または長方形を呈すると思われる遺構で、30 号竪穴建物跡に大部分を切られているため規模の詳細は不明であるが、東西軸約 1.5 m＋α、南北軸約 3.2 m＋α、床面までの深さは最大で約 18cm を測る。北壁やや東寄りにカマドが布設されており、左袖は残存しないが、右袖の現存長約 44 cmである。袖石・袖石抜取痕は認められなかった。この遺構からは、図示可能な遺物は出土していない。

**32 号竪穴建物跡**（第 23 図、写真図版 9・10）

調査区北半東寄り、30・31 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形を呈すると思われる遺構であるが、西半を欠く。33 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 2.5 m、南北軸約 3.2 m、床面までの深さは最大で約 13cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるが、浅いため、主柱穴とは考えられない。東壁やや南寄りに、壁から張り出し、煙道を持つタイプのカマドが布設されており、両袖とも残存していないが、袖石抜取痕は認められ、その幅は約 64 cmを測る。袖石は右袖にのみ残存しており、左袖には袖石抜取痕が見られ、これらの幅は約 42 cmを測る。煙道は長さ約 1.0 mである。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示不能である。

**33 号竪穴建物跡**（第 23 図、写真図版 9・10）

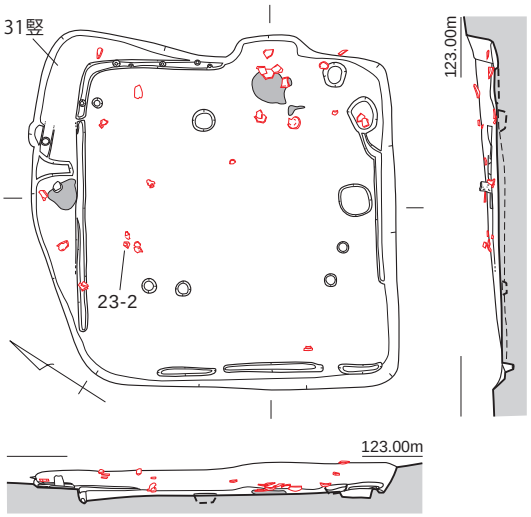
調査区北半東寄り、30・31 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構である。西半を欠き、32 号竪穴建物跡に大きく切られているため、規模の詳細は不明であるが、東西軸約 3.4 m、南北軸約 1.6 m＋α、床面までの深さは最大で約 28cm を測る。主柱穴は不明である。東壁中央に 32 号竪穴建物跡同様、壁から張り出し、煙道を持つタイプのカマドが布設されており、両袖とも残存していないが、左袖の袖石は残存していた。煙道は長さ約 1.3 mである。カマド内部では支脚痕と考えられるピットが検出された。この遺構からは、土師器や須恵器の破片が出土しているが、図示不能である。

**34 号竪穴建物跡**（第 24 図、写真図版 9・10）

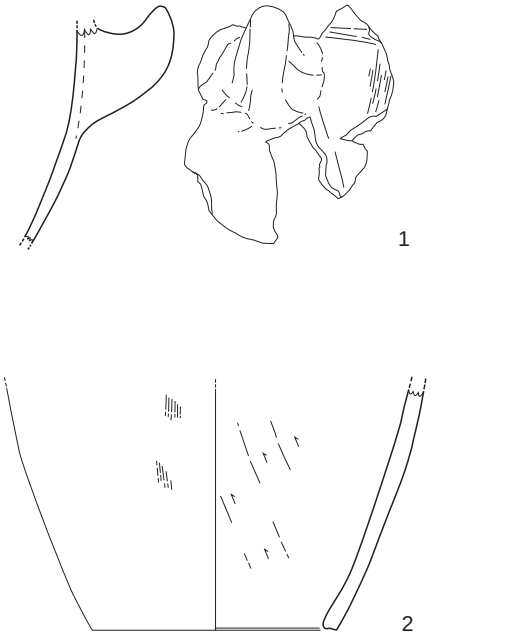
調査区北半東寄り、32・33 号竪穴建物跡の東で検出された平面方形を呈すると思われる遺構で、西半を欠き、35 ～ 38 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 1.7 m＋ α、南北軸約 2.6 m、床面までの深さは最大で約 7cm を測る。南壁付近でピットが 1 つ検出されているが、主柱穴となるかは不明である。東壁中央に焼土が見られることからカマドが布設されていたと考えられるが、袖や袖石・袖石抜取痕は確認できなかった。この遺構からは、須恵器坏、土師器坏（第 24 図 1・2）が出土している。

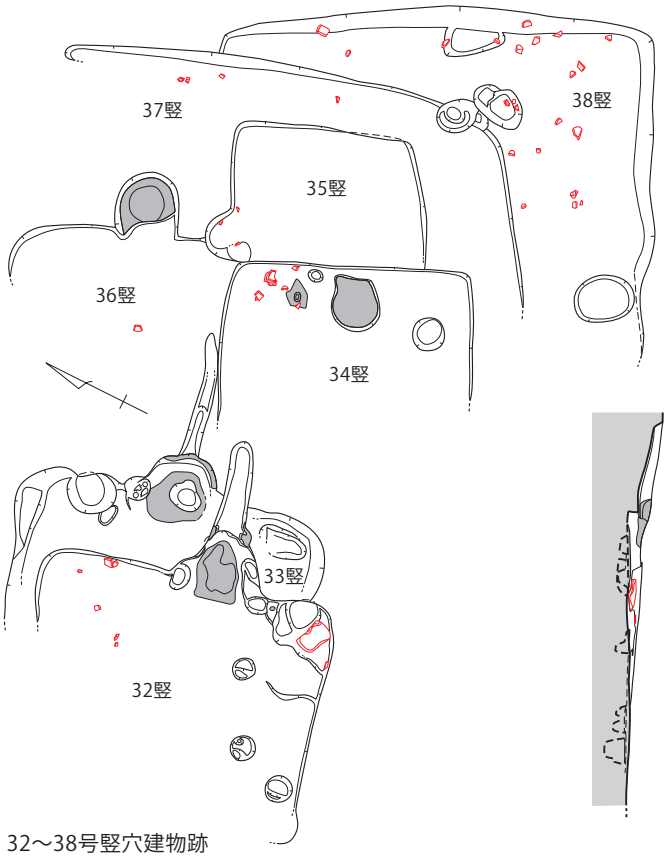
**35 号竪穴建物跡**（第 24 図、写真図版 9・10）

調査区北半東寄り、32・33 号竪穴建物跡の東で検出された平面方形を呈すると思われる遺構で、36 ～ 38 号竪穴建物跡を切り、34 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 1.5 m＋ α、南北軸約 2.0 mと小さな竪穴遺構で、床面までの深さは最大で約 12cm を測る。主柱穴は検出されなかった。北壁にカマドのような張り出しが見られるが、焼土は確認されていない。この遺構からは遺物は出土しなかった。




30・31号竪穴建物跡

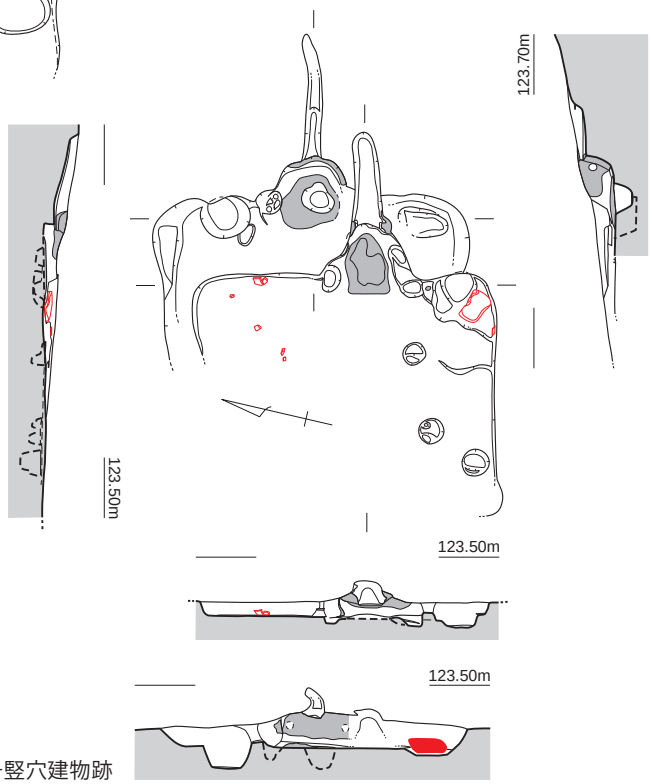



32～38号竪穴建物跡

0　2m

※アミは焼土




32・33号竪穴建物跡

第 23 図　30 ～ 33 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

**36 号竪穴建物跡**（第 24 図、写真図版 9・10）

調査区北半東寄り、32・33 号竪穴建物跡の東で検出された平面方形を呈すると思われる遺構で、37・38 号竪穴建物跡を切り、34・35 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 0.5 m＋ α、南北軸約 2.0 m＋α、床面までの深さは最大で約 8cm を測る。主柱穴は検出されなかった。東壁に焼土を伴う張り出しが見られ、カマドと考えられるが、袖や袖石・袖石抜取痕、また煙道は確認されていない。この遺構からは、須恵器破片（図示不能）や土師器坏（第 24 図 3・4）のほか、鉄鏃と考えられる破片（第 37 図 10）が出土している。

**37 号竪穴建物跡**（第 24 図、写真図版 9・10）

調査区北半東寄り、32・33 号竪穴建物跡の東で検出された平面方形を呈すると思われる遺構で、38 号竪穴建物跡を切り、34 ～ 36 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 2.1 m＋ α、南北軸約 4.7 m＋α、床面までの深さは最大で約 15cm を測る。床面の大部分を 34 ～ 36 号竪穴建物跡に切られているため、主柱穴は検出されなかった。焼土等も見られないため、カマドの有無は不明である。この遺構からは土師器破片が出土しているが、図示不能である。

**38 号竪穴建物跡**（第 25 図、写真図版 9・10・11）

調査区北半東寄り、32・33 号竪穴建物跡の東で検出された遺構で、34 ～ 37 号竪穴建物跡に切られる。平面は方形を呈し、東西軸約 3.8 m＋ α、南北軸約 4.7 m、床面までの深さは最大で約 45cm を測る。主柱穴は 4 本で、深さは約 43 ～ 71 ㎝を測る。北壁付近に焼土が見られ、カマドが存在したと思われるが、袖や袖石・袖石抜取痕等は確認されなかった。この遺構からは、須恵器坏蓋、土師器甕・甑（第 25 図 1 ～ 3）のほか、鉄鎌 1 点（第 37 図 3）と石製紡錘車 1 点（第 37 図 18）が出土している。

**39 号竪穴建物跡**（第 26 図、写真図版 11）

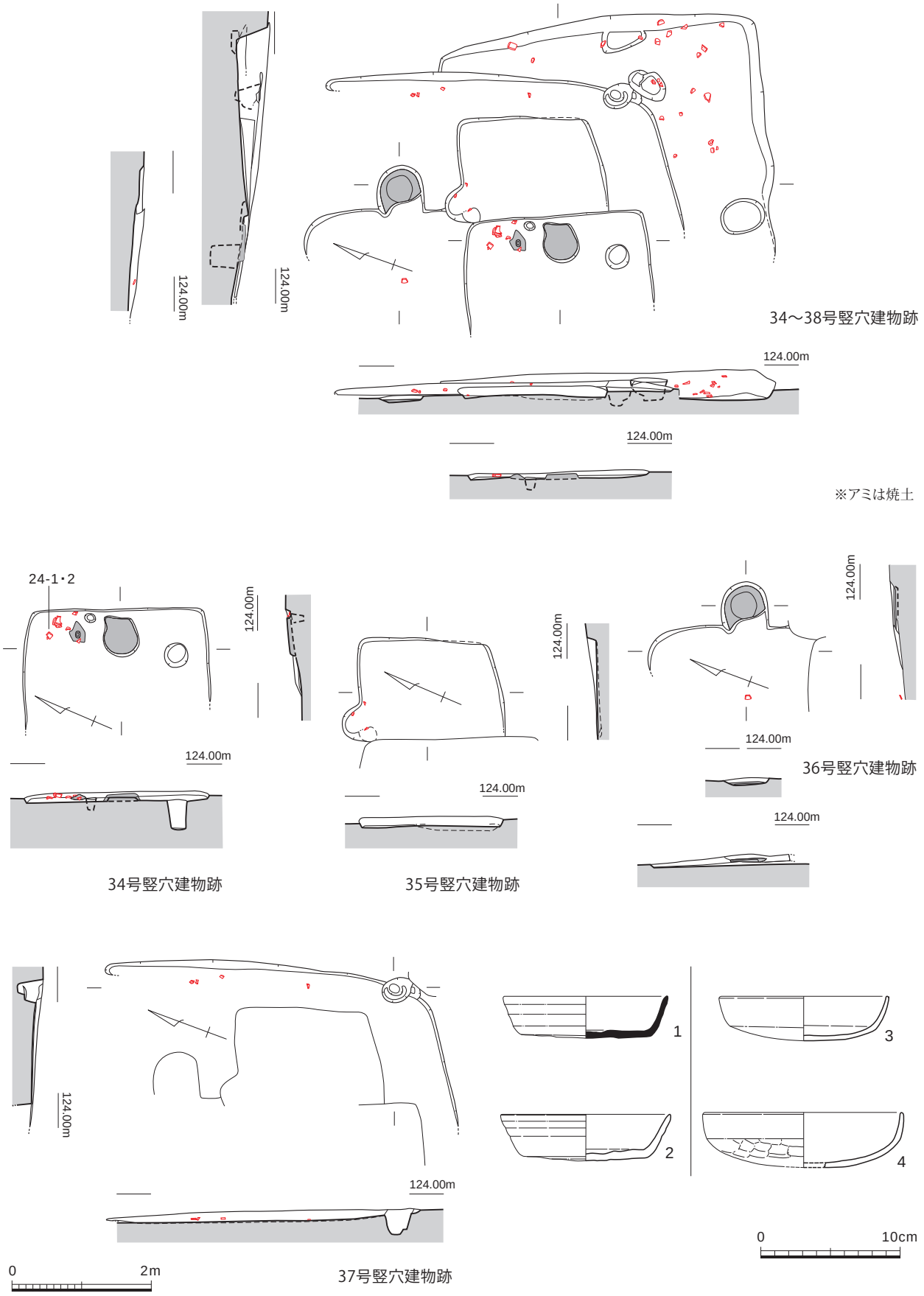
調査区北端中央部、29 号竪穴建物跡の北で検出された遺構で、北側は調査区外へ続く。平面方形を呈すると考えられ、40・41 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 3.5 m、南北軸約 2.8 m＋ α、床面までの深さは最大で約 3cm を測る。主柱穴は検出されなかった。南壁中央に焼土が見られ、カマドが存在したと思われるが、袖や袖石・袖石抜取痕等は確認されなかった。この遺構からは、須恵器坏、土師器高坏・甕（第 26 図 1 ～ 3）が出土している。

**40 号竪穴建物跡**（第 26 図、写真図版 11）

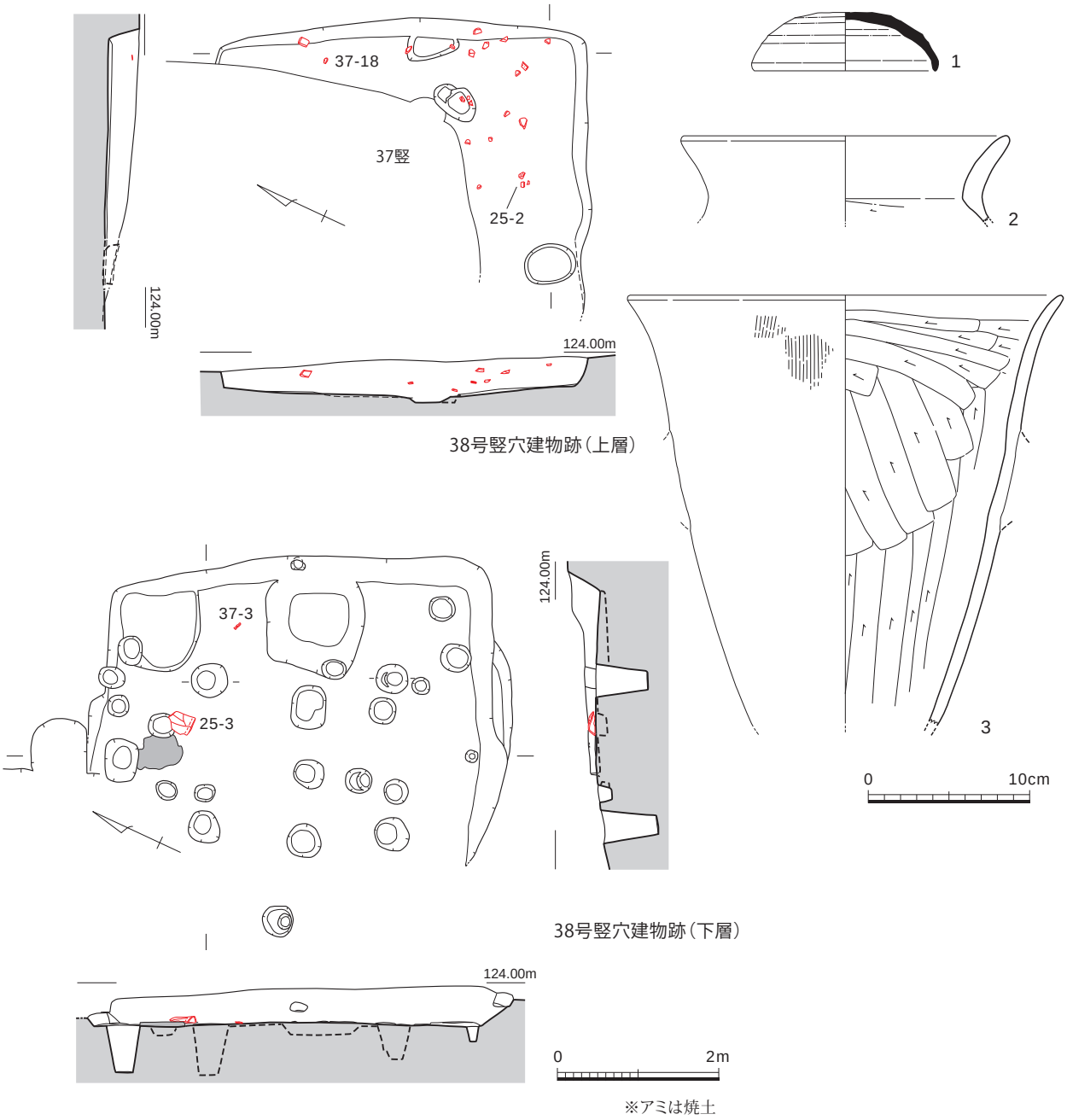
調査区北端中央部、29 号竪穴建物跡の北で検出された竪穴遺構で、北側は調査区外へ続く。41 号竪穴建物跡を切るが、大部分を 39 号竪穴建物跡に切られており、東西軸約 3.5 m、南北軸約 2.8 m＋α、床面までの深さは最大で 10 ㎝を測る平面方形を呈する遺構と思われるが、主柱穴等は不明である。また、焼土等も検出されなかったため、カマドの有無は不明である。

**41 号竪穴建物跡**（第 26 図、写真図版 11）

調査区北端中央部、29 号竪穴建物跡の北で検出された遺構で、北側は調査区外へ続く。平面方



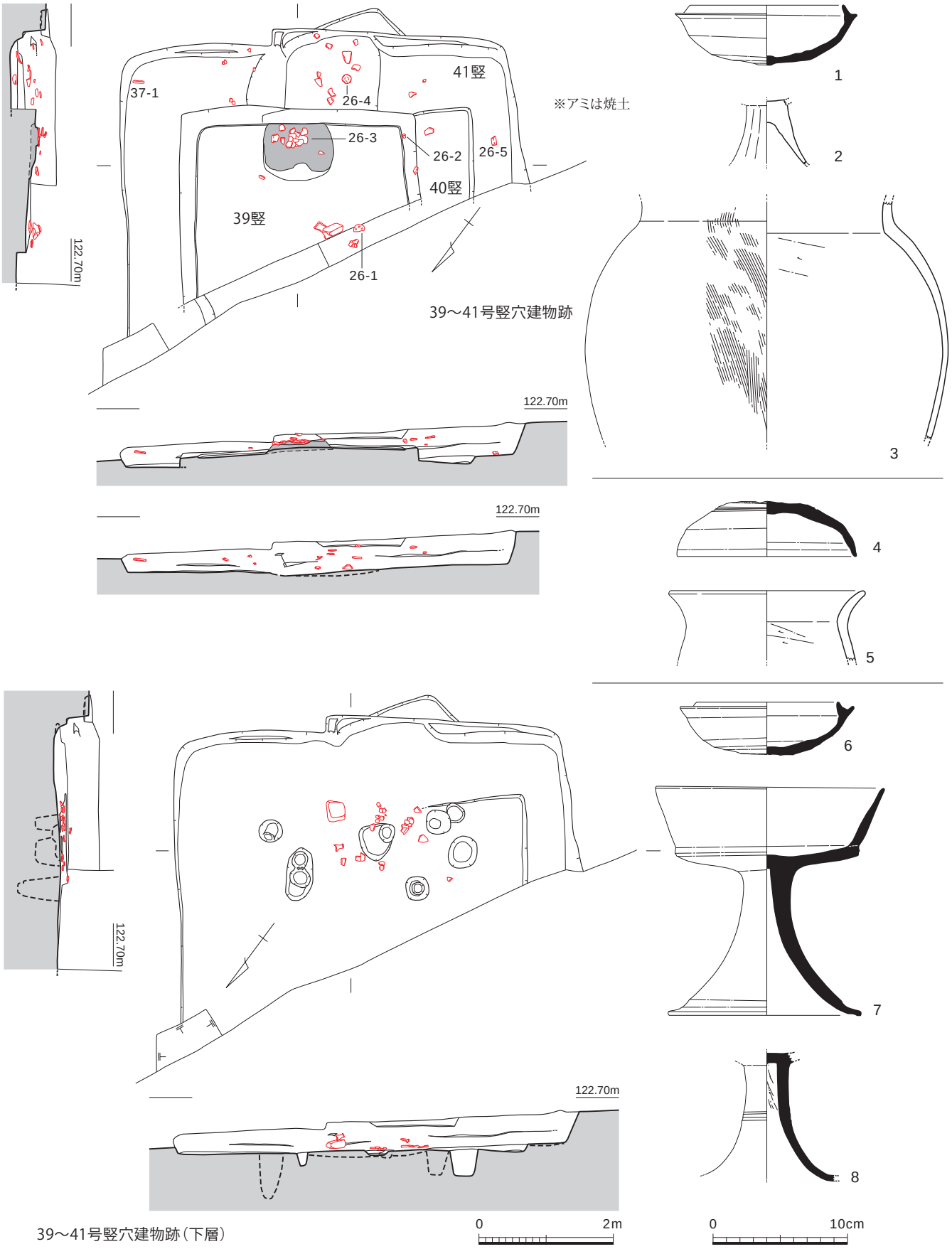

第 24 図　34 ～ 37 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）




第 25 図　38 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

形を呈すると考えられ、39・40 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 5.8 m、南北軸約 4.1 m＋ α、床面までの深さは最大で約 51cm を測る。主柱穴は調査区内では 2 本検出され、深さは約 40 ～ 65 cmを測るが、本来は 4 本柱と考えられる。また。焼土等も検出されなかったため、カマドの有無は不明である。この遺構からは、須恵器坏蓋、土師器甕（第 26 図 4・5）、鉄鎌（第 37 図 1）が出土している。

なお上記のほか、39 ～ 41 号竪穴建物跡として、須恵器坏・高坏（第 26 図 6 ～ 8）のほか、石製紡錘車（第 37 図 19）が出土している。




第 26 図　39 ～ 41 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

**42 号竪穴建物跡**（第 27 図、写真図版 11）

調査区北東隅、39 ～ 41 号竪穴建物跡の北東で検出された、平面不整方形を呈すると考えられる遺構で、西側を欠く。43 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 2.4 m＋ α、南北軸約 3.4 m、床面までの深さは最大で約 16cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。東壁南寄りに焼土が見られ、壁面より張り出して煙道を持つタイプのカマドが布設されていたと考えられるが、袖や袖石・袖石抜取痕等は確認されなかった。煙道は長さ約 40 cmを測る。この遺構からは、土師器甕（第 27 図 1）が出土している。

**43 号竪穴建物跡**（第 27 図、写真図版 11）

調査区北東隅、39 ～ 41 号竪穴建物跡の北東で検出された、平面不整方形を呈すると考えられる遺構で、西側を 42 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 2.3 m＋ α、南北軸約 3.6 m、床面までの深さは最大で約 22cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。東壁南寄りに壁面より若干張り出すタイプのカマドが布設されており、袖の現存長約 60 cm、袖幅は約 40 cmを測る。袖石や袖石抜取痕は確認されなかった。この遺構からは宝珠つまみが付くタイプの須恵器坏蓋が出土しているが、図示していない。

**44 号竪穴建物跡**（第 28 図）

調査区北東隅、42・43 号竪穴建物跡の東で検出された遺構であるが、焼土面は見られるものの、壁面が明確でなく、詳細は不明である。この遺構からは、土師器甕（第 28 図 1）が出土している。

**45 号竪穴建物跡**（第 28 図、写真図版 11）

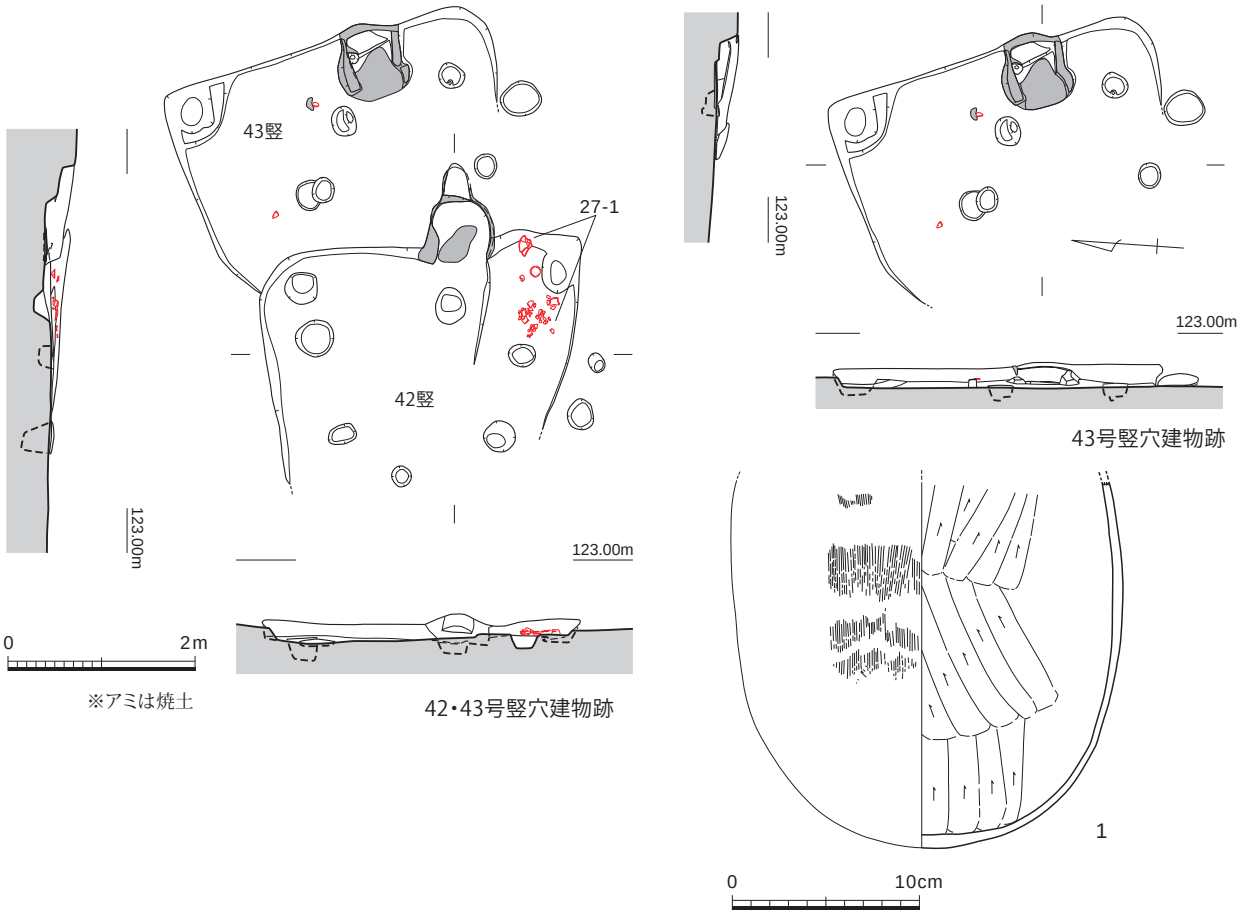
調査区北東隅、44 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形または長方形を呈すると考えられる遺構で、西半を 46・47 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 0.8 m＋ α、南北軸約 2.0 m＋ α、床面までの深さは最大で約 4cm を測る。主柱穴は検出できなかった。東壁に壁面より張り出すタイプのカマドが布設されているが、袖や袖石・袖石抜取痕等は確認されなかった。この遺構からは須恵器片（図示不能）のほか、土師器埦の高台部（第 28 図 2）が出土している。

**46 号竪穴建物跡**（第 28 図、写真図版 11）

調査区北東隅、44 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形または長方形を呈すると考えられる遺構で、45 号竪穴建物跡を切り、西側の大部分を 47 号竪穴建物跡に切られる。東西軸約 0.8 m＋α、南北軸約 2.0 m＋α、床面までの深さは最大で約 9cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるものの、主柱穴は不明である。東壁の外側に焼土が見られ、壁面より張り出すタイプのカマドが存在した可能性がある。この遺構からは須恵器や土師器の破片が出土しているが、図示不能である。

**47 号竪穴建物跡**（第 28 図、写真図版 11）

調査区北東隅、44 号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形または長方形を呈すると考えられる遺構で、45・46 号竪穴建物跡を切る。東西軸約 1.0 m＋ α、南北軸約 3.6 m＋ α、床面までの




第 27 図　42・43 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

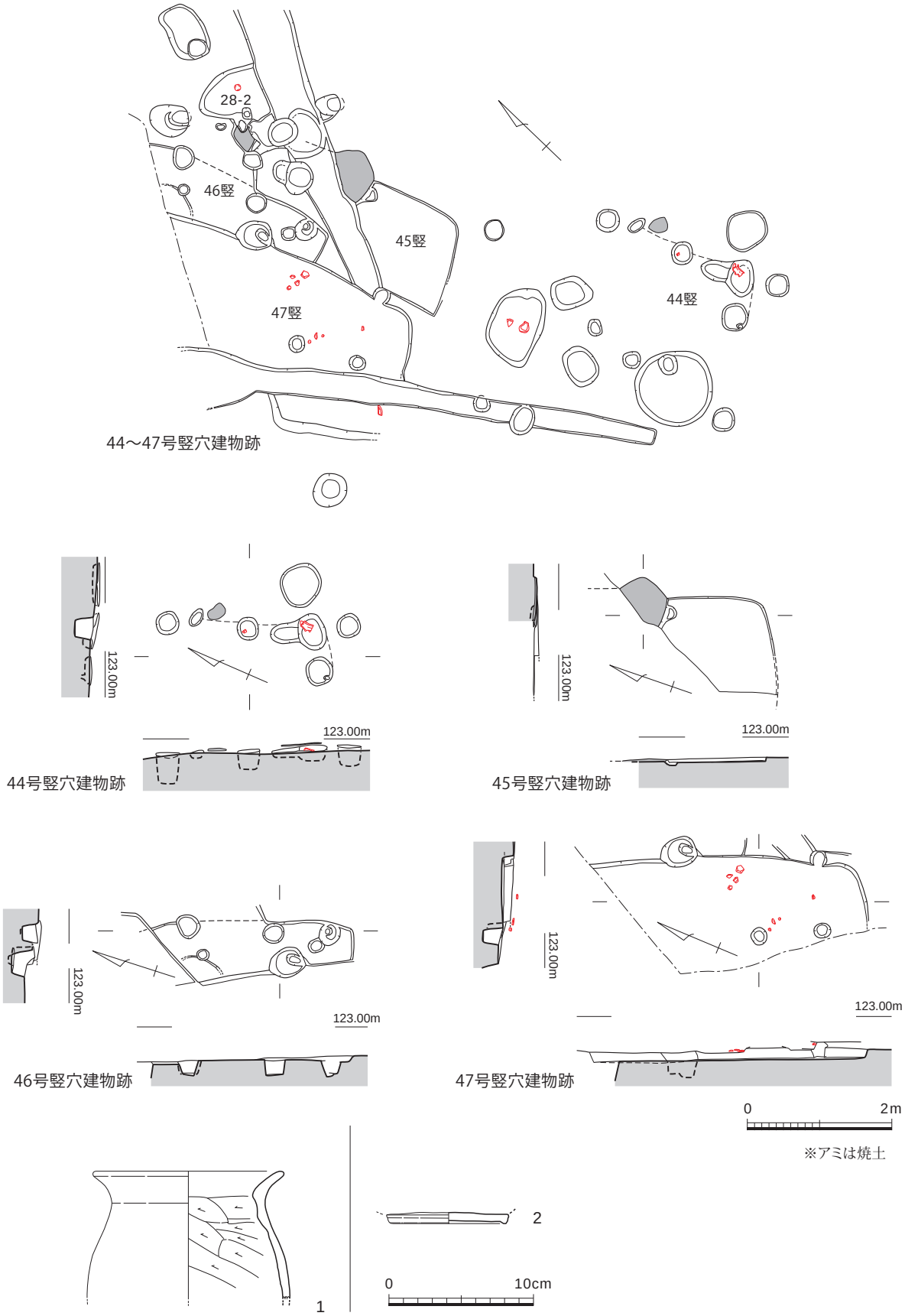
深さは最大で約 12cm を測る。遺構内に複数のピットが見られるものの、主柱穴は不明である。調査区内ではカマドや焼土は見られないため、その有無は不明である。この遺構からは須恵器や土師器の破片が出土しているが、図示不能である。ほかに刀子（第 37 図 7）が出土している。

### 2）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は全部で 7 棟確認された。内訳は、2 間 ×2 間の総柱建物 3 棟、2 間 ×2 間の側柱建物 1 棟、3 間× 3 間の側柱建物 2 間、3 間× 3 ＋ α 間の側柱建物 1 棟である。1 号を除き、構造や規模にばらつきはあるものの、2・3、4・5、6・7 号がそれぞれ隣り合うまたは近接して存在している。以下それぞれの建物ごとに説明を加える。

#### 1 号掘立柱建物跡（第 29 図、写真図版 11）

調査区中央部西寄りで検出された建物跡で、今回の調査で検出されている遺構の中で最南端の遺構となる。近くに竪穴建物や土坑が存在せず、集落の端に単独で存在する。主軸方向をＮ－ 61°－Ｅにとり、柱間は 2 間× 2 間の総柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約 3.0 m × 約 3.4 m、検出面での柱穴の掘り方直径は 40 ～ 60 ㎝、柱穴の深さは 20 ～ 70 ㎝を測る。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは、遺物の出土はなかった。




第 28 図　44 ～ 47 号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

**2 号掘立柱建物跡**（第 29 図）

調査区北西隅付近で検出された建物跡で、25 号竪穴建物跡を切る。主軸方向をＮ－ 48°－Ｗにとり、柱間は 2 間× 2 間の総柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約 2.7 ｍ × 約 3.6 ｍ、検出面での柱穴掘り方直径は 40 ～ 70 ㎝、柱穴の深さは 40 ～ 70 ㎝を測る。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**3 号掘立柱建物跡**（第 29 図、写真図版 11）

調査区北西隅付近、2 号掘立柱建物跡の東隣で検出された建物跡で、24 号竪穴建物跡を切る。主軸方向をＮ－ 52°－Ｗにとり、柱間は 2 間× 2 間の側柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約 2.3 ｍ×約 2.6 ｍ、検出面での柱穴掘り方直径は 30 ～ 60 ㎝、柱穴の深さは 40 ～ 75 ㎝を測る。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**4 号掘立柱建物跡**（第 30 図、写真図版 12）

調査区北東隅付近、34 ～ 38 号竪穴建物跡の南で検出された建物跡である。主軸方向をＮ－ 16°－Ｗにとり、柱間は 3 間× 3 間の側柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約 4.5 ｍ × 約 4.6 ｍ、検出面での柱穴掘り方直径は 30 ～ 60 ㎝、柱穴の深さは 20 ～ 60 ㎝を測る。柱痕跡は検出されなかった。第 30 図Ｐ 1 の柱穴より須恵器坏の破片が出土しているが、図示不能である。

**5 号掘立柱建物跡**（第 30 図、写真図版 12）

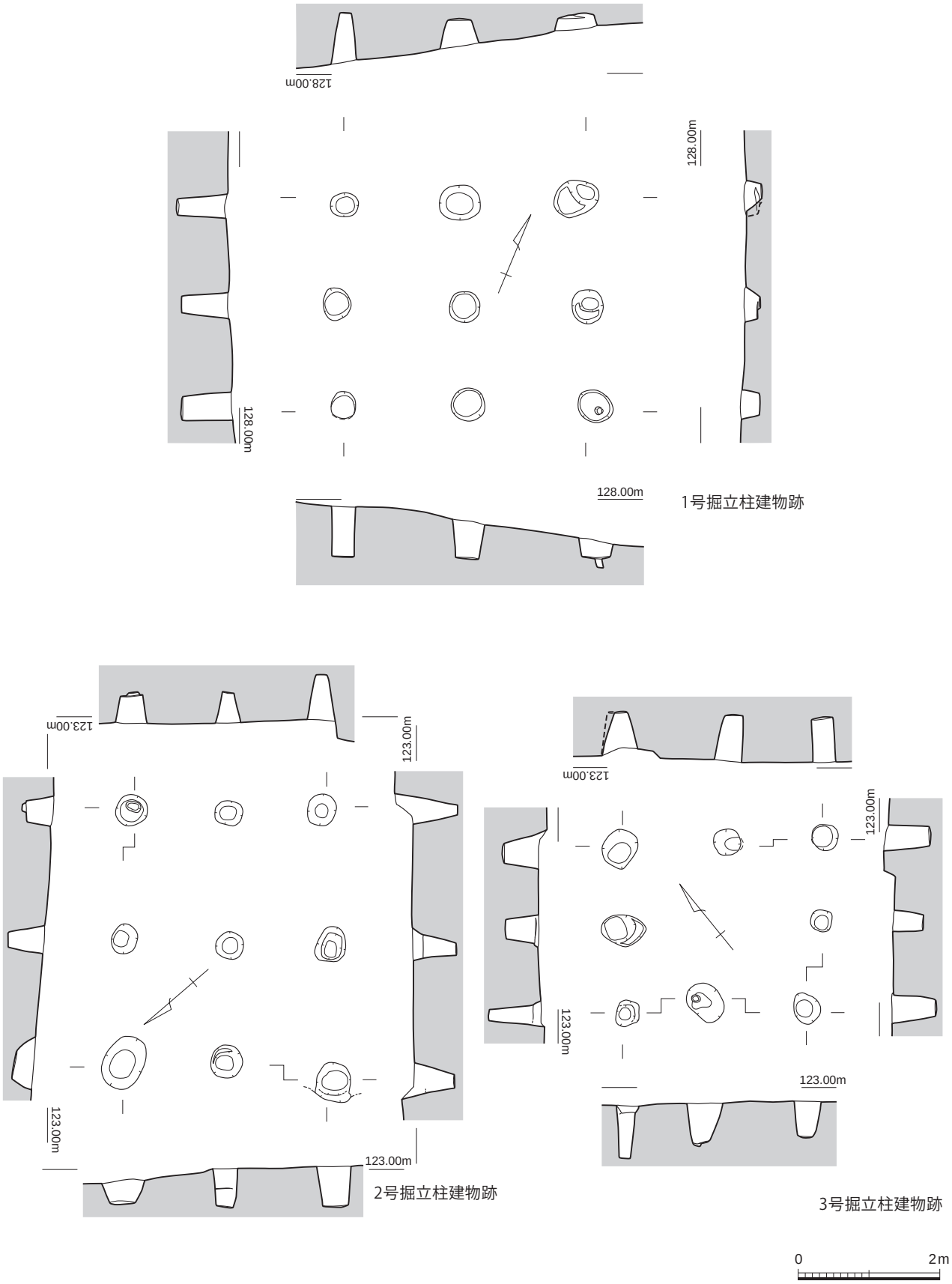
調査区北東隅付近、4 号掘立柱建物跡の東隣で検出された建物跡である。主軸方向をＮ－ 27°－Ｗにとり、柱間は 3 間× 3 間の側柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約 3.4 ｍ × 約 3.8 ｍ、検出面での柱穴掘り方直径は 30 ～ 80 ㎝、柱穴の深さは 10 ～ 50 ㎝を測る。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**6 号掘立柱建物跡**（第 31 図）

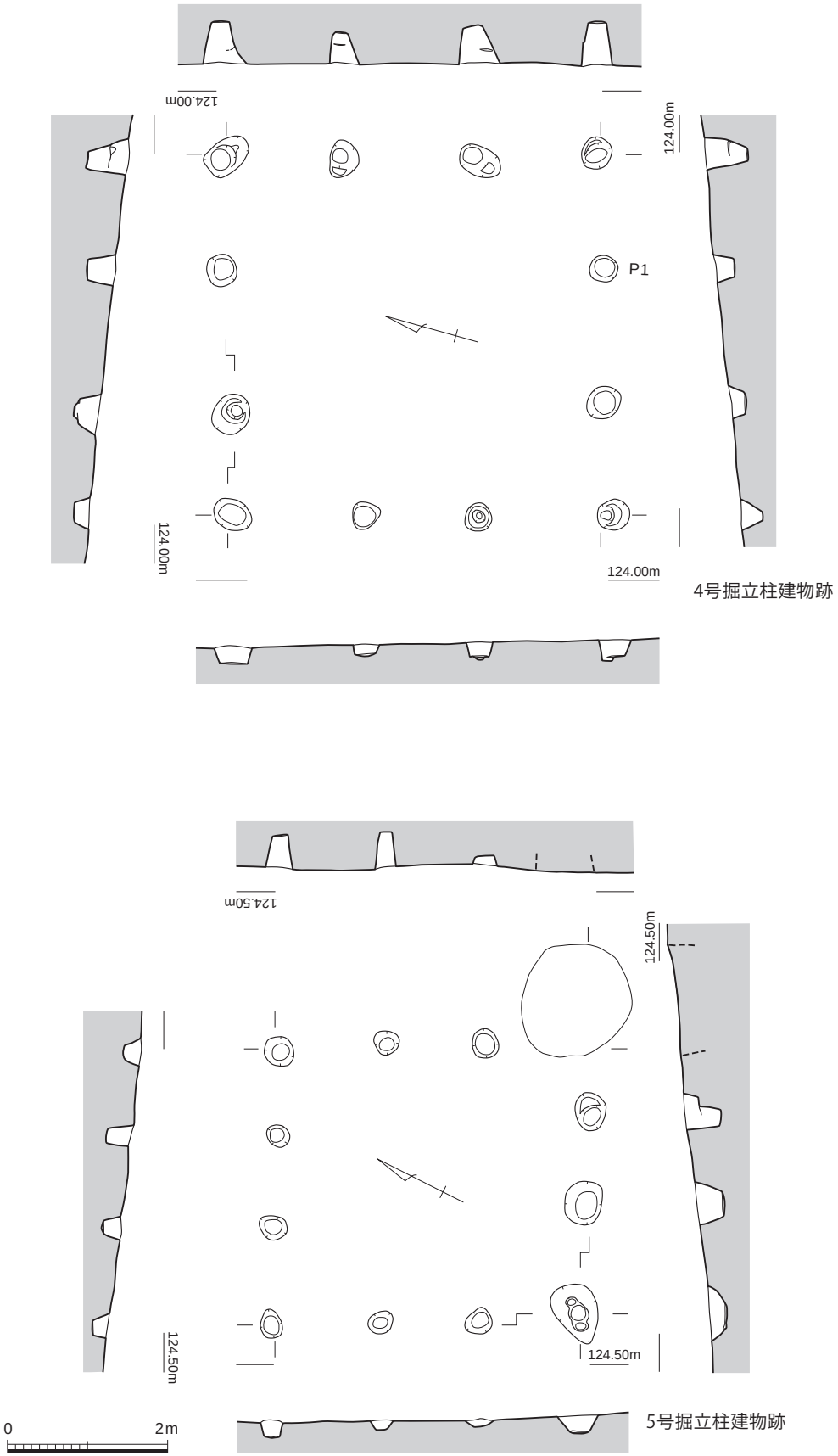
調査区北半、9 号竪穴建物跡と重複して検出された建物跡で、9 竪穴建物跡を切る。主軸方向をＮ－ 30°－Ｗにとり、柱間は 2 間× 2 間の総柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約 2.7 ｍ×約 2.9 ｍ、検出面での柱穴掘り方直径は 25 ～ 70 ㎝、柱穴の深さは 10 ～ 50 ㎝を測る。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**7 号掘立柱建物跡**（第 31 図）

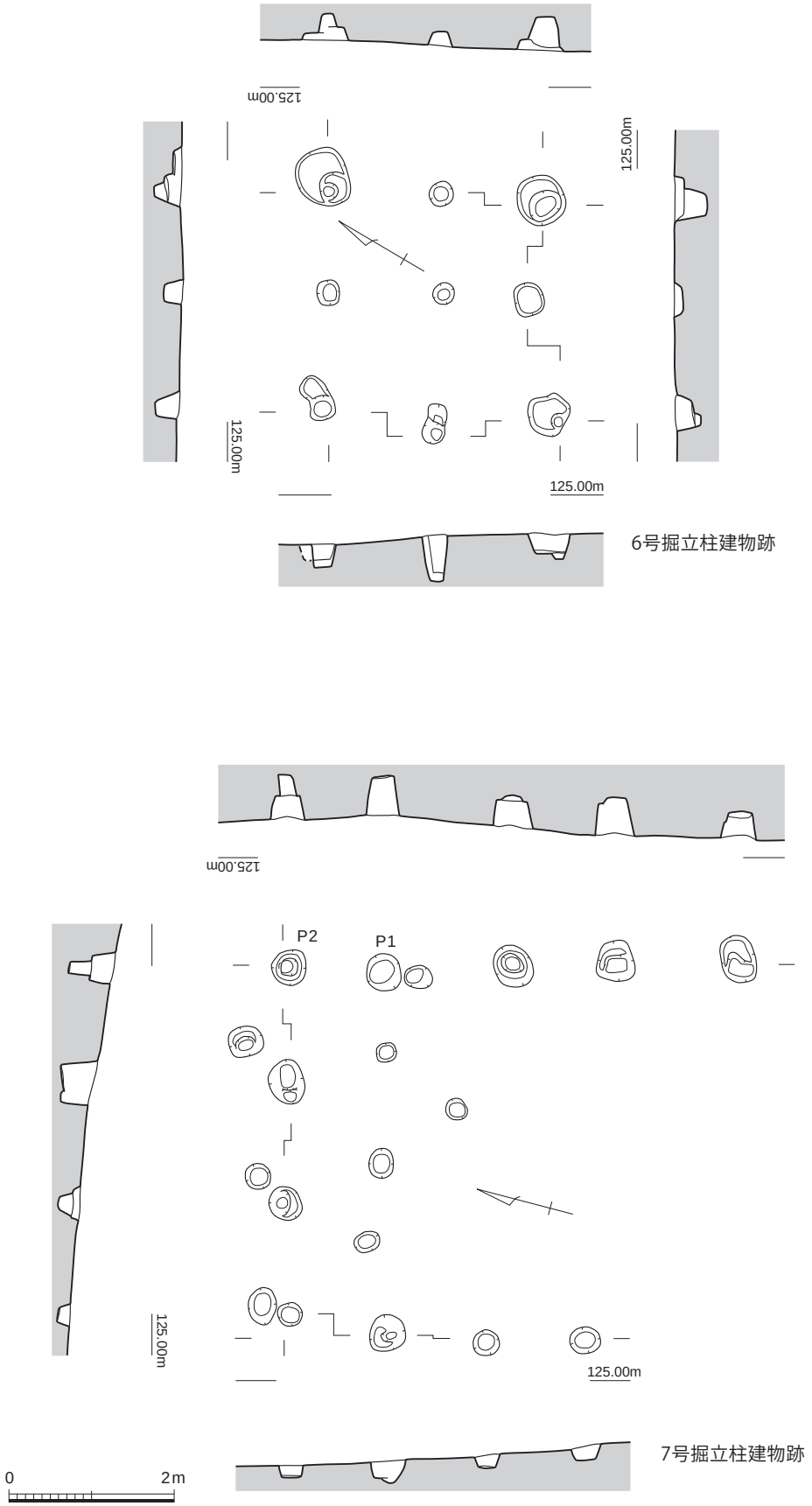
調査区北半、6 号掘立柱建物跡の北で検出された建物跡である。主軸方向をＮ－ 14°－Ｗにとり、柱間は 3 間× 3 間＋ α で北側に 1 間の庇がつく側柱建物である。庇を含む規模は、柱穴間の心心距離で約 4.4 ｍ×約 5.6 ｍ＋ α 、検出面での柱穴掘り方直径は 30 ～ 60 ㎝、柱穴の深さは 15 ～ 60 ㎝を測る。柱痕跡は検出されなかった。第 31 図Ｐ 1 より土師器片が出土しているが、図示不能である。またＰ 2 より石製紡錘車（第 37 図 20）が出土している。




第 29 図　1 ～ 3 号掘立柱建物跡実測図 (1/80)




第 30 図　4・5 号掘立柱建物跡実測図（1/80）




第 31 図　6・7 号掘立柱建物跡実測図 (1/80)

### 3）井戸

井戸は2基確認された。いずれも調査区北半、集落の中に存在する。

**1号井戸**（第32図）

調査区北半中央部、5号竪穴建物跡の西で検出された遺構である。検出面での平面プランは約2.4m×約2.1mの楕円形を呈し、深さは210㎝を測る。断面はほぼ筒状を呈するが、検出面よりも底面のほうが若干広くなっている。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**2号井戸**（第32図）

調査区北半中央部、1号竪穴建物跡の東で検出された遺構で、5号竪穴建物跡を切る。検出面での平面プランは約2.1m×約1.8mの不整楕円形を呈し、深さは200㎝を測る。底面に向かって若干すぼまる。この遺構からは土師器高坏の破片が出土しているが、図示不能である。

### 4）土坑

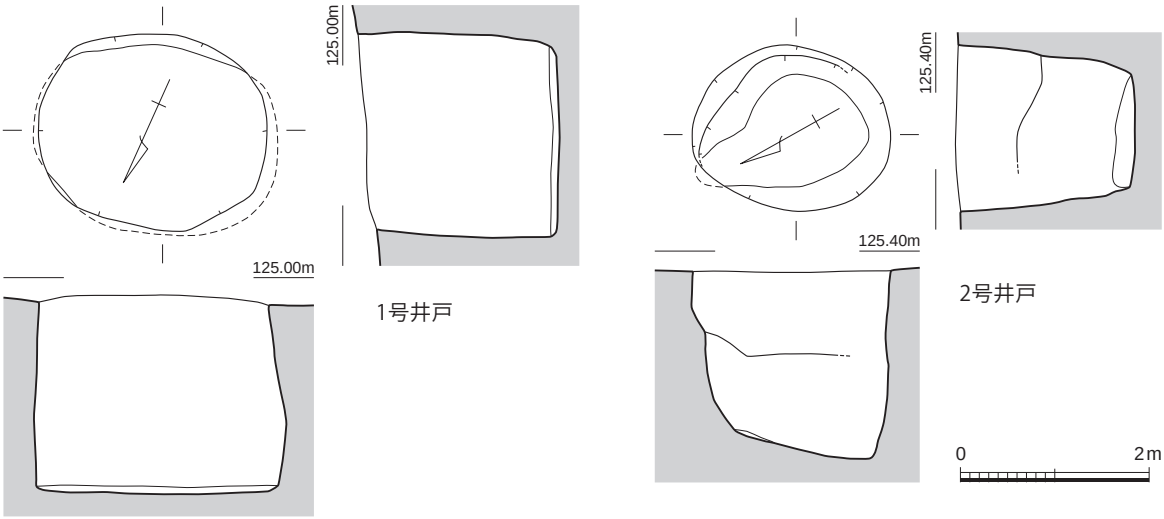
土坑は全部で20基検出された。調査区中央から南側の斜面の高い部分には見られず、北半の集落の中に点在する。以下説明を加える。

**1号土坑**（第33図、写真図版12）

調査区中央部東端、1号竪穴建物跡の北で検出された土坑で、平面長方形を呈する。検出面での規模は、長軸約1.8m、短軸約1.2m、底面までの深さは約20㎝を測る。この遺構からは土師器の破片が出土しているが、図示不能である。

**2号土坑**（第34図、写真図版12）

調査区中央部、1号掘立柱建物跡の南東で検出された土坑で、ピットを除くA地点の遺構の中では最も高い位置にある。平面円形を呈する。検出面での規模は、長軸約1.4m、短軸約1.3m、底面までの深さは約150㎝、を測り、そこからさらに底面中央部はピット状に約100㎝深くなる。この遺構からは遺物の出土はなかった。




第32図　1・2号井戸実測図（1/80）

**3 号土坑**（第 34 図）

調査区北半、11・12 号竪穴建物跡と 7 号掘立柱建物跡の間で検出された土坑で、平面不整円形を呈する。検出面での規模は、長軸約 2.3 m、短軸約 2.2 m、底面までの深さは約 280 ㎝を測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**4 号土坑**（第 33 図）

調査区北半、13 号竪穴建物跡の西で検出された土坑である。平面は細長い形状を呈し、一方の端部はピット状の掘り込みがある。検出面での規模は、長軸約 2.5 m、短軸約 0.5 m、底面までの深さは約 10 ㎝、ピット状部分の深さは約 15 ㎝を測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**5 号土坑**（第 34 図、写真図版 12）

調査区北西隅、27 号竪穴建物跡の東で検出された土坑で、27 号竪穴建物跡は東側を欠いているため、本来は 27 号竪穴建物跡との切り合い関係があったはずであるが、詳細は不明である。17 号土坑を切る。平面楕円形を呈する。検出面での規模は、長軸約 1.6 m、短軸約 1.1 m、底面までの深さは約 180 ㎝を測る。検出面よりも底面の方がわずかに広くなっている。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**6 号土坑**（第 33 図、写真図版 12）

調査区北半、42・43 号竪穴建物跡の南で検出された土坑で、平面不整形を呈し、西側を欠く。検出面での規模は、長軸約 1.9 m、短軸約 1.0 m＋ α、底面までの深さは約 10 ㎝を測る。k の遺構からは土師器片や陶器片、高台付きの須恵器坏片などが出土しているが、図示不能である。

**7 号土坑**（第 33 図、写真図版 12）

調査区中央部、3 号竪穴建物跡と 6 号竪穴建物跡の間で検出された土坑で、平面不整形を呈する。検出面での規模は、長軸約 0.9 m、短軸約 0.8 m、底面までの深さ約 15 ㎝を測る。土坑内部には炭・焼土が見られる。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示不能である。

**8 号土坑**（第 34 図）

調査区中央部東端で検出された土坑で、4 号竪穴建物跡を切る。平面楕円形を呈する。検出面での規模は、長軸約 1.9 m、短軸約 1.5 m、底面までの深さは約 200 ㎝を測り、底面東側はさらに約 120 ㎝深くなる。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**9 号土坑**（第 34 図）

調査区中央部西端、7 号竪穴建物跡の西で検出された土坑である。平面円形を呈するが、地中で広がり、底面は長楕円形を呈する。検出面での規模は、長軸約 1.0 m、短軸約 0.9 m、底面までの深さ約 160 ㎝を測る。底面の規模は長軸約 2.0 m、短軸約 1.1 m である。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**10 号土坑**（第 33 図、写真図版 12）

調査区北半東寄りで検出された土坑で、8 号竪穴建物跡を切る。平面長方形を呈する。検出面での規模は、長軸約 1.8 m、短軸約 1.0 m、底面までの深さは約 40 ㎝を測る。内部では浮いた状態で焼土が検出された。この遺構からは、須恵器や土師器の破片のほか、須恵器坏蓋（第 36 図 1）が出土している。

**11 号土坑**（第 33 図、写真図版 12）

調査区北半、10 号竪穴建物跡と重複して検出された土坑で、10 号竪穴建物跡を切る。平面楕円形を呈する。検出面での規模は、長軸約 0.6 m、短軸約 0.5 m、底面までの深さ約 15 ㎝を測る。検出面では礫が多く出ており、その礫の下には炭が見られる。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**12 号土坑**（第 34 図）

調査区北半、16・17 号竪穴建物跡の西で検出された土坑で、平面楕円形を呈する。検出面での規模は、長軸約 1.8 m、短軸約 1.5 m、底面までの深さ約 220 ㎝を測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**13 号土坑**（第 35 図）

調査区北半、16 号竪穴建物跡の北西で検出された土坑で、5 号掘立柱建物跡を切る。平面楕円形を呈し、検出面での規模は、長軸約 1.6 m、短軸約 1.3 m、底面までの深さ約 210 ㎝を測る。検出面よりも底面の方がわずかに広がっている。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**14 号土坑**（第 35 図）

調査区北半、5 号掘立柱建物跡と 38 号竪穴建物跡の間で検出された土坑で、平面不整形を呈する。検出面での規模は、長軸約 3.0 m、短軸約 1.9 m、底面までの深さ約 30 ㎝を測る。底面中央部にはピット状の堀込みがあり、この深さは約 50 ㎝である。この遺構からは、須恵器坏蓋や土師器甑（第 36 図 2・3）が出土している。

**15 号土坑**（第 35 図）

調査区北半、19 号竪穴建物跡の北で検出された土坑で、22-2 および 23 号竪穴建物跡を切る。平面不整楕円形を呈する。検出面での規模は、長軸約 3.4 m、短軸約 2.2 m、底面までの深さ約 150 ㎝を測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**16 号土坑**（第 36 図）

調査区北半、14 号竪穴建物跡の主柱穴のひとつと重複して検出された土坑で、14 号竪穴建物跡を切る。平面不整円形を呈する。検出面での規模は、直径約 0.9 m、底面までの深さ約 160 ㎝を測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**17 号土坑**（第 35 図、写真図版 12）

調査区北西隅で検出された土坑で、5 号土坑と重複し切られる。平面不整方形を呈し、検出面での規模は長軸約 3.2 m、短軸約 3.0 m、底面までの深さ約 40 ㎝を測り、遺構内のピットの深いものは深さ約70㎝である。この遺構からは須恵器や土師器の破片が出土しているが、図示不能である。

**18 号土坑**（第 33 図）

調査区北半、9 号竪穴建物跡・6 号掘立柱建物跡と 10 号竪穴建物跡の間で検出された土坑で、9 号竪穴建物跡との切り合い関係は不明であるが、6 号掘立柱建物跡に切られる。平面長方形を呈し、検出面での規模は、長軸約 1.9 m、短軸約 0.8 m、底面までの深さ約 20 ㎝を測り、北西隅のピット状の掘り込みは深さ約 50 ㎝である。この遺構からは土師器片（図示不能）が出土している。

**19 号土坑**（第 35 図）

調査区北半、17 号竪穴建物跡と重複して検出された土坑で、17 号竪穴建物跡を切る。平面円形を呈し、検出面での規模は直径約 1.2 m、底面までの深さ約 170 ㎝を測る。検出面から底面までほとんど形状が変わらず、断面は筒状を呈する。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**20 号土坑**（第 35 図）

調査区北半、16 号竪穴建物跡と重複して検出された土坑で、16 号竪穴建物跡を切る。平面は複数のピットが重なった形状を呈する。検出面での規模は、長軸約 2.0 m、短軸約 1.4 m、深さは最深で約 50 ㎝を測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

**5）溝**（第 5 図）

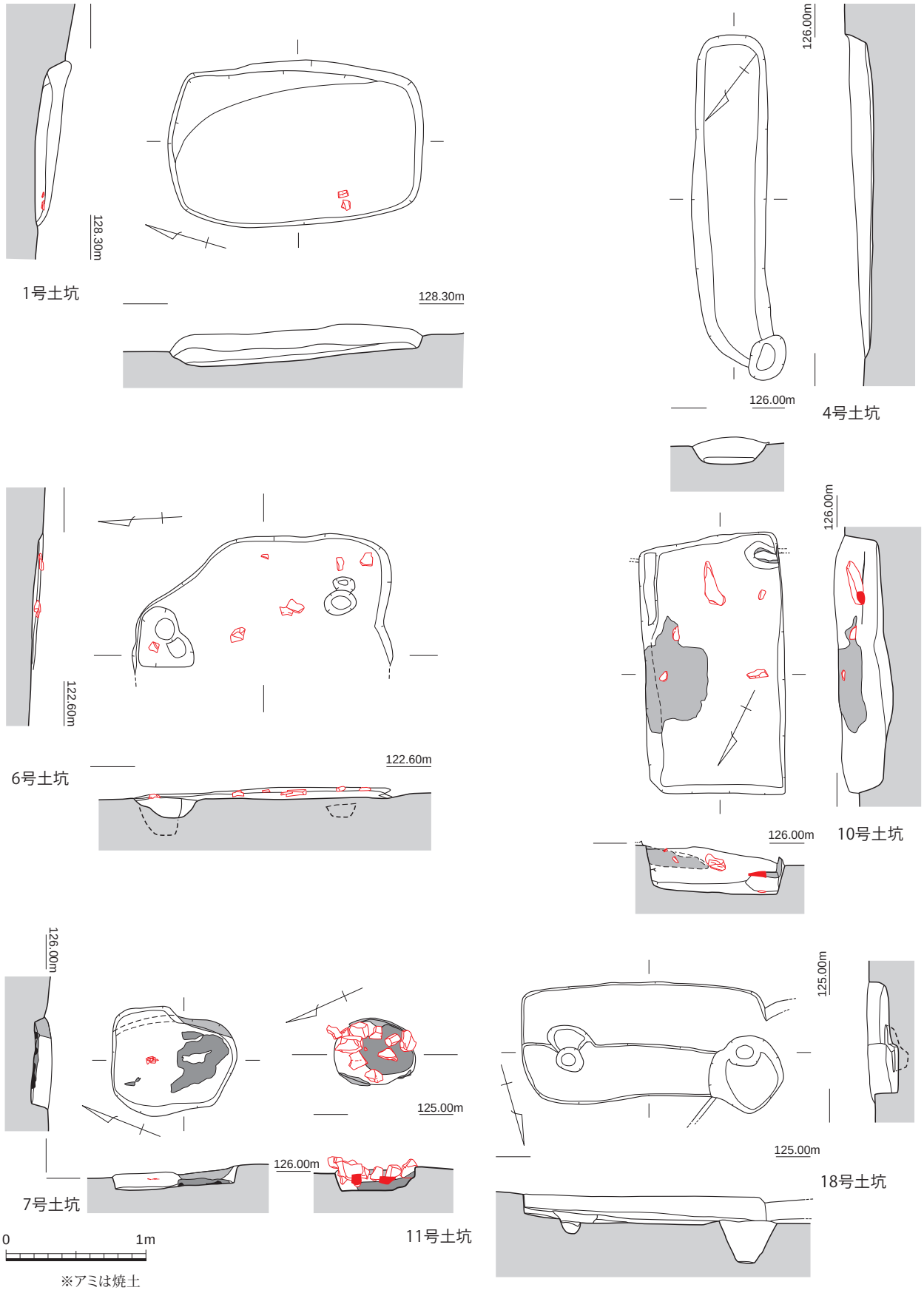
調査区内では、従前の畑の段以外に溝状の遺構が複数検出されているが、遺構としては下記の 3 条の溝が認められた。ただし、遺構全体図には図示したものの、個別遺構図を作成していなかったため、溝の深さや埋土の状況などは不明であることをお詫びする。

**1 号溝**

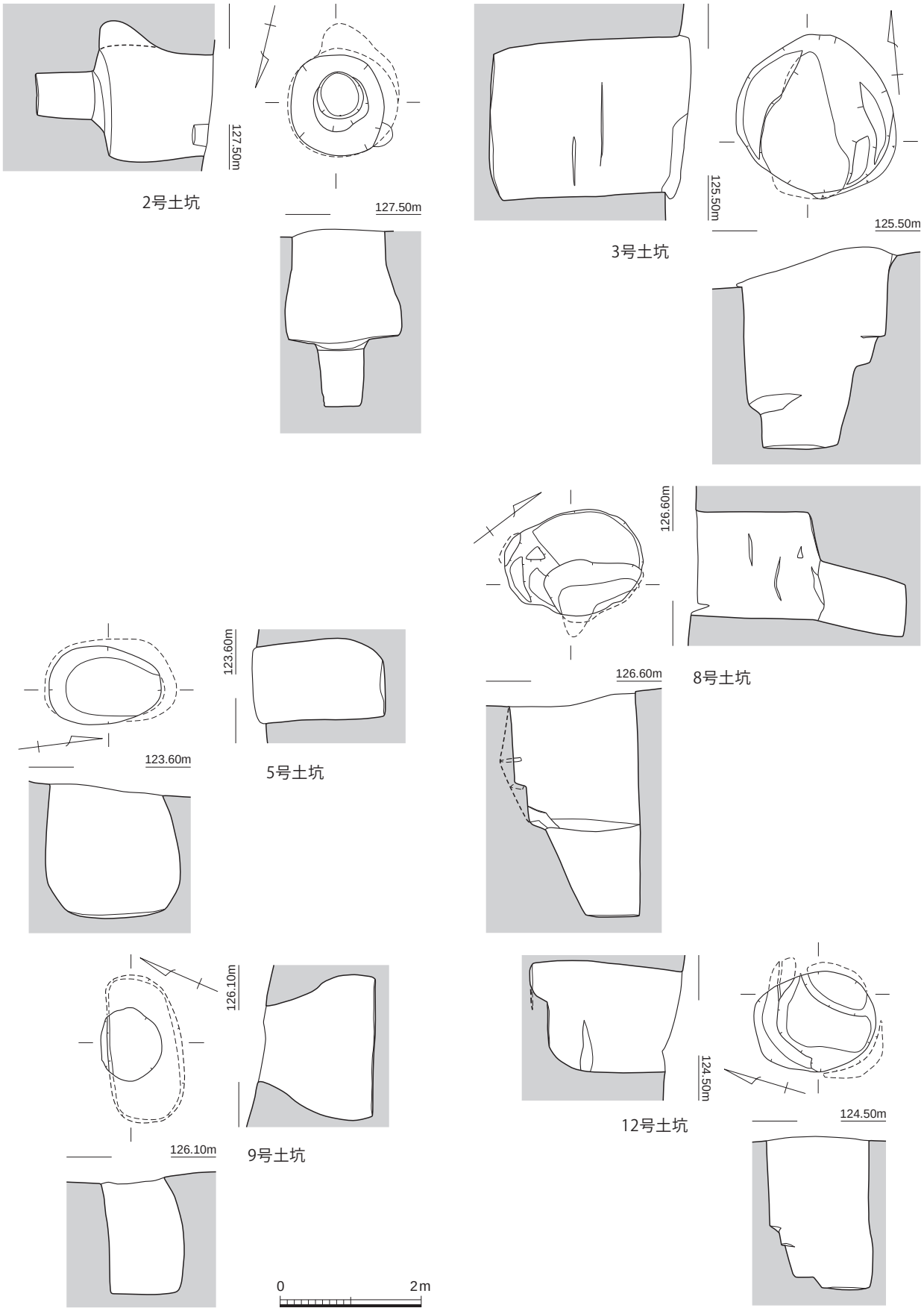
調査区北西隅、39 ～ 41 号竪穴建物跡と 5・17 号土坑の間で検出された溝で、南北方向、すなわち谷の傾斜に沿った方向に伸びる。北側は調査区外へ続き、調査区内で検出された規模は、長さ約 4.6 m、幅約 25 ㎝である。この溝からは遺物の出土はなかった。

**2 号溝**

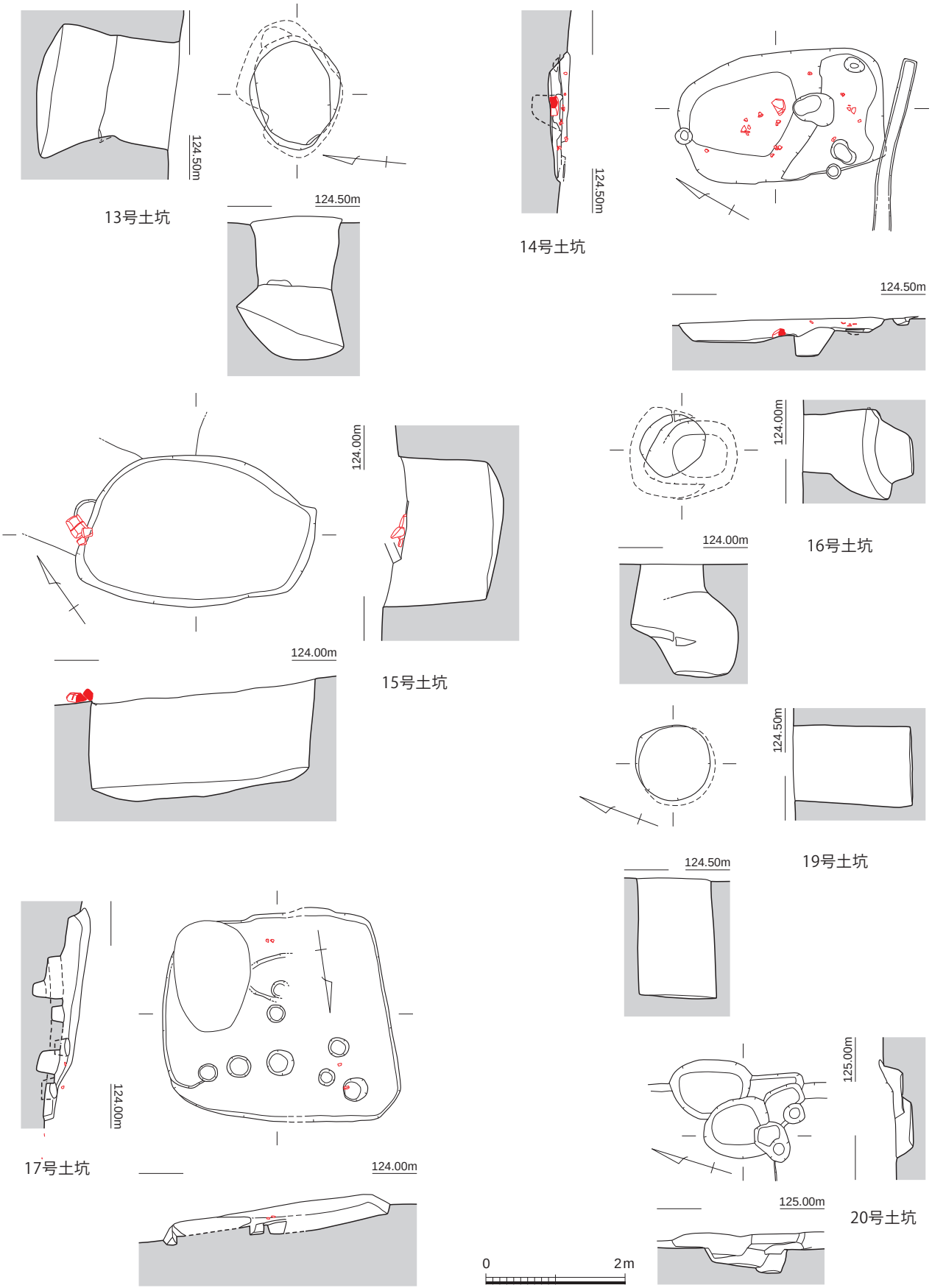
調査区北東隅で検出された溝である。1 号溝同様、谷の傾斜に沿った方向に 3 つに途切れながら伸びているが、本来は一連のものであったと考えられる。北側は調査区外へ続き、調査区内で検出された規模は、長さ約 27 m、幅約 20 ㎝である。34・36・47 号竪穴建物跡を切り、32・33 号竪穴建物跡に切られる。4 号掘立柱建物跡・43・44 号竪穴建物跡との切り合い関係は不明である。この溝からは遺物の出土はなかった。



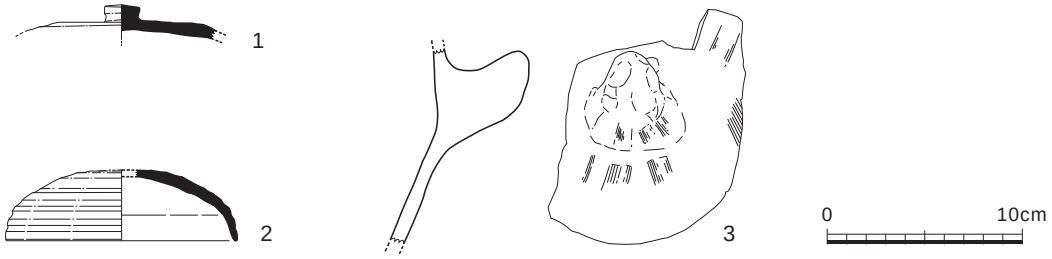

第 33 図　土坑実測図① (1/40)




第 34 図　土坑実測図② (1/80)




第 35 図　土坑実測図③（1/80）




第 36 図　土坑出土遺物実測図 (1/4)

### 3 号溝

調査区中央部東寄りで検出された溝である。1・2 号溝と異なり、谷の傾斜とは関係なく、平面形は弧を描く。検出された規模は、長さ約 10.1 m、幅約 35 ㎝を測り、弧の一方は 13 号竪穴遺構に切られる。この溝からは須恵器や土師器の破片が出土しているが、図示不能である。

### 6）その他の遺物（第 37・38 図、写真図版 18）

前節までに記述してきた土器・鉄製品・鉄生産関連遺物・石製品のほかに、各遺構や包含層などから石製品・石器が出土している。各遺物の詳細については第 3・4 表にまとめている。

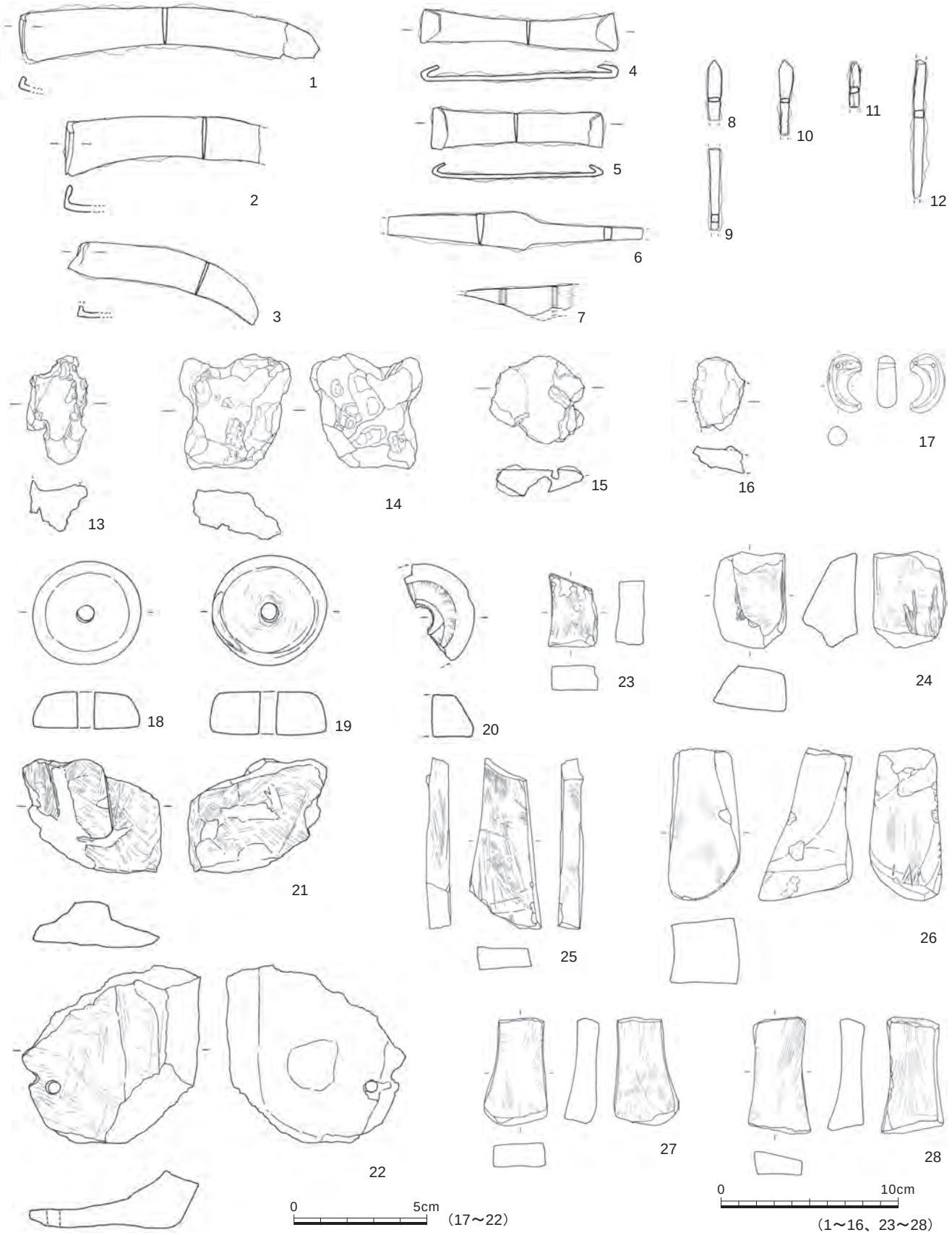
## (3) 小結

長迫遺跡Ａ地点の調査結果について、簡単にまとめる。

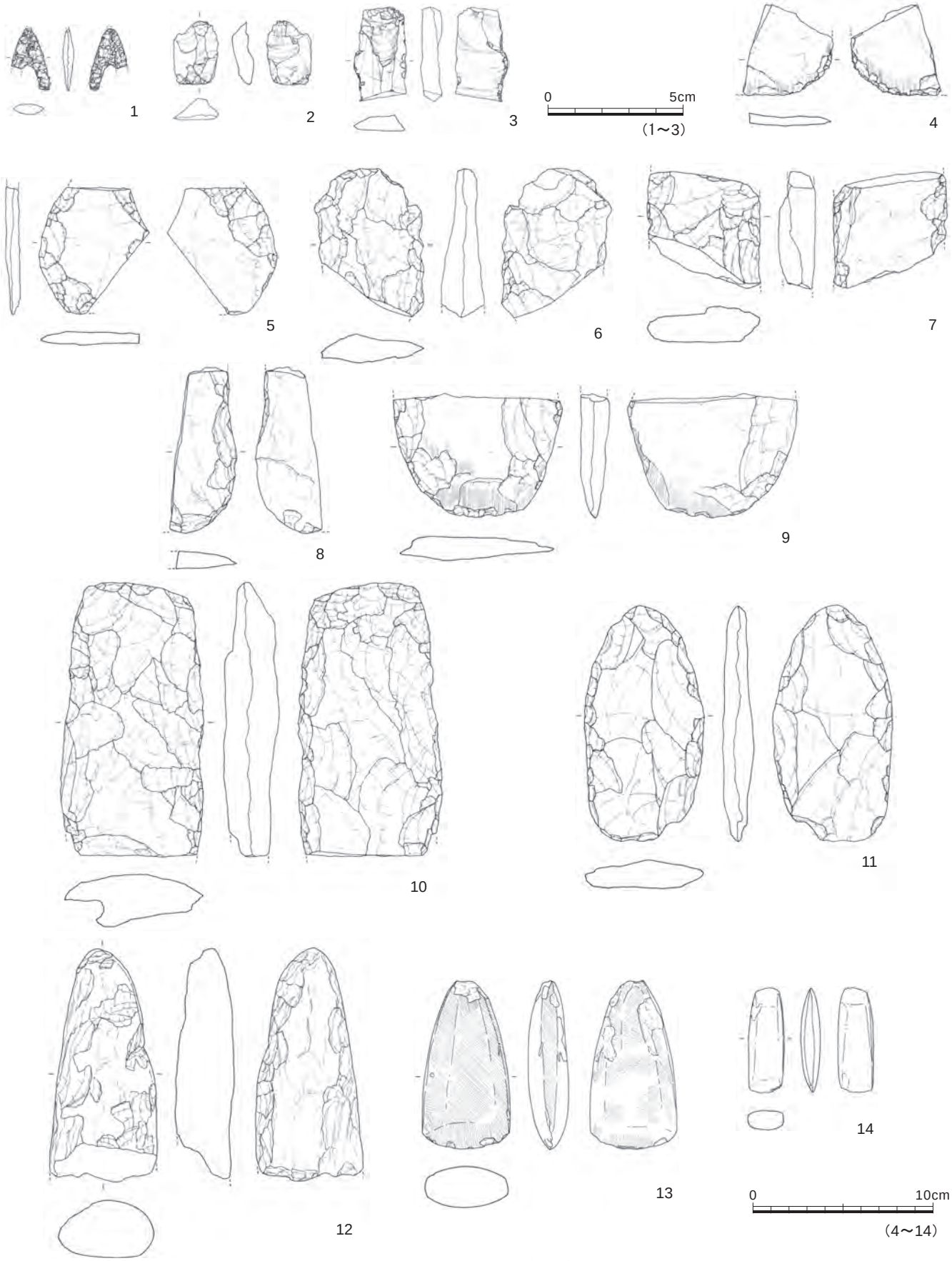
竪穴建物跡は全部で 47 軒が確認された。これらはその出土遺物から、主に古墳時代後期（1 ～ 15・18・19・22 ～ 31・37 ～ 41・44・45 号）・奈良時代（20・21・32 ～ 37・42・43・46・47 号）・平安時代（16・17 号）の 3 時期のものが見られる。

大多数を占める古墳時代後期の竪穴建物跡は、一辺約 10 mを測る大型のもの（5 号）を中心として、そのまわりに一辺 5 ～ 6 mの中型、一辺 3 ～ 4 mの小型のものが配置されており、この時期の集落内の建物配置を考えるうえで興味深い。これら竪穴建物跡や掘立柱建物跡その他の遺構群は、調査区の北半分すなわち谷の入口に近い部分に集中してつくられている。対して谷奥の標高が高い部分では多数の小ピット以外には遺構が認められず、居住区域とそれ以外の区域（例えば畑地利用など）、土地の用途が明確に区別されていた可能性が考えられる点が特徴的である。また古墳時代後期および平安時代の一部の竪穴建物から鉄生産にかかわるといわれる鉄滓が出土している点も、この遺跡の特徴といえよう。

なお、各遺構の時期や性格等については、Ｂ地点の調査結果と合わせて検討することとしたい。




第 37 図　鉄製品・鉄生産関連遺物・石製品・石器実測図 (1/2、1/3)




第 38 図　石器実測図 (1/2、1/3)

## 第 2 表　土器観察表①

| 図版番号 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 法量　cm　※（）は現存長または復元径 | | | | 調整 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径 | 胴部径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 6-1 | 1 竪 | 土師器 | 高坏 | 12.0 | - | - | (5.0) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 6-2 | 2 竪 | 須恵器 | 坏 | (11.5) | - | - | (3.3) | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BF | 良 | 暗灰色 | 暗灰色 | |
| 6-3 | 2 竪 -1・2 | 土師器 | 甕 | (21.0) | - | - | (4.1) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 暗灰茶色 | 暗灰茶色 | |
| 6-4 | 2 竪 | 土師器 | 甑 | - | - | - | (7.3) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 7-1 | 3 竪 -1 | 須恵器 | 坏 | (10.8) | - | - | 4.3 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BF | 良 | 暗灰色 | 暗灰色 | |
| 7-2 | 3 竪 -17 | 須恵器 | 短頸壺 | (12.2) | - | - | (4.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | BE | 良 | 淡灰色 | 淡灰色 | |
| 7-3 | 3 竪 -9 | 須恵器 | 提瓶 | - | - | - | (6.5) | カキ目 | ナデ | BE | 良 | 暗灰色 | 暗灰色 | |
| 7-4 | 3 竪 -19 | 土師器 | 坏 | 10.7 | - | - | 4.5 | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 7-5 | 3 竪 -21 | 土師器 | 甕 | (14.5) | - | - | (4.4) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 7-6 | 3 竪（I-4 区）、3 竪 -12 | 土師器 | 甕 | (17.8) | - | - | (5.5) | ナデ？ | ケズリ | ABCE | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 反転復元 |
| 7-7 | 3 竪 - 6 | 土師器 | 甕 | (21.4) | - | - | (3.4) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 淡黄褐色 | 淡黄褐色 | |
| 9-1 | 5 竪 -16 | 須恵器 | 坏 | (11.7) | - | - | 3.6 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ | BE | 良 | 暗青灰色 | 暗青灰色 | 最大径：13.7　底部外面にヘラ記号あり |
| 9-2 | 5 竪 | 須恵器 | 坏 | - | - | - | (1.9) | 摩滅のため不明 | 回転ナデ | BE | 良 | 暗灰色 | 暗灰色 | |
| 9-3 | 5 竪 | 須恵器 | 坏 | - | - | - | (1.2) | 回転ナデ | 回転ナデ | BF | 良 | 青灰色 | 青灰色 | |
| 9-4 | 5 竪 -19 | 須恵器 | 甕 | 22.0 | - | - | (5.8) | 回転ナデ・タタキ | 回転ナデ・当て具痕 | BE | 良 | 青灰色 | 青灰色 | |
| 9-5 | 5 竪 -12 | 土師器 | 坏 | (13.0) | - | - | (4.2) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | B | 良 | 淡橙褐色 | 淡橙褐色 | 胎土には金雲母を含む　緻密 |
| 9-6 | 5 竪 - 6 | 土師器 | 坏 | (10.0) | - | - | (3.6) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 橙褐色 | 橙褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 9-7 | 5 竪 -15 | 土師器 | 高坏 | - | - | (11.6) | (5.4) | ケズリ | ケズリ | BD | 良 | 橙褐色 | 橙褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 9-8 | 5 竪 -3 | 土師器 | 甕 | (21.0) | - | - | (5.6) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 9-9 | 5 竪 - 8・9 | 土師器 | 甕 | (17.8) | - | - | (10.2) | ハケメ | ケズリ | ABCD | 良 | 淡茶灰色 | 淡茶灰色 | |
| 9-10 | 5 竪 -25、ピット内 | 土師器 | 甕 | - | - | - | (5.7) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 暗赤褐色 | 暗褐色 | 外面には被熱痕あり |
| 9-11 | 5 竪 -20 | 土師器 | 甕 | - | - | - | (9.7) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 9-12 | 5 竪 -17 | 土師器 | 甑 | - | - | - | (10.0) | ナデ？ | ケズリ | ABCE | 良 | 明黄褐色 | 灰褐色 | |
| 9-13 | 5 竪 -21・カマド、No.25 ピット内 | 土師器 | 甑 | (27.6) | - | - | (5.4) | ナデ | ケズリ | ABC | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 9-14 | 5 竪 - 4 | 土師器 | 甑 | - | - | - | (9.9) | ハケメ、ナデ、ユビオサエ | ケズリ | ACE | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 把手部のみ |
| 10-1 | 6 竪 | 須恵器 | 坏 | (10.0) | - | - | (3.7) | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BF | 良 | 淡灰色 | 淡灰色 | |
| 10-2 | 6 竪 -13 | 土師器 | 甕 | - | - | - | (12.8) | ハケメ | ケズリ | ABCD | 良 | 黄褐色 | 黄褐色 | |
| 10-3 | 6 竪 -22、カマド | 土師器 | 甕 | (14.1) | - | - | (3.7) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 10-3 | 6 竪 -22・カマド | 土師器 | 甕 | 12.4 | (15.9) | - | (12.1) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 暗褐色 | 暗褐色 | |
| 10-5 | 6 竪 -2・6・14・18・19 | 土師器 | 甕 | (17.8) | (25.0) | - | 34.1 | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 暗褐色 | 暗褐色 | |
| 11-1 | 7 竪 -2 | 須恵器 | 坏 | 10.8 | - | - | 3.3 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 淡灰白色 | 淡灰白色 | |
| 11-2 | 7 竪 | 土師器 | 高坏 | - | - | - | (4.6) | ケズリ | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 淡橙褐色 | 淡橙褐色 | |
| 11-3 | 7 竪 -4 | 土師器 | 甕 | - | - | - | (9.6) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 淡灰褐色 | 淡灰褐色 | |
| 11-4 | 8 竪 -9 | 須恵器 | 坏 | - | - | (8.8) | (1.4) | 回転ナデ | 回転ナデ・ナデ | BF | 良 | 青灰色 | 青灰色 | |
| 11-5 | 8 竪 -4 | 須恵器 | 坏 | - | - | (9.8) | (2.3) | 回転ナデ | 回転ナデ・ナデ | BF | 良 | 青灰色 | 青灰色 | |
| 11-6 | 8 竪 -9、Ｐｉｔ内 | 土師器 | 皿 | - | - | - | (2.8) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 橙褐色 | 橙褐色 | |
| 11-7 | 8 竪 | 土師器 | 坏 | - | - | (11.0) | (1.4) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | ABCD | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | 底面ヘラ切り |
| 11-8 | 8 竪 -2 | 土師器 | 甕 | (13.4) | - | - | (3.3) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 暗褐色 | 暗褐色 | |
| 11-9 | 8 竪 -6 | 土師器 | 甕 | (15.4) | - | - | (4.9) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡黄褐色 | 淡黄褐色 | |
| 11-10 | 8 竪 | 白磁 | 碗 | (13.0) | - | - | (2.8) | - | - | - | 良 | 白灰褐色 | 白灰褐色 | |
| 11-11 | 8 竪 | 白磁 | 碗 | (16.4) | - | - | (2.6) | - | - | - | 良 | 白灰褐色 | 白灰褐色 | |
| 12-1 | 9 竪 -12 | 須恵器 | 坏 | (10.5) | - | - | 4.0 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 暗緑灰色 | 暗緑灰色 | 底面外部にヘラ記号あり |
| 12-2 | 9 竪 | 須恵器 | 甕 | (18.2) | - | - | (3.1) | ナデ | ナデ | BE | 良 | 青紫褐色 | 青紫褐色 | |
| 12-3 | 9 竪 -7 | 土師器 | 甕 | - | - | - | (7.6) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 13-1 | 10 竪 -1 | 須恵器 | 坏蓋 | (12.0) | - | - | 4.0 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 緑灰色 | 緑灰色 | 甲部外面にヘラ記号あり |
| 13-2 | 10 竪 -22 | 須恵器 | 坏蓋 | (11.6) | - | - | (3.0) | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BH | 良 | 暗青灰色 | 暗青灰色 | |
| 13-3 | 10 竪 | 須恵器 | 坏蓋 | (12.0) | - | - | (2.4) | 回転ナデ | 回転ナデ | BE | 良 | 暗青灰色 | 暗青灰色 | |
| 13-4 | 10 竪 | 須恵器 | 坏 | (10.8) | - | - | (2.7) | 回転ナデ | 回転ナデ | BF | 良 | 淡灰色 | 淡灰色 | |
| 13-5 | 10 竪 | 土師器 | 坏 | (10.6) | - | - | (3.1) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 橙褐色 | 橙褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 13-6 | 10 竪 | 土師器 | 坏 | (10.8) | - | - | (3.7) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | B | 良 | 橙褐色 | 橙褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 13-7 | 10 竪 -11 | 土師器 | 高坏 | - | - | - | (4.2) | ケズリ | ケズリ | BD | 良 | 橙褐色 | 橙褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 13-8 | 10 竪 -6 | 土師器 | 甕 | (13.7) | - | - | (7.3) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 暗褐色 | 暗褐色 | |
| 13-9 | 10 竪 -3、19 | 土師器 | 甕 | (20.7) | - | - | (13.5) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 13-10 | 10 竪 -17 | 土師器 | 甕 | (21.0) | - | - | (10.0) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 14-1 | 11 竪 -1 | 土師器 | 甕 | - | 25.7 | - | (24.0) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 15-1 | 14 竪 -7・カマド | 須恵器 | 坏蓋 | (12.2) | - | - | 3.9 | 回転・手持ちヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BF | 良 | 淡青灰色 | 淡青灰色 | |
| 15-2 | 14 竪 | 須恵器 | 脚付壺 | - | 13.9 | - | (9.3) | ヘラケズリ | 回転ナデ | BE | 良 | 暗灰色 | 暗灰色 | 肩部に 1 条の沈線あり |
| 15-3 | 14 竪 -18 | 土師器 | 坏 | 11.8 | - | - | 3.9 | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 淡橙灰色 | 淡橙灰色 | |
| 15-4 | 15 竪 -2 | 須恵器 | 坏 | 10.2 | - | - | 3.2 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 青灰色 | 青灰色 | 最大径：12.2 |
| 15-5 | 15 竪 -3 | 土師器 | 甕 | (22.8) | - | - | (12.5) | ハケメ、横ナデ | ケズリ | BCDE | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |

胎土…A：角閃石　B：石英　C：長石　D：赤色粒子　E：白色粒子　F：黒色粒子　G：雲母　H：砂粒

## 第 3 表　土器観察表②

| 図版番号 | 遺構名 | 種別 | 器種 | 法量　()は現存長または復元径 | | | | 調整 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 口径 | 胴部径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | | | 外面 | 内面 | |
| 16-1 | 17 竪 | 白磁 | 小皿 | 10.0 | - | 4.4 | 2.5 | - | - | - | 良 | 灰白色 | 灰白色 | 完形　ひずみ有り　内面に沈線１条有り　内面底部は指で釉を掻き落とす |
| 16-2 | 17 竪 | 白磁 | 碗 | (18.0) | - | - | (5.3) | - | - | - | 良 | 灰白色 | 灰白色 | |
| 16-3 | 17 竪Ｐ内 -16 | 青磁 | 小皿 | 10.0 | - | - | 1.9 | - | - | - | 良 | 淡緑灰色 | 淡緑灰色 | 底部外面は釉掻き落とし |
| 16-4 | 17 竪 -24・26・P 内 33・、8 竪 -（G-3 区）、D-3 区 P3、16・17 田竪 | 須恵器 | 四耳壺 | 10.0 | - | - | (21.0) | 回転ヨコナデ、ヘラケズリ | 回転ヨコナデ | F | 良 | 浅黄色 | 浅黄色 | 耳は１つのみ残存 |
| 17-1 | 19 竪 E-5 区、25 竪 | 須恵器 | 壺 | - | (10.4) | - | (5.8) | 回転ナデ、回転ヘラケズリ | 回転ナデ | E | 良 | 暗灰色 | 暗灰色 | 反転復元 |
| 17-2 | 19 竪 8 | 須恵器 | 甕 | (23.2) | - | - | (7.8) | 回転ナデ、タタキ | 回転ナデ、当て具痕 | E | 良 | 灰色 | 灰色 | 反転復元 |
| 17-3 | 19 竪 -14・16・17 | 土師器 | 甕 | (21.2) | - | - | (8.7) | ナデ | ケズリ | ABCE | 良 | 淡黄色 | 淡黄色 | 反転復元 |
| 17-4 | 19 竪 | 白磁 | 碗 | 17.6 | - | - | (4.9) | - | - | - | 良 | 灰白色 | 灰白色 | |
| 18-1 | 20 竪 -7 | 須恵器 | 坏蓋 | 13.0 | - | - | 1.9 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 暗青灰色 | 暗青灰色 | |
| 18-2 | 20 竪 -1 | 須恵器 | 皿 | (17.6) | - | (14.2) | 2.5 | 手持ちヘラケズリ・回転ナデ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 淡暗灰色 | 淡暗灰色 | |
| 19-1 | 22 竪 -1・7 | 須恵器？ | 坏 | (10.6) | - | - | 5.0 | 回転ヘラケズリ | 摩滅のため不明 | AB | 不良 | 淡灰色 | 淡灰色 | 生焼須恵器または土師器 |
| 19-2 | 22 竪 -1・14 | 土師器 | 坏 | 10.4 | - | - | 4.9 | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 淡茶灰色 | 淡茶灰色 | |
| 20-1 | 24 竪 -8 | 土師器 | 坏 | (11.8) | - | - | (4.7) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | ACD | 良 | にぶい橙色 | 浅黄橙色 | 反転復元 |
| 20-2 | 24 竪 -4 | 土師器 | 甕 | (14.7) | - | - | (9.6) | ナデ？ | ケズリ、ユビオサエ | ABCAE | 良 | 橙色 | 灰褐色 | 被熱痕あり　反転復元 |
| 20-3 | 24 竪 -7 カマド | 土師器 | 甕 | (20.0) | (23.2) | - | (20.5) | ハケメ | ケズリ | ABCD | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 20-4 | 25 竪 -4 | 土師器 | 坏 | (13.7) | - | - | (5.0) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | AC | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 胎土緻密　反転復元 |
| 20-5 | 25 竪 -10 | 土師器 | 高坏 | - | - | - | (4.8) | ケズリ | ナデ？ | A | 良 | 橙色 | 橙色 | 胎土緻密　一部反転復元 |
| 20-6 | 25 竪（C・D-5 区） | 土師器 | 埦 | (14.7) | (15.0) | - | 8.4 | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | D | 良 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 胎土緻密　一部反転復元 |
| 20-7 | 25 竪 -12・14 | 土師器 | 甕 | 15.1 | - | - | (7.6) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 暗黒褐色 | 暗黒褐色 | |
| 20-8 | 25竪-10、25竪（C･D-5区） | 土師器 | 甕 | (19.0) | - | - | (6.5) | ナデ | ケズリ | ABCDE | 良 | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 反転復元 |
| 20-9 | 25 竪 -7、26 竪 -1 | 土師器 | 甕 | (12.8) | - | - | (4.4) | ヨコナデ | ケズリ | ABCE | 良 | にぶい黄橙色 | 黒褐色 | 反転復元 |
| 21-1 | 26 竪 - 3 | 土師器 | 坏 | 11.0 | - | - | 4.2 | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | B | 良 | 淡褐色 | 灰褐色 | 胎土緻密 |
| 21-2 | 26 竪 - 8 | 土師器 | 高坏 | - | - | - | (7.3) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明、しぼり痕あり | A | 良 | 淡黄色 | 淡黄色 | 脚部のみ　一部反転復元 |
| 21-3 | 26 竪 -2 | 土師器 | 甑 | - | - | - | (15.3) | ハケメ、ナデ | ケズリ | ACE | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 外面に黒斑あり　反転復元 |
| 21-4 | 27 竪 -1・2 | 須恵器 | 坏蓋 | 12.2 | - | - | 3.8 | 回転・手持ちヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 青灰色 | 青灰色 | |
| 21-5 | 27 竪 -2・13 | 須恵器 | 坏蓋 | (12.0) | - | - | (3.9) | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 暗青灰色 | 暗青灰色 | 甲部外面にヘラ記号あり |
| 21-6 | 27 竪 -2・39 | 須恵器 | 盌 | 9.9 | - | - | 6.7 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BF | 良 | 灰白色 | 灰白色 | 底部外面にヘラ記号あり |
| 21-7 | 27 竪 -2-2・16・20・36・41 | 須恵器 | 甕 | (23.0) | - | - | (9.8) | 回転ナデ、平行タタキのちカキ目 | 回転ナデ、当て具痕 | BE | 良 | 黄灰色 | 黄灰色 | 反転復元 |
| 21-8 | 27 竪 | 土師器 | 短頸壺 | (8.4) | 11.6 | - | (7.2) | タタキ | 摩滅のため不明 | B | 良 | 淡橙褐色 | 淡橙褐色 | 胎土緻密 |
| 21-9 | 27 竪 -2・42 | 土師器 | 甕 | (13.8) | - | - | (4.1) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABC | 良 | 淡茶灰色 | 淡茶灰色 | 胎土緻密 |
| 21-10 | 27 竪 -2-11・12 | 土師器 | 甕 | (20.2) | - | - | (6.5) | ヨコナデ？ | ケズリ | ABCE | 良 | 黄橙色 | 黄橙色 | 反転復元 |
| 22-1 | 28 竪 -1 | 須恵器 | 短頸壺 | (5.4) | 9.1 | - | 4.8 | 回転ヘラケズリ | ナデ | BE | 良 | 暗黒灰色 | 暗黒灰色 | |
| 22-2 | 28 竪 | 土師器 | 高坏 | - | - | 9.9 | (4.0) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | CD | 良 | 浅黄橙色 | 浅黄橙色 | 脚部のみ　胎土緻密　一部反転復元 |
| 22-3 | 28 竪 | 土師器 | 坏 | (10.0) | - | - | (4.2) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BCD | 良 | 橙色 | 橙色 | 反転復元 |
| 22-4 | 28 竪 - 3 | 土師器 | 甕 | (12.2) | - | - | (5.5) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | CD | 良 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 胎土緻密　反転復元 |
| 22-5 | 28 竪カマド - 8 | 土師器 | 甕 | 14.7 | 15.7 | - | 16.6 | ハケメ？ | ケズリ | ABCD | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 22-6 | 29 竪 | 須恵器 | 坏蓋 | (11.8) | - | - | 3.8 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 赤茶褐色 | 赤茶褐色 | 赤焼須恵器 |
| 22-7 | 29 竪 -20-21 | 土師器 | 甕 | (20.0) | - | - | (16.0) | ハケメ、ナデ | ケズリ | ACEH | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 反転復元 |
| 23-1 | 30 竪 -5、30 竪（C -3 区） | 土師器 | 甑 | - | - | - | (12.5) | ハケメ、ナデ | ケズリ | ABCE | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 外面に黒斑あり |
| 23-2 | 30 竪 - 4 | 土師器 | 甑 | - | - | 13.0 | (12.8) | ハケメ | ケズリ | ABC | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | |
| 24-1 | 34 竪 -1 | 須恵器 | 坏 | (11.8) | - | 9.4 | 3.0 | ヘラケズリ | 摩滅のため不明 | ABC | 不良 | 淡茶灰色 | 淡茶灰色 | |
| 24-2 | 34 竪 -1 | 土師器 | 坏 | 12.2 | - | 10.0 | 3.3 | 回転ヘラケズリ | 摩滅のため不明 | AB | 不良 | 淡暗灰茶色 | 淡暗灰茶色 | |
| 24-3 | 36 竪 | 土師器 | 坏 | 12.2 | - | - | 3.2 | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 淡黄橙色 | 淡黄橙色 | 胎土には金雲母を含む |
| 24-4 | 36 竪 | 土師器 | 坏 | 14.2 | - | - | 3.9 | 手持ちヘラケズリ | 摩滅のため不明 | B | 良 | 暗褐色 | 暗褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 25-1 | 38 竪 | 須恵器 | 坏蓋 | (11.2) | - | - | 3.6 | 回転ヘラケズリ | ナデ | BE | 良 | 淡灰色 | 淡灰色 | 甲部外面にヘラ記号あり |
| 25-2 | 38 竪 - 6 | 土師器 | 甕 | (20.0) | - | - | (5.3) | ヨコナデ | ケズリ | ABCE | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 反転復元 |
| 25-3 | 38 竪 - 2 | 土師器 | 甑 | (27.1) | - | - | (26.8) | ハケメ | ケズリ | ABCD | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | 把手部欠損 |
| 26-1 | 39 竪 - 4 | 須恵器 | 坏 | 11.4 | - | - | 4.5 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 青灰色 | 青灰色 | 最大径：13.5　外底にヘラ記号あり |
| 26-2 | 39 竪 -7 | 土師器 | 高坏 | - | - | - | (4.8) | ケズリ？ | ケズリ？ | D | 良 | 橙色 | 橙色 | 脚部のみ　胎土緻密 |
| 26-3 | 39 竪 -1- カマド | 土師器 | 甕 | - | (27.0) | - | (17.8) | ハケメ、ナデ | ケズリ？ | ACH | 良 | にぶい黄橙色 | にぶい黄橙色 | 反転復元 |
| 26-4 | 41 竪 -14 | 須恵器 | 坏蓋 | 13.4 | - | - | 4.1 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 青灰色 | 青灰色 | |
| 26-5 | 41 竪 - 9 | 土師器 | 甕 | (14.3) | - | - | (5.2) | ナデ？ | ケズリ | ABCE | 良 | にぶい黄橙色 | 灰黄褐色 | 被熱痕あり　　反転復元 |
| 26-6 | 39・40・41 竪 | 須恵器 | 坏 | (10.6) | - | - | 3.9 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 青紫灰色 | 青紫灰色 | 最大径：13.0 |
| 26-7 | 39 ～ 41 竪 | 須恵器 | 高坏 | 12.8 | - | (10.8) | 12.8 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BE | 良 | 紫褐色 | 紫褐色 | 坏内面にヘラ記号？あり |
| 26-8 | 39 ～ 41 竪 | 須恵器 | 高坏 | - | - | - | (9.5) | 回転ナデ | 回転ナデ、しぼり痕 | AE | 不良 | 灰白色 | 灰白色 | 脚部のみ |
| 27-1 | 42 竪 -1・4 | 土師器 | 甕 | - | (21.0) | - | (19.7) | ハケメ | ケズリ | ABCD | 良 | 暗褐色 | 暗褐色 | 口縁部～肩部欠損 |
| 28-1 | 44 竪（B -2 区Ｐ 2） | 土師器 | 甕 | (13.2) | - | - | (8.9) | 摩滅のため不明 | ケズリ | ABCD | 良 | 淡茶褐色 | 淡茶褐色 | |
| 28-2 | 45 竪 -1 | 土師器 | 埦 | - | - | 8.0 | (0.8) | 摩滅のため不明 | 摩滅のため不明 | BD | 良 | 淡褐色 | 淡褐色 | 胎土には金雲母を含む |
| 36-1 | 10 土 | 須恵器 | 坏蓋 | - | - | - | (1.8) | ナデ | ナデ | BE | 良 | 青灰色 | 青灰色 | |
| 36-2 | 14 土 - 3 | 須恵器 | 坏蓋 | 11.8 | - | - | 3.6 | 回転ヘラケズリ | 回転ナデ・ナデ | BEF | 良 | 淡灰緑色 | 淡灰緑色 | |
| 36-3 | 14 土 -10 | 土師器 | 甑 | - | - | - | (12.0) | ハケメ、ナデ | 摩滅のため不明 | ACEH | 良 | にぶい橙色 | にぶい橙色 | 把手部のみ |

胎土…A：角閃石　B：石英　C：長石　D：赤色粒子　E：白色粒子　F：黒色粒子　G：雲母　H：砂粒

## 第 4 表　鉄製品・鉄生産関連遺物観察表

| 挿図番号 | 遺構名 | 器種 | 長さ | 最大幅 | 最大厚 | 重さ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37-1 | 41 竪 -23 | 鉄鎌 | 16.7 | (2.8) | 0.3 | | |
| 37-2 | 14 竪 -1 | 鉄鎌 | (10.8) | 3.0 | 3.0 | | 刃部先端部を欠く |
| 37-3 | 38 竪 -1 | 鉄鎌 | (10.7) | 2.1 | 0.2 | | |
| 37-4 | 24 竪 -2 | 摘鎌 | 11.0 | 2.0 | 0.3 | | |
| 37-5 | 24 竪 -2 | 摘鎌 | 9.7 | 2.8 | 0.2 | | |
| 37-6 | B-2 区 P3 | 刀子 | (14.2) | 2.0 | 0.5 | | 先端部を欠く |
| 37-7 | 47 竪 | 刀子？ | (6.1) | (1.5) | 0.4 | | |
| 37-8 | 10 竪（F -3・4 区） | 鉄鏃 | (3.4) | (0.7) | (0.3) | | 鉄鏃頭部 |
| 37-9 | 10 竪（F -3・4 区） | 鉄鏃 | (4.5) | (0.5) | (0.5) | | 鉄鏃茎部 |
| 37-10 | 36 竪（B-4 区） | 鉄鏃 | (4.2) | 0.8 | 0.2 | | 鉄鏃頭部 |
| 37-11 | 5 竪（G・H-3・4 区） | 鉄鏃 | (2.6) | 0.5 | 0.5 | | 鉄鏃基部か |
| 37-12 | 5 竪（G・H-3・4 区） | 鉄鏃 | (7.7) | 0.6 | 0.4 | | 鉄鏃茎部か |
| 37-13 | 16 竪 | 鉄滓 | - | - | - | 75 | 分析（KBR3）　鍛冶滓 |
| 37-14 | 17 竪 -11 | 鉄滓 | - | - | - | 236 | 分析（KBR2）　椀形鍛冶滓 ( 含鉄) |
| 37-15 | 17 竪 -11 | 鉄滓 | - | - | - | | 椀形滓 |
| 37-16 | 18 竪（E-3 区）-11 | 鉄滓 | - | - | - | | 椀形滓 |

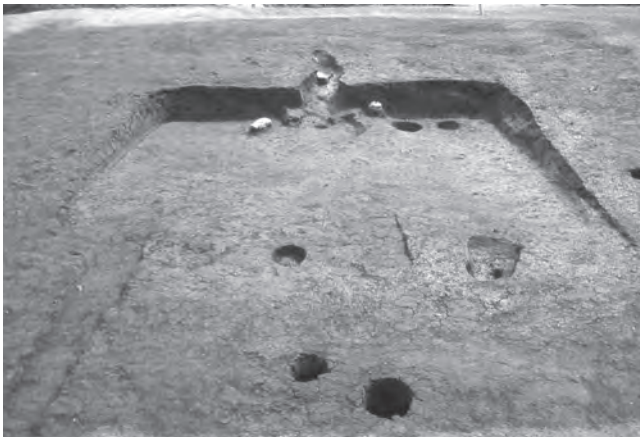
## 第 5 表　石器・石製品観察表

| 図版番号 | 遺構名 | 器種 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37-17 | 6 竪 -1 | 勾玉 | 2.20 | 1.30 | 0.70 | 2.68 | 玉髄系（メノウ） |
| 37-18 | 38 竪 -1 | 紡錘車 | 3.90 | 4.10 | 1.40 | 36.2 | 滑石 |
| 37-19 | 39・40・41 竪 | 紡錘車 | 4.10 | 4.35 | 1.60 | 56.1 | 滑石 |
| 37-20 | 7 建（E-2 区　P3） | 紡錘車 | (3.65) | (1.65) | (1.60) | (17.6) | 滑石　1/2 残存 |
| 37-21 | 14 竪 | 不明 | (4.30) | (5.20) | (1.75) | (35.7) | 滑石　破片　バレン状のつまみあり |
| 37-22 | 17 竪 | 不明 | (6.70) | (6.75) | (2.30) | (84.9) | 滑石　穿孔あり　外面にスス付着　石鍋の破片か |
| 37-23 | 39・40・41 竪 | 砥石 | 4.20 | 2.28 | 1.65 | 27.0 | 6 面使用 |
| 37-24 | 18 土 | 砥石 | 5.50 | 4.10 | 3.50 | 79.6 | 3 面使用 |
| 37-25 | 27 竪 -2 | 砥石 | 9.70 | 4.05 | 1.90 | 67.8 | 3 面使用 |
| 37-26 | 27 竪 -2・5 | 砥石 | 8.60 | 4.10 | 5.30 | 148.1 | 4 面使用 |
| 37-27 | 3 竪 | 砥石 | 6.15 | 3.60 | 1.90 | 51.4 | 5 面使用 |
| 37-28 | 24 竪 -6 | 砥石 | 6.60 | 3.50 | 2.25 | 47.5 | 5 面使用 |
| 38-1 | 6 竪（H-5 区） | 石鏃 | (2.25) | (1.40) | 0.40 | (0.85) | 黒曜石　片方の脚部欠損 |
| 38-2 | 10 竪（F-3・4 区） | 楔形石器 | 2.35 | 1.65 | 0.80 | 2.69 | 黒曜石 |
| 38-3 | 3 竪（I-4 区） | 使用痕剥片 | 3.50 | 1.95 | 0.80 | 5.97 | 黒曜石 |
| 38-4 | 14 竪（E-4 区） | 打製石斧 | (5.10) | (5.05) | 0.70 | (20.9) | |
| 38-5 | 17 竪 -P（A-3） | 打製石斧 | (7.10) | (6.15) | 0.85 | (35.5) | 安山岩 |
| 38-6 | 5 竪 -5 | 打製石斧 | (8.25) | (6.10) | (2.40) | (91.4) | 安山岩 |
| 38-7 | 8 竪（G-3 区） | 打製石斧 | (6.50) | (6.35) | 2.00 | (102.2) | 安山岩 |
| 38-8 | 包含層 | 打製石斧 | (9.20) | (3.70) | (1.00) | (54.0) | |
| 38-9 | D-3 区　P2 | 打製石斧 | (7.00) | (9.40) | (1.60) | (109.3) | 安山岩 |
| 38-10 | D-5 区表採 | 打製石斧 | (15.30) | (8.05) | (3.15) | (469.6) | 安山岩 |
| 38-11 | P-5 区　P3 | 打製石斧 | 13.15 | 6.65 | 1.75 | 153.4 | 安山岩 |
| 38-12 | 25 竪 | 磨製？石斧 | (13.00) | (5.95) | (3.35) | (373.2) | 未製品か |
| 38-13 | 31 竪 -1 | 磨製石斧 | 9.35 | 4.90 | 2.25 | 160.4 | |
| 38-14 | 19 竪 | 磨製石斧 | 5.85 | 1.95 | 1.05 | 21.2 | 石鑿か |

単位：cm、（　）は現存規模

長迫遺跡全景（南から）

写真図版 2



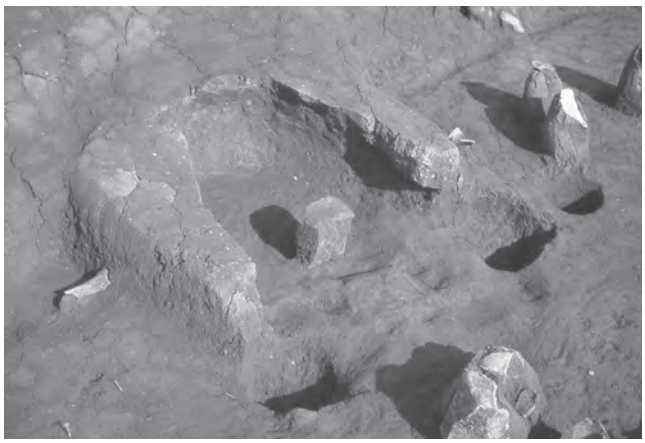
1 号竪穴建物跡（西から）

1 号竪穴建物跡カマド

2 号竪穴建物跡（西から）

2 号竪穴建物跡カマド

3 号竪穴建物跡（西から）



3 号竪穴建物跡カマド

3 号竪穴建物跡カマド

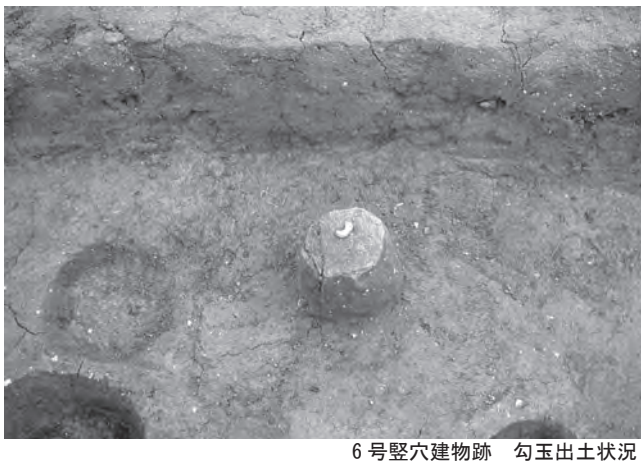
4 号竪穴建物跡、8 号土坑（西から）

5 号竪穴建物跡（南から）

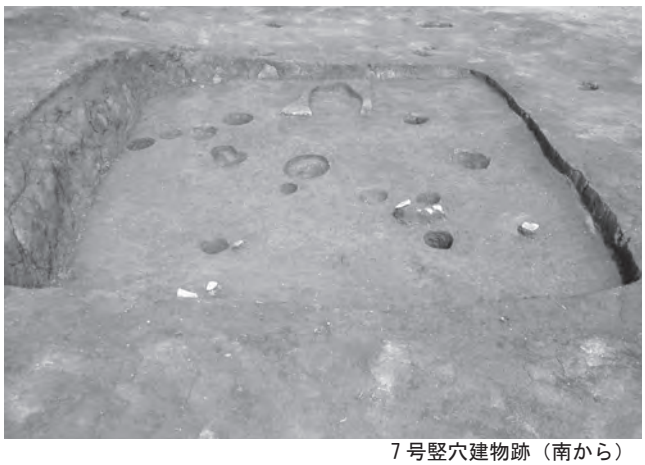
5 号竪穴建物跡カマド

6 号竪穴建物跡（西から）

6 号竪穴建物跡カマド

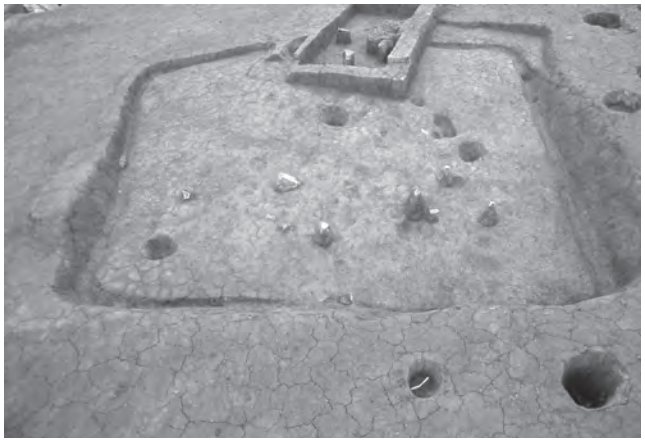


6 号竪穴建物跡　勾玉出土状況



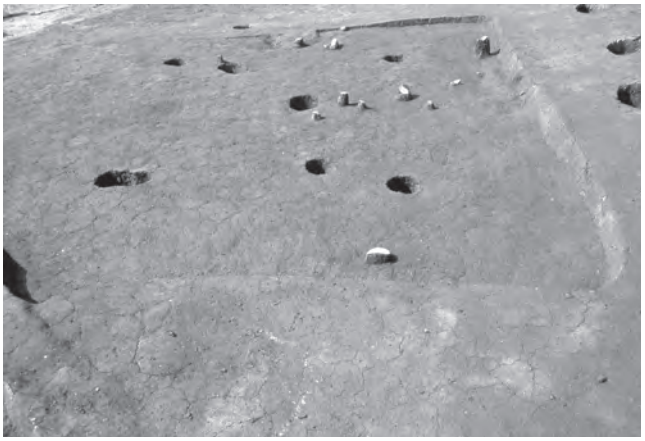
7 号竪穴建物跡（南から）

7 号竪穴建物跡カマド

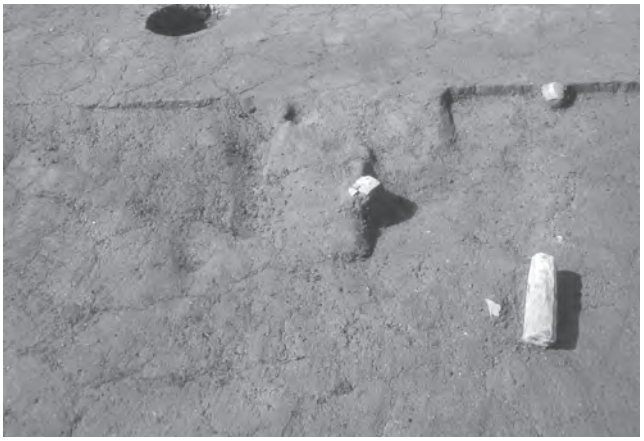


8 号竪穴建物跡（南から）

写真図版 4



9 号竪穴建物跡（南から）



9 号竪穴建物跡カマド

10 号竪穴建物跡（南東から）

10 号竪穴建物跡カマド

11・12 号竪穴建物跡（西から）

11 号竪穴建物跡　遺物出土状況

13 号竪穴建物跡（南から）

13 号竪穴建物跡カマド

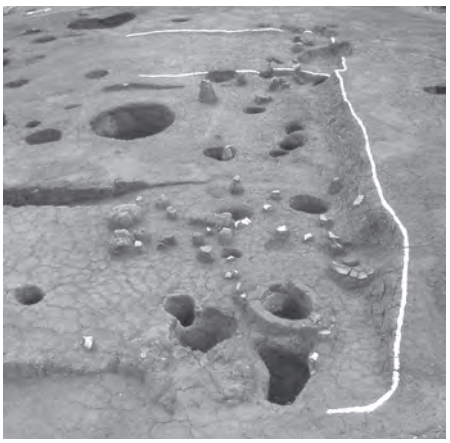
14 号竪穴建物跡（西から）

14 号竪穴建物跡カマド

14 号竪穴建物跡　鉄製品出土状況

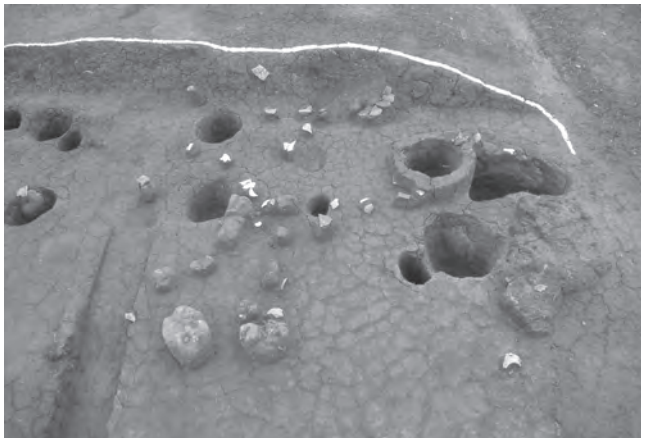
15 ～ 17 号竪穴建物跡、19 号土坑（西から）

15 号竪穴建物跡（東から）



16・17 号竪穴建物跡（南から）

17 号竪穴建物跡（西から）



17 号竪穴建物跡カマド

17 号竪穴建物跡　鉄滓出土状況

17 号竪穴建物跡　白磁小皿出出土状況

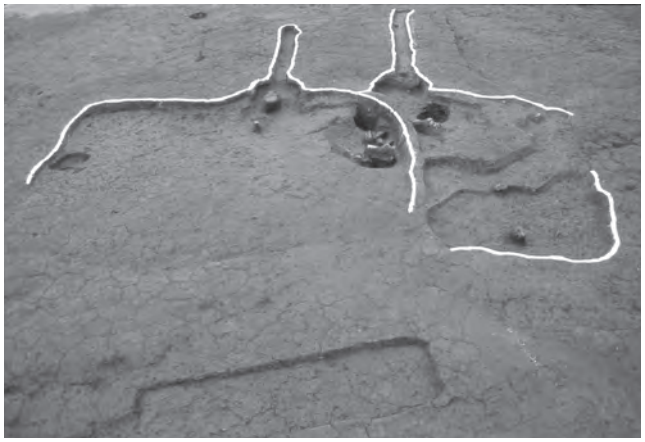
17 号竪穴建物跡　四耳壺出土状況

18 号竪穴建物跡（東から）

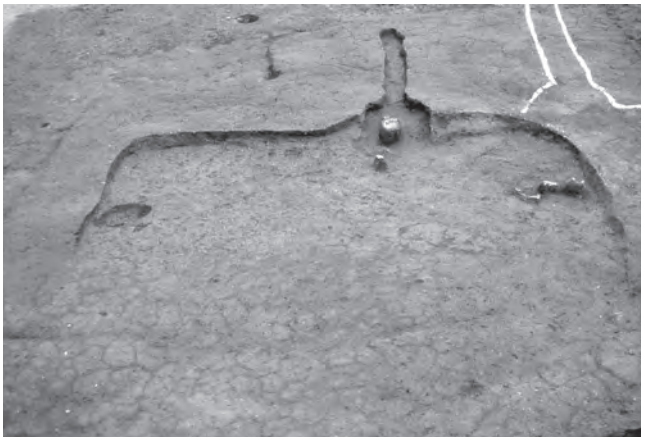
18 号竪穴建物跡カマド

19 号竪穴建物跡（南から）

19 号竪穴建物跡カマド



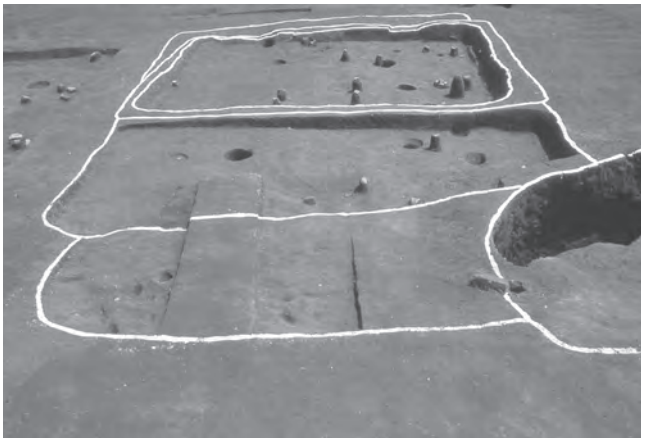
20・21 号竪穴建物跡（西から）



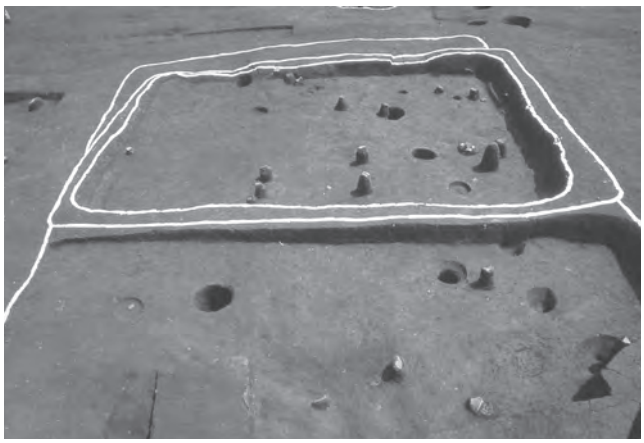
20 号竪穴建物跡（西から）

20 号竪穴建物跡カマド

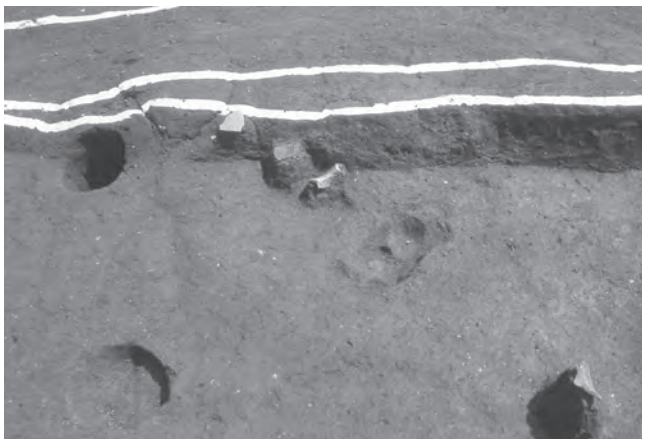
21 号竪穴建物跡カマド



22-1 ～ 3、23 号竪穴建物跡、15 号土坑（西から）

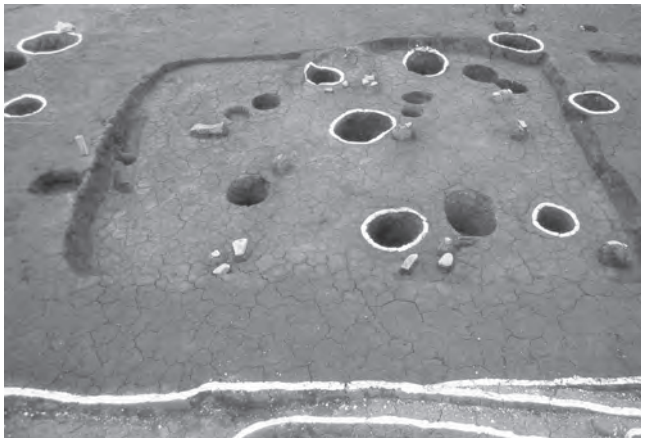


22-1 ～ 3 号竪穴建物跡（西から）



22-1 号竪穴建物跡カマド

22 - 3 号竪穴建物跡カマド



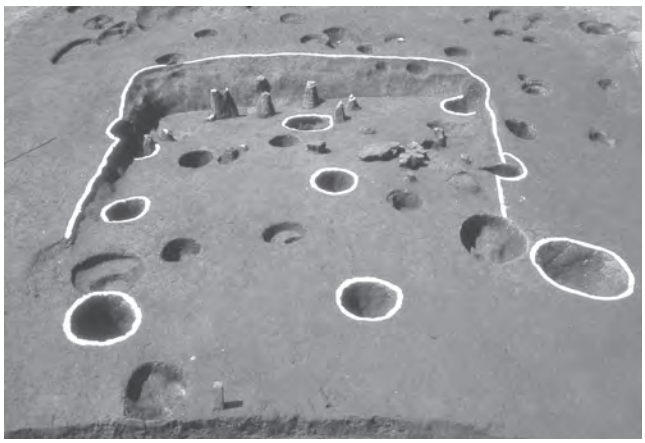
24 号竪穴建物跡、3 号掘立柱建物跡（南から）

24 号竪穴建物跡（南から）

24 号竪穴建物跡カマド

24 号竪穴建物跡　鉄製品出土状況

25 号竪穴建物跡、2 号掘立柱建物跡（北東から）



25 号竪穴建物跡、2 号掘立柱建物（南から）

25 号竪穴建物跡カマド

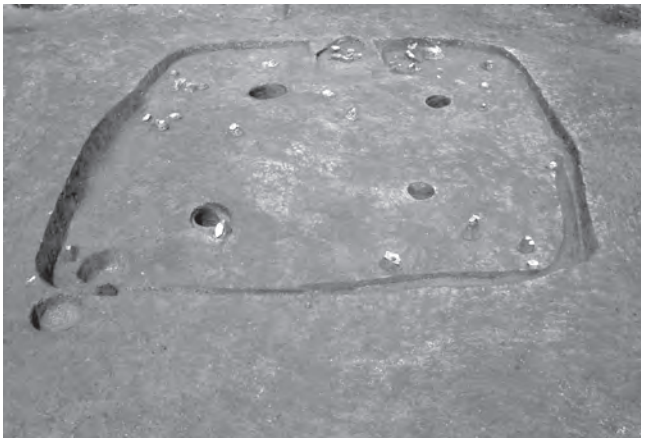
26 号竪穴建物跡（東から）

27 号竪穴建物跡、5・17 号土坑（東から）

27 号竪穴建物跡、5・17 号土坑（北から）

28 号竪穴建物跡（南から）

28 号竪穴建物跡カマド

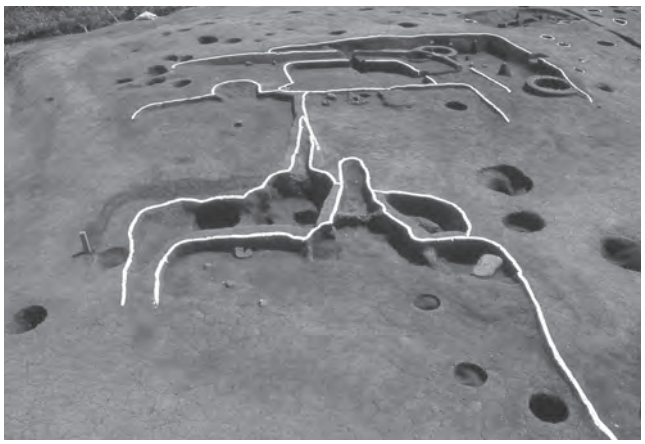


29 号竪穴建物跡（南から）

29 号竪穴建物跡カマド

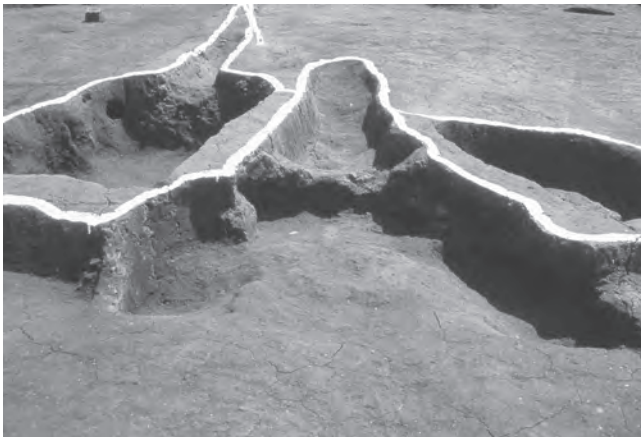
30・31 号竪穴建物跡（西から）

30 号竪穴建物跡カマド

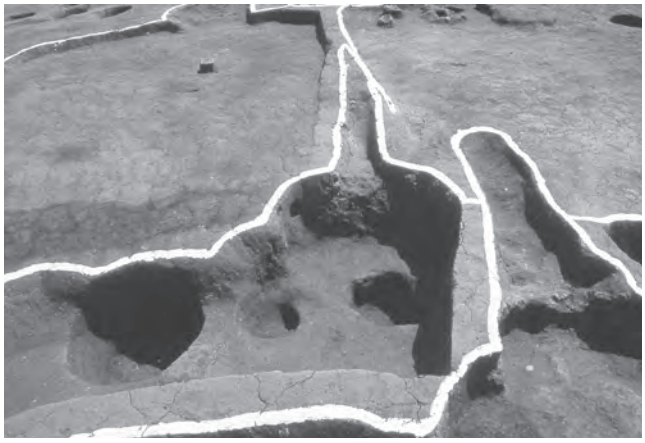


32 ～ 38 号竪穴建物跡（西から）

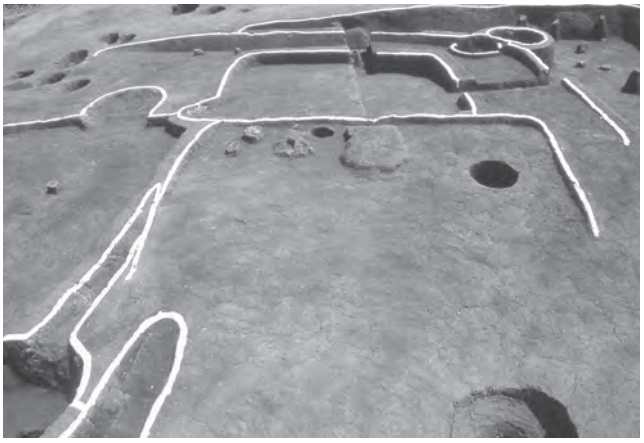
32・33 号竪穴建物跡（西から）



32 号竪穴建物跡カマド

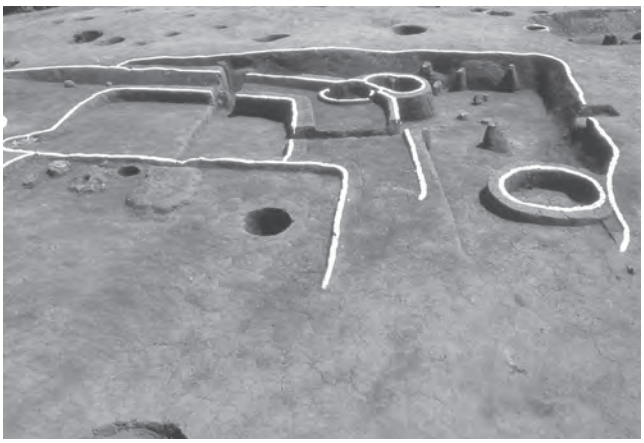


33 号竪穴建物跡カマド

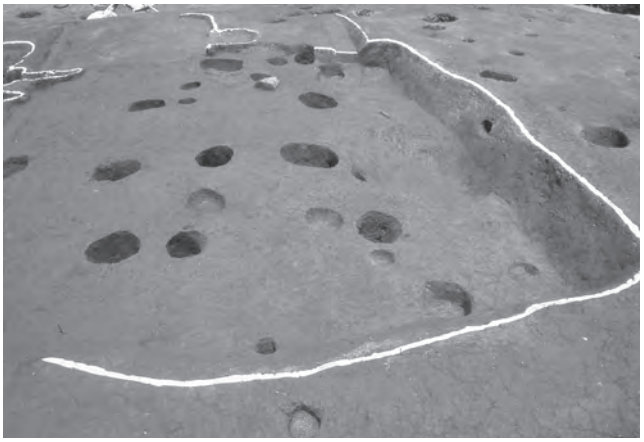


34 ～ 37 号竪穴建物跡（西から）

36 号竪穴建物跡（西から）



34・35・37・38 号竪穴建物跡（西から）



38 号竪穴建物跡（下層）（南から）

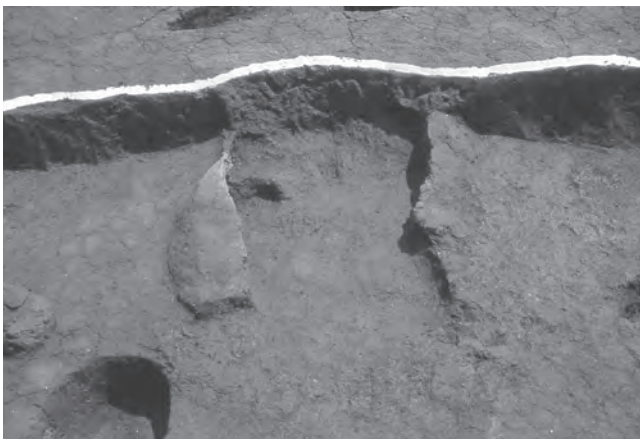
38 号竪穴建物跡（下層）遺物出土状況

38 号竪穴建物跡（下層）　鉄製品出土状況

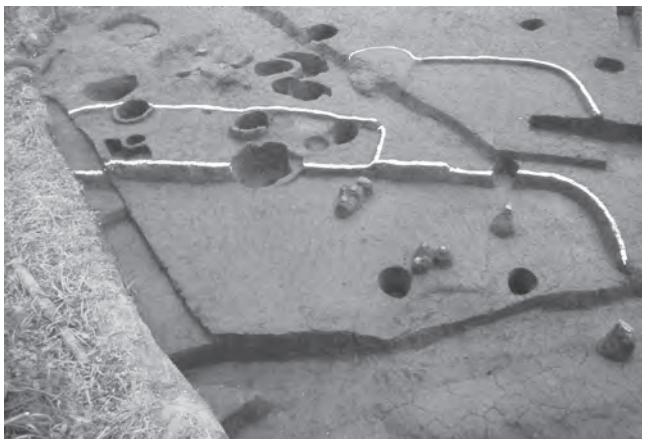
39 ～ 41 号竪穴建物跡（北から）

42・43 号竪穴建物跡（西から）

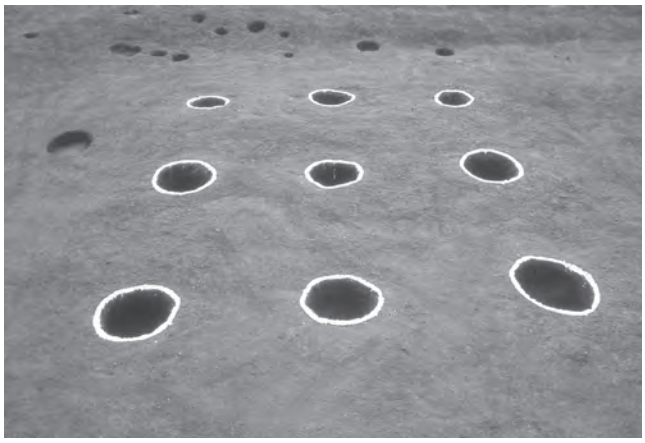
42 号竪穴建物跡カマド



43 号竪穴建物跡カマド

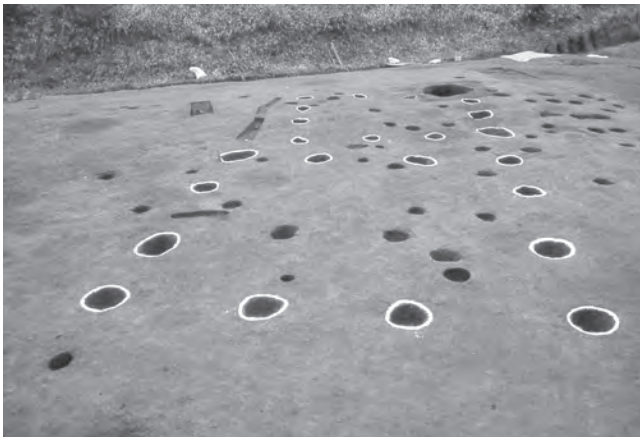


45 ～ 47 号竪穴建物跡（西から）

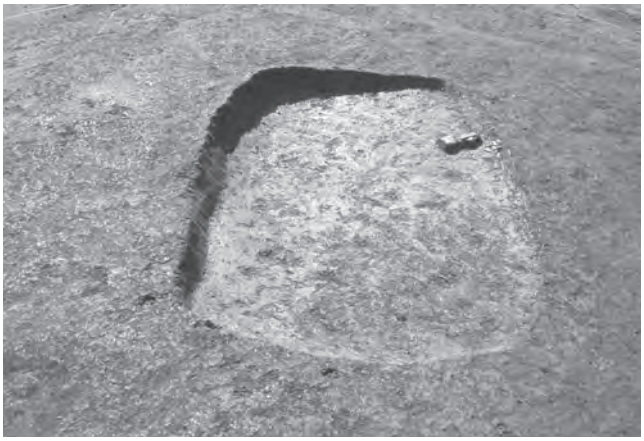


1 号掘立柱建物跡（北東から）

3 号掘立柱建物跡（南から）



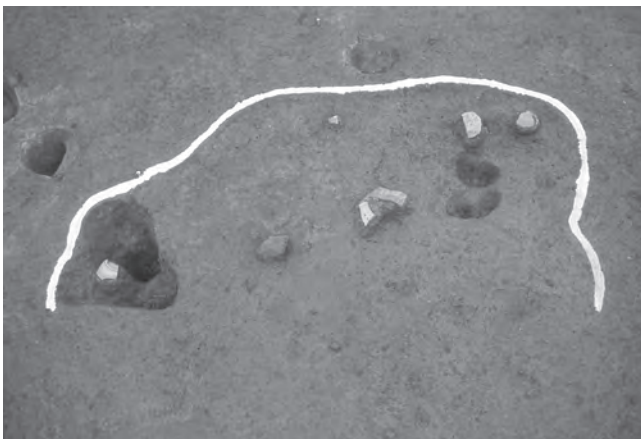
4・5 号掘立柱建物跡（西から）



1 号土坑から（北から）

2 号土坑（北から）

5・17 号土坑（東から）



6 号土坑（西から）

7 号土坑（東から）

10 号土坑（南から）

11 号土坑（西から）

6-1

7-1

9-1

7-4

9-4

9-6

9-7

9-9

10-1

10-3

10-4

10-5

11-1

11-2

11-5

11-7

12-1

13-1

13-7

13-9

13-10

15-1

15-3

15-2

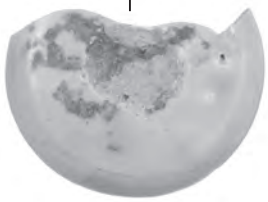
15-4

15-5

16-1

16-3

16-2



16-4

17-4

18-1

18-2

19-1

19-2

20-3

20-4

20-6

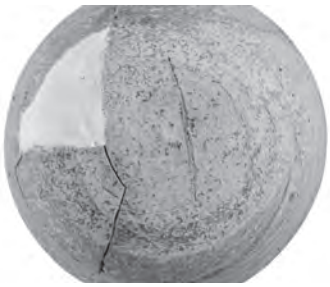
20-7

21-1

21-6

21-4

21-5



21-7

21-8

21-9

22-1

22-2

22-5

22-6

23-2

24-2

24-3

24-4

25-3

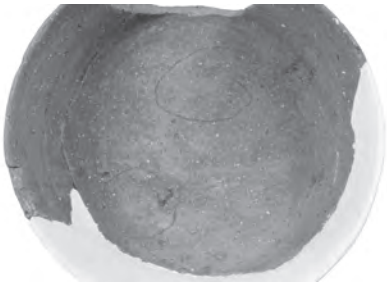
26-1

25-1

26-2

26-4

26-6



26-8

27-1

26-7

28-1

28-2

36-1

36-2

37-1

37-4

37-5

37-13

37-2

37-6

37-14

37-3

37-15

37-16

37-17

37-18

37-19

37-20

37-21

37-22

37-23

37-24

37-25

37-26

37-27

37-28

38-1

38-2

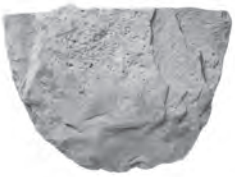
38-3

38-5

38-6

38-7

38-8


38-9

38-10

38-11

38-12

38-13

38-14

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ながさこいせき えーちてん |
| 書名 | 長迫遺跡Ａ地点 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 日田市埋蔵文化財調査報告書／ウッドコンビナート建設推進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第 109 集／８ |
| 編著者名 | 行時　桂子 |
| 編集機関 | 日田市教育庁文化財保護課 |
| 所在地 | 〒 877-0077　日田市南友田町 516-1　　0973(24)7171 |
| 発行年月日 | 2013 年 3 月 29 日 |

| 所収遺跡名（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 長迫遺跡（ながさこ）（Ａ地点（ちてん）） | 大分県日田市（おおいたけんひたし）大字有田（おおあざありた） | 44204 | 204223 | 33°　19′　37″ | 130°　58′　1″ | 19961216 ～ 19970724 | 6,650 ㎡ | 記録保存調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 長迫遺跡（Ａ地点） | 集落 | 古墳～古代 | 竪穴建物跡 47 軒、掘立柱建物跡７棟、井戸２基、土坑 20 基、溝３条 | 土師器、須恵器、白磁、青磁、石製品（紡錘車、勾玉）、石器（剥片、打製石斧、磨製石斧、砥石）、鉄製品（鉄鏃、刀子、鎌、摘鎌）、鉄滓 | 古墳時代後期・平安時代の竪穴建物跡より鉄滓が出土している。 |


**要　約**

長迫遺跡は日田盆地東部の阿蘇溶岩台地上、求来里川によって生成された沖積地から東部丘陵に向かって入り込む二股に分岐した谷一帯に位置し、今回報告するＡ地点はそのうちの南側の谷をさす。

調査では竪穴建物跡 47 軒、掘立柱建物跡７棟、井戸２基、土坑 20 基、溝３条が確認され、出土遺物から大まかに古墳時代後期～平安時代の集落跡と考えられる。

遺構配置の状況からは、特に古墳時代後期について、一辺約 10 mほどの大型竪穴建物跡の周囲に規模の小さな竪穴建物跡が見られ、この時期の集落内の建物配置を考える上で興味深い。さらに、谷奥の高い部分には多数の小ピットのみで居住に関わる遺構が全く存在しないことから、居住地ではなく畑作など生産地として土地の使い分けが行われていた可能性が考えられる。

また、古墳時代後期および平安時代の一部の竪穴建物跡からは鉄滓が出土しており、鉄生産との関連もうかがえる。

# 長迫遺跡 A地点

日田市埋蔵文化財調査報告書　第109集

2013年3月29日

編　集 日田市教育庁文化財保護課
〒877-0077　大分県日田市南友田町516-1
発　行 日田市教育委員会
〒877-8601　大分県日田市田島2-6-1
印　刷 山本印刷有限会社
〒877-0059　大分県日田市大日町3986-3

日 田 市

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association